

2021年度版

東洋大学 ボランティア支援室年報

TOYO University Volunteer Support Office 2021 Annual Report



東洋大学

東洋大学ボランティア支援室開設5年目の活動について

ボランティア支援室長 森田 明美

東洋大学は、教育理念の中で「主体的に社会の課題に取り組む」人間の育成を大きな柱としてきました。また、前身である哲学館の創立直後より「余資なく、優暇なき者」のために『哲学館講義録』を刊行し、館外員制度を設けて「社会教育」を行い、現在の通信教育へと継承してきました。このように東洋大学は、社会貢献を建学の精神を具現するための柱の一つとし、人材育成をしてきた大学です。

そして、21世紀の大学にとって、地域社会から厚い信頼を受け支援されることが必要条件で、そのためにも積極的な社会貢献を進めることが期待されています。それは地域社会のためであると同時に、大学自身のためでもあると言えます。本学は、3万人超の学生を擁する総合大学です。大学に蓄積された人的・知的資源を供出し、これらを必要としている地域に支援を届ける1つの方法が、学生によるボランティア活動であると思われます。

東洋大学では、既に様々なボランティア活動が展開されています。複数の学生団体、教員・学生によるゼミ他の活動は、多岐に亘ります。しかし、対外的に見ればこれら全てが東洋大学のボランティア活動となります。これらの活動を一元的に把握する部署がないため、今、どこでどのような団体が、どういった活動をしているか、大学全体としては、把握できていないのが現状でした。

そこで、これらの活動をはじめめる前に、ボランティア支援室にお知らせいただき、情報が閲覧できる環境を整えるとともに、これらを把握し、本学の活動を外部に発信していくことにより、社会貢献活動の一層の充実を図ることに繋がるのではないかと考え支援の仕組みを作りました。

2017年度ボランティア支援室開設初年度の学生支援は、手探りでしたが、白山キャンパス2万人の学生に対し、ボランティア活動を希望する学生への相談対応を中心に行いました。

また、本学の学生にボランティアとして来てもらいたい団体の申し込み受付および相談窓口となり、適切な場所に学生を送り出していました。実際、ボランティア活動に出て行く学生の安全確保のためには、大学としても受け入れから、準備、実施中の相談、とりわけ危機管理体制の構築を含む多様なバックアップ体制の整備が不可欠です。大学が学生のボランティア活動を支援しなければ、学生の様々な活動は発展せず、大学生の協力を必要としている方々へ活動を届け続けるのは難しい状況になります。

そこで、これらの活動を実施するために専門のスタッフを配置し、ボランティア先の開拓、学生とのマッチングに加え、実施後の検証、まとめ、実施報告などを連続的に実施してきました。また、ボランティア支援室では、大学のボランティア活動の中期・長期的な方向性を策定し、さらに学生や卒業生、地域に向けた様々な企画を検討することで、大学が設置するボランティア支援室の機能を果たしてきました。前述の活動は、ボランティア支援室に設置した専門部会や運営委員会の先生方を中心に検討を重ね、学生に対するボランティア活動の支援策を策定していただきました。

ボランティア支援室の開設は、多くの教職員の方々に支えられながら、学内にボランティア活動の拠点を組織化するための挑戦でした。

2年の活動を積み重ねて、3年目の2019年度には、東洋大学学生課外活動育成会費などを更に活用し、活動を充実させることができるようになりました。また、初めてボランティア活動をする学生の支援としてToyo 1Dayボランティアの実施やボランティア支援室の活動に学生の声を反映させるために学生イベントスタッフを育成し様々な企画に協力を得ました。また、東洋大学ボランティアWEEKでは、人権週間を含む15日間に人権尊重やボランティアに関する講座を全キャンパスで開講しました。この他にも学生と教員の協働活動は様々な地域と分野で展開しました。

こうした経験をもとに、4年目の2020年度は、一層その活動を積み重ね、発展させ、東洋大学ボランティア活動、活動支援のスタイルを確立させる年にしたいと考えていました。けれども残念なことにコロナ禍の中で、ボランティア活動の中核となる形である対面、フィールドに出ることがほとんどできない1年になってしまいました。そこで、非対面でできる活動を工夫して行うことを中心に計画し、実施しました。

5年目の2021年度の活動も残念ながらコロナ禍が蔓延するなかでの活動になりました。非対面と対面いずれの活動においても、これまで以上の工夫と事前の打ち合わせなどの努力を経て行われたものです。工夫するという大変さも、計画がボランティアをするもの受けるものといった双方にとって安全で安心できる活動であり、また有意義なものになるように、ボランティア支援室のスタッフが全力を挙げて支援にあたった結果、やっとなできた活動です。そうした意味で、これらの活動の意義は、これまで以上に大きなものであると思います。ただ、コロナ対応も2年目となったことで、オンライン化への対応も学生たちへの浸透が進みました。どのようにその工夫が進んだのか、対面活動を実施するための挑戦によって得られたもの、結果として対面に至らなかったけれども非対面で実施することを選びつないだ実践などもあります。学生たちは原則4年間の限られた期間での活動になります。多くの4年生は、2年生の年度末からオンライン活動が始まった世代です。4年生は、ほとんどサブリーダーとしての経験や覚悟をすることなく最高学年となりました。彼らは、リーダーとして苦渋の決断を迫られ、次の世代への引継ぎ方を考えることが求められました。本当に大変だったと思います。大学のボランティア活動はどのような形で次の世代へ継承されていくのか、そこで大切にしなければならないことは何なのかが見えてきます。

どうぞご一読いただき、ご意見を頂戴できれば幸いです。

目次

●東洋大学ボランティア支援室開設5年目の活動について	1
●目次	3
●2021年度 ボランティア支援室 活動内容・利用状況	4
●活動内容・各企画概要	
1 2021年度ボランティア系サークルオンラインサロン	20
2 ボランティア支援室ガイダンス	21
3 SDGsアンバサダー座談会(プレ企画)	22
4 ボランティアサークル秋のオンラインサロン2021	23
5 東京2020オリンピック・パラリンピック 学生ボランティア報告会	24
6 「Hands to Hands 2021ーみんなで乗り越える、コロナ禍ー」	26
7 コロナ禍における学生支援「100円弁当」プロジェクト	29
8 東洋大学公開講座「防災の思想」(オープン講座)	35
9 中野区・東洋大学連携事業 少年・少女野球教室	36
10 社会貢献活動 助成表彰式・報告会・SDGs コンテスト表彰式	38
11 「先輩に聞く!ボランティアのファーストステップ〜コロナ禍の中、どうしてる?〜」	40
12 「世の中、SDGsというけれど…なにをする?〜東洋大学SDGsアンバサダーにヒントをもらおう!〜」	41
13 「防災知識をアップデート!〜日常からできる防災〜」	43
14 「聞いてみよう、東北の魅力!つくってみよう、自分の東北! ー『またきてね、またきます。』私にとっての故郷ができますようにー」	44
15 東洋大生がワークショップで考えるSDGs	46
16 カードゲーム「2030 SDGs」	48
17 Toyo オンラインボランティアプログラム2021「フィリピンの若者とつくるSDGsアクション!」	50
18 東洋大生がワークショップで考えるSDGs〜イルカ・クジラの世界から見つめるSDGs〜【オンライン】	53
19 カードゲーム「2030 SDGs」	55
20 東洋大生がワークショップで考えるSDGs	57
21 Toyo オンラインボランティアプログラム2021「海を守るのは君だ!〜家から参加できるSDGsボランティア〜」	59
22 東洋大生がワークショップで考えるSDGs「SDGsの意義と限界:労働相談現場から見えてきたこと」	61
23 東洋大生がワークショップで考えるSDGs〜教育現場からジェンダーを考えてみよう〜	64
24 デイキャンプで遊ぼう会(千葉県の下郷と大学の共同デイキャンプ)	68
25 福島県の子どもに寄り添うプログラム	69
26 南三陸の若者と東洋大学生が考える被災地支援	71
27 東洋大学課外活動育成会「地震、火災、風水害そしてコロナ〜『複合災害』にどう備える?〜」	73
28 東洋SDGsコンテスト	75
29 「SDGsに関わる環境教育(Environmental Education toward SDGs)ーユネスコエコパークとジオパーク」	77
30 「『好き』を通じてフクシを変える、社会を変える〜動画の力で福祉のみらいをデザインする〜」	79
31 ボランティア入門講座	80
32 「食品ロス削減と保存料〜SDGs目標12の推進〜」	82
33 「子どもの貧困への挑戦ー社会的養護の現場での取り組みから考える」	83
34 子ども支援学演習ⅢB/ⅣB公開講座「SDGsカードゲームを通じてSDGs×人権を学ぶ」	85
35 「知的障害特別支援学校におけるICTの利活用:読む、聞く、話す、書くへの支援」	86
36 CSR論/環境コミュニケーション論 公開講座「企業と人権」	87
37 Hands to Hands 2021「敷島製パン(株)からのご支援!学生の皆さんにパンをお配りします」	88
●2021年度 ボランティア支援室 各企画資料	91
●2021年度 ボランティア支援室 資料・記録	
ボランティア支援室 ガイダンスの実施	104
東洋大学ボランティア支援室要項	105
ボランティア支援室運営委員会委員名簿・専門部会委員名簿	108
2021年度 ボランティア支援室専門部会活動記録	110
東洋大学ボランティア支援室に対する外部評価結果	112

2021年度 ボランティア支援室 活動内容・利用状況

ボランティア支援室における活動を振り返って

東洋大学ボランティア支援室は、開設5年目を迎えました。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けた1年間でしたが、ビデオ会議ツール等を活用し、非対面でありながらも活動が行える環境を整え、以下の取り組みを重点的に進めました。

【主な取り組み】

1：ボランティア等情報の全学生への発信

本学の課外活動に関する新型コロナウイルス対応方針により、対面によるボランティア活動情報の掲示見合わせ措置をとらざるを得ない状況が続きましたが、学内授業支援システムである「ToyoNet-ACE」の「ガクチカサプリ」において、オンライン等で活動できるボランティア情報やイベントなどについての情報提供と学生の参加意欲の向上に力を入れました。

また、今年度には東洋大学社会貢献センター公式Instagramアカウントが開設され、そこでボランティア支援室の各種情報を発信するなど、学生への情報のリーチや、情報をより魅力的に表現することに注力しました。

2：ボランティア・コーディネーターによる相談対応

ボランティア・コーディネーターの産休・育休に伴い、11月より新コーディネーターが着任し、2名のボランティア・コーディネーターによる相談体制を確保し、引き続き学生へのボランティア相談対応を行いました。

昨年度に引き続きオンライン相談窓口を開設し、白山キャンパスのみならず、全学・全キャンパスの学生からのボランティア相談が行えるように継続していました。

また、11月より学内における新型コロナウイルス感染症の行動レベルの緩和により、キャンパスへ登校する学生が増え、ボランティア支援室へ足を運んだ学生も増えました。学生の話聞き、対面によるボランティア相談にも対応しました。

3：ボランティア活動促進のための講座、イベント等の実施

ボランティア入門講座を1回、SDGsワークショップを計5回実施しました（2022年3月末時点）。

10月から11月にかけて、従来の「東洋大学ボランティアWEEK」を改める形で「東洋大学SDGs Weeks 2021」を実施しました。そのなか、ボランティア活動やSDGsに関する「講演・ワークショップ」「学生企画」などを、4キャンパス（白山、朝霞、川越、板倉）で実施しました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、ボランティア活動の一端を体験することを目的とした「Toyoオンラインボランティアプログラム」を、2プログラム計6日間設定。プログラムに参加した学生がその後サポートスタッフとして関わったり、SDGsコンテストに作品を応募したりするなどの動きにつながるとともに、ボランティア支援室学生サポートスタッフやボランティアサークルがボランティアプログラムの企画運営に参画する機会を創出することを試みました。

4：授業におけるボランティアセミナー等の実施

ボランティア支援室のボランティア・コーディネーターがオンライン授業（リアルタイム配信）に登壇し、ボランティア活動に関する入門的な講義・ワークショップやコメントーションなどを計13回実施しました。なお、今年度新たに講義を行った科目が3科目あり、また英語クラスへの対応も行いました。

5：学生スタッフ（サポートスタッフ）の育成

学生のボランティア活動や社会貢献活動に関する理解を深めリーダーシップの涵養を図ることと、ボランティア支援室の活動の学生へのアプローチ力を高めるための試みとして、ボランティア支援室学生サポートスタッフ（以下、サポートスタッフ）による活動展開が継続されています。今年度は秋学期以降、新たに9名が加わり計15名（うち2名活動休止中）で活動を行いました。

今年度はボランティアカフェ（後述）の運営をサポートスタッフが担ったほか、学内ボランティアサークル間の交流のためのオンラインサロンの企画運営、そして毎回のミーティングにおいて「ボランティアコーディネーション力検定」（特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会運営）の公式テキストの読み合わせを行いながら、ボランティア活動への理解を深め、日頃の活動に応用できるよう試みました。

6：交流会の実施

＜ボラカフェ（ボランティアカフェ）＞を、今年度よりサポートスタッフが運営を手掛ける方式としました。回数こそ4回と昨年度と比べて減りましたが、学生の参加・参画の機会を新たに創出することとなりました。

ボランティアサークル間の横のつながりを強めるために、4月と9月にオンラインサロンを実施しました。特に9月の開催では、SDGsアンバサダーのあり方について、制度に追従するだけでなく学生自身が自ら考え、意見を表明する機会として意義の大きなものとなりました。

7：SDGsに関連した取り組み

6月6日に本学で採択された「SDGs憲章」に伴い、本学の「SDGsアンバサダー」に登録された学生たちが活動を開始しました。現時点ではアンバサダーとしての意思決定の方法が明確化されていないため、主だった動きには発展していませんが、アンバサダー学生間の座談会の実施、そこから企画に発展するなどの動きがありました。今後は「参加」から「参画」「創造」のプロセスを描けるためのロールモデルをいくつか生み出せるような働きかけが課題となっています。

昨年度と同様に、「東洋大生がワークショップで学ぶSDGs」と題した学びの場を計5回開催しました。SDGsワークショップは毎回多様な分野の講師を招き、SDGs全般に関する基礎をはじめ、海や陸の豊かさ、労働問題、ジェンダー格差などSDGsのゴールに関する様々な社会問題を切り口に、学生にSDGsへの理解を深め、身近なこととして捉えることに繋がりました。

「SDGsコンテスト」では、SDGsにまつわる川柳・短歌、ポスター、動画を募集し、学生から多数の応募がありました。応募作品に対して学生による投票と教員による選考を行い、最終的に総合評価によって優秀作品が決定され表彰を行いました。このように、オンラインツールを活用し、学生の参加の機会を創ることにつながりました。

8：コロナ禍における学生への食事支援

学生・教職員が一体となってコロナ禍を乗り越えていこうという学長のメッセージのもと、卒業生の協力も仰ぎながらコロナ禍で苦しい生活を強いられている学生への支援の取り組みとして、今年度も「Hands to Hands 2021ーみんなで乗り越える、コロナ禍ー」と題したフードパントリーの取り組みを行いました。

さらに、今年度は新たに学生生協とタイアップする形での「100円弁当プロジェクト」や、白山キャンパス付近の福祉施設で製作されるパンの販売も実現され、販売時に学生ボランティアの協力を募りながら、全学生への支援を進めました。

9：他機関・地域・他大学等との連携

2021年4月より、毎月1回程度実施された文京区学生支援担当者連絡会の会合に出席しています。5月には本学が当番校となり、ボランティア支援室の取り組みを区内大学関係者に共有しました。

また、連絡会の活動の集大成的位置付けとして、12月に跡見学園女子大学地域交流センター主催のシンポジウム「コロナ禍における大学の地域交流活動の展開可能性」に全面協力の形で連携しました。ボランティア支援室サポートスタッフをはじめ、社会福祉学科のゼミ、ボランティアサークル2団体がシンポジウムでそれぞれの活動を発表し、文京区の地域活動を行う関係者や、区内他大学の学生たちと関係を築き、交流を深める貴重な機会となりました。

10：その他

各事業の実施については、ボランティア支援室だけではなく、学生部等学内の関係部署・団体との連携・協働を図り、さまざまな活動や事業のスムーズな実施を心がけました。

ボランティア・コーディネーター 日比野 勲
陶 嘉禱

2021年度

東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフの取り組み

東洋大学ボランティア支援室のような大学ボランティアセンターは、1995年の阪神・淡路大震災を皮切りに全国の大学に設置されるようになり、2021年度時点でおよそ170*¹のセンターが各キャンパスに設置されるに至っています。このうち、先進的な実践を積み重ねている大学ボランティアセンターでは、学生スタッフ（または学生コーディネーター）を設置する動きが見られ、学生目線によるボランティア活動推進のための取り組みが進められています。

本学においては、「ボランティア支援室サポートスタッフ（以下、サポートスタッフと表記）」が2019年度より活動を開始しました。2021年度は新たに9名が加わり、活動方針も明文化され、活躍の幅も広がったことにより大きな飛躍を遂げた1年となりました。本稿では、サポートスタッフの2021年度の取り組みについてまとめます。

【概括】

2021年度は4年生1名、3年生3名、2年生4名、1年生6名の計14名で活動を行いました。

引き続き、コロナ禍により非対面での活動を中心にしながら、サポートスタッフ間で議論を重ね、「今よりもっとボランティアが応援される社会」をビジョン（目指す社会像）に掲げ、「学生目線でボランティアの知識や魅力を発信する」取り組みを行うことをミッション（役割）として掲げました。

サポートスタッフの学生は、ボランティアに興味・関心を抱いており、皆ボランティア活動を心から楽しんでしています。そのため、サポートスタッフの活動を含めたボランティア活動に対し、自発的に取り組んでいる学生が多く、いつも活気があります。サポートスタッフの学生はボランティア活動経験が豊富な学生が多いのですが、加入当初はボランティア活動未経験の学生もたくさんいました。私自身も加入当初、ボランティア活動経験がほとんどなかったのですが、加入したことで多くの先輩方にボランティア活動の魅力を教わり、これからの活動や生活にも活かせるようなこともたくさん学ぶことができました。

【2021年度のサポートスタッフの取り組み】

サポートスタッフは、2021年度は以下の2つの軸に沿った活動を行いました。

1 ボランティア活動について学ぶ活動

- (1) 定例ミーティングにおける、ボランティア勉強会
- (2) その他、学内外のボランティア研修等への参加・参画

2 ボランティア活動の魅力を発信する活動

- (1) 「東洋大学ボランティアカフェ」（ボラカフェ）の企画運営
- (2) その他のボランティア支援室主催事業への参画
- (3) 授業等における登壇
- (4) 大学近隣の地域交流活動への参画

【ボランティア活動について学ぶ活動】

(1) ボランティア活動の本質的理解のための勉強会

サポートスタッフは、週1回のペースで実施する定例ミーティング*²の際に、ボランティアについての本質的理解を目的に、「ボランティアコーディネーション力検定」*³公式テキスト*⁴を使って勉強会を行いました。ミーティングの始まる前、テキストのあらかじめ決められた範囲の中で各自が気になった部

分を抜き出し、その文を選んだ理由をgoogleドキュメントにまとめておきます。そしてミーティング時には、抜き出した文と理由を読み上げ、その他の参加者は共感できる点や質問をコメントとして書き込みます。そのようにしてあるテーマに対して議論し、理解を深めていきます。

● 年間を通じての気づき

- 一人暮らし高齢者のふれあい会食会における事例を扱った際、「多様な人材を巻き込む・発掘する」というボランティアコーディネーターの関わり方の視点が挙げられていました。その視点の中の「だめもとで声をかけていくフットワークが大切なのです」という文に対して、当初ボランティアは自発性が前提となるため、活動者が集まるのをただひたすら待つのが最善だと考えていました。しかしこの視点を知り、参加したいけど参加しづらい、そもそも存在を知らなければ参加できないという意見が挙がり、誰かに活動への参加を呼びかけることは、そのことをきっかけに参加した人の自発性を損なうことにはならないことを知りました。それ以来イベント等を企画する際はさまざまな友人に声をかけ存在を知ってもらうことを意識するようになりました。勉強会で学んだことが実際に役に立った良い事例だと思います。

- 「『やらなくてはいけない』から『やりたい』に変わった」。これこそが勉強会を通してもっとも強く感じたことでした。

勉強会は、本を用いてボランティアの原則などを勉強すると同時に、メンバーがそれぞれのボランティア活動で感じたことを話し合うという時間にもなっています。そのため、自分よりも多くのボランティア経験を持つ先輩のお話もたくさん聴くことができました。その中でも特に私の心に残っている言葉は「私は楽しいからボランティアをしているの!」という、当時4年生だった先輩の言葉です。私は、このお話を勉強会で聴くまでずっと、ボランティアは困っている誰かのためにやらなくてはいけないものだと考えていました。しかし、楽しそうに話をする先輩を見て、強い使命感を持っていない自分でもやりたいことをボランティアでやってもいいのだと考えるようになりました。この出来事以降、今まで持っていたボランティアへの固いイメージが趣味のような身近なイメージへと変わり、学生にボランティアの魅力を伝える際に、そのことを必ず伝えるようにしています。

- 内容が難しく議論についていけないのではないかと不安がありましたが、相手から学ぶだけでなく、意見をまとめて発表する機会を持つことで、今の自分がどのような考えを持っているのかを改めて知ることができたと思います。

例えば、私は今まで「人の役に立っているということがボランティアの楽しさだ」と考えていました。しかし、勉強会で他のメンバーの考えに触れているうちに、ボランティアの楽しさには他者への貢献だけでなく、経験を得ることや人との関わりそのものが含まれていると気づきました。

(2) その他、学内外のボランティア研修等への参加・参画

大学ボランティアセンター学生スタッフとしての役割の理解や、活動のためのスキルアップを目的に、本学ボランティアコーディネーターが実行委員として関わっていた「学生ボラのためのスタッフ研修（主催：日本財団学生ボランティアセンター（Gakuvo）*5）」に、サポートスタッフが参加・参画しました。

本研修は三部構成で、すべてオンラインでの開催となりました。

● 「プレゼン力を磨く!ボランティア興味ゼロの聞き手の共感を呼ぶプレゼンの仕方」

日 時：2022年2月24日（木）14:00~17:00

ゲ ス ト：三輪 開人氏（「100%共感プレゼン」著者、e-education代表）

内 容：「いつも同じメンバーで活動していて広がりが無い」「新入生が入ってこない」そんな悩みを抱えている学生向けに、プレゼンについての講義とトレーニングで学びました。

● 「キャリアを考える!活動経験とキャリアデザインを繋ぐ方法～ボランティア・社会活動経験はキャリアデザインにどのように活かされるのか?～」

日 時：2022年3月3日（木）19：00～21：00

ゲ ス ト：橋本 空 さん（町田市地域活動サポートオフィス、法政大学卒）

小野 航汰 さん（広告代理店勤務、静岡県立大学卒）

渡邊 蛍都（総合情報学科4年、ボランティア支援室サポートスタッフ）

コーディネーター：天野 浩史 さん（NPO法人ESUNE代表理事）

内 容：ゲストによる経験とキャリアの関係についてのトークセッションを実施。冒頭は準備した問いを、途中からは参加学生からのチャットを通じた質問や感想をコーディネーターが拾い、ゲストと考えを深めました。

● メインセッション

「コーディネート力を磨く 学生ボラのためのスタッフ研修」

日 時：2022年3月16日（水）13：00～18：00

内 容：

(1) 全体会「ボランティア活動の『無償性』をみんなで考える」

コーディネーター：日比野 勲（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）

山崎 紗矢香（生活支援学科2年、ボランティア支援室サポートスタッフ）

竹内 美佳子 さん（法政大学現代福祉学科2年、IVUSA多摩クラブクラブマネージャー）

今回の全体会では、「アルバイトとボランティアの違い」、「『無償』だからこそそのボランティア活動の『価値』」についてグループで話し合い、最後にそれぞれひとりで「『無償』だからこそそのボランティア活動の『価値』」をまとめました。「自由度が高い」「関わる人の幅広さ」「フラットな人間関係」などの意見が挙がりました。

私は本企画を通じ、日頃ボランティアが好きで、楽しさを感じているけれど言語化することが難しかった「『無償』だからこそその魅力」について、自分自身の考えを深め、多くの人と共有することができました。今後は、この言語化できた考えを、より多くの人に伝えることでボランティアの魅力を知ってもらい、ボランティアの輪を繋げていきたいです。

(2) 分科会

参加者は、以下の2つからいずれかを選択し参加しました。

1 「オンラインのあたたかい場づくり」

2 「ソーシャル企画づくりのコツ 社会に小さな変化をつくるための立案から広報まで」

(3) 交流会

ここまでのセッションを共有した参加者間の交流を一層深めるため、関心のあるボランティア活動分野ごとにブレイクアウトルームに分かれ交流会を行いました。

進 行：戸田 桃香（国際地域学科1年、ボランティア支援室サポートスタッフ）

保科 歩美 さん（神奈川大学4年）

【ボランティア活動の魅力を発信する活動】

(1) 「東洋大学ボランティアカフェ」(ボラカフェ)の企画運営

今年度より、ボラカフェの企画運営をサポートスタッフが担うこととなりました。

サポートスタッフがテーマを決定し、都度サポートスタッフの中から数名が企画メンバーとなり、運営を行う形で進めました。詳細は、本書40ページからの報告をご覧ください。

(2) その他のボランティア支援室主催事業への参画

以下のボランティア支援室主催事業に、サポートスタッフが参画しました。

- ボランティアサークルオンラインサロン (本書20ページを参照)
- Toyo オンラインボランティアプログラム「海を守るのは君だ! 一家から参加できるSDGs ボランティア」(本書59ページを参照)

(3) 授業等における登壇

ボランティア支援室では、ボランティアコーディネーターを授業に派遣し講義等を行う取り組みを行っていますが、2021年度は「ボランティア活動入門」(社会心理学科 榊原圭子教授担当科目)において、コーディネーターとともにサポートスタッフ4名が登壇しました。

また、受講生から授業後に寄せられた質問に対し、ボランティアコーディネーターとサポートスタッフとで、回答動画を製作する試みを行いました。

新型コロナウイルスの影響で学生同士が交流する機会がとても少ない中、受講生からの質問やコメントで考えを共有することができました。いただいたコメントを拝見すると、サポートスタッフに関心を抱きボランティアを始めたきっかけについて質問をしてくれた受講生が多く見られました。

質問に対する回答動画ではサポートスタッフ全員が自身の経験について、興味を持ったきっかけ、ボランティアの探し方、大変だったことなどを語りました。ボランティアに関わる動機や、始め方はさまざまでしたが、サポートスタッフに共通していたことは、取り組みたいと思うボランティアを調べたり、人に相談したりして、自分から行動を起こしていたことです。ボランティアはやらされるものではなく、自ら行動する自発性が重要であることを改めて感じました。

また、「やらない善よりやる偽善」というテーマから、ボランティアに対する向き合い方について話し合いました。サポートスタッフ自身とても考えさせられるテーマでした。ボランティアをしていると、自分は何のために取り組んでいるのだろうと考えさせられたり、なぜ人のために時間を割いて全力を注げるのかと聞かれたりすることがあります。しかし、サポートスタッフが口を揃えて言ったことは、ボランティアを始めていない人はまず行動することが大事だということです。なぜなら、ボランティアに参加すると人とのつながりを得られたり、楽しいと感じたりできるボランティアの魅力を、サポートスタッフは経験してきたからです。ボランティアは金銭面や精神面で見返りを求めるものではないと考えられがちですが、結果として精神的に成長することができ、それがモチベーションにつながることもあります。他方、ボランティアの経験が豊富な人の場合は、偽善という見方もある中で、誰もが平等な立場に関わることでできるボランティアをより良い形に発展させていくことが大事だという結論に至りました。

授業ではたくさんの質問をいただき、サポートスタッフ自身改めてボランティアに向かう姿勢を考えさせられ受講生と意見を共有する貴重な機会となりました。「してあげよう」ではなく、「同じ立場で一緒に活動したい」という思いでボランティアに参加できるきっかけづくりをサポートスタッフは続けていこうと思います。

(4) 大学近隣の地域交流活動への参画

2021年度ボランティア支援室は、文京区学生支援担当者連絡会を通じた文京区内の大学間・地域連携を進め、以下の両企画にサポートスタッフが参画しました。

● 2021年度第2回文京区学生支援担当者連絡会

日時：2021年5月24日（月）13：30～15：00

会場：東洋大学白山キャンパス 甫水会館301教室、およびオンライン会場

内容：東洋大学ボランティア支援室および学生サポートスタッフの取り組み紹介、東洋大学学生ボランティアサークルの活動紹介を行いました。（学生はオンラインで登壇しました）

● 跡見学園女子大学シンポジウム「コロナ禍における大学の地域交流活動の展開可能性」

日時：2021年12月25日（土）13：00～16：00

会場：跡見学園女子大学文京キャンパス ブロッサムホール

主催：跡見学園女子大学 地域交流センター

内容：本シンポジウムに、サポートスタッフは以下のように関わりました。

a) ポスターセッションのためのポスター製作

サポートスタッフの活動を1枚のポスターにまとめ、シンポジウム会場ロビーに掲出しました。

b) シンポジウム第2部「大学に求めること—活動の担い手に聞く—」における発表

渡邊蛭都（総合情報学科4年）、杉本昂熙（経営学科3年）の両名により「今よりもっとボランティアが応援される社会」をテーマに、サポートスタッフの取り組みを報告しました。

執筆：

永瀬 広大（社会学部社会福祉学科1年）

朝原 優真（社会学部社会福祉学科1年）

山崎紗矢香（ライフデザイン学部生活支援学科2年）

瀬野 晴仁（経済学部総合政策学科2年）

宮下 亜美（国際学部グローバルイノベーション学科3年）

日比野 勲（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）

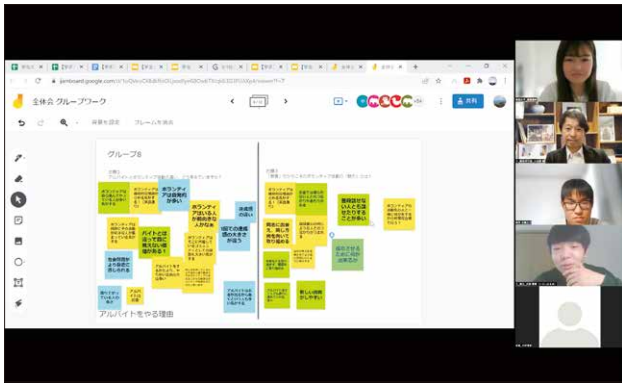
*1：特定非営利活動法人ユースビジョン「大学ボランティアセンター情報ウェブ」（<https://www.daigaku-vc.info>）をもとに、編者の持つデータを加え算出。

*2：2021年度は主にオンラインにより実施。

*3：認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会が、ボランティアコーディネーターの専門性の社会的認知向上を目的に実施している検定試験。

*4：早瀬昇・筒井のリ子著、日本ボランティアコーディネーター協会編「ボランティアコーディネーションカー市民の社会参加を支えるチカラ」（中央法規、2015）を用いた。

*5：現日本財団ボランティアセンター



Mission

以下の大学ボラセンから1つを選び、ホームページ（他の資料を参考にできる場合は、それももちろんOK!）を見て、ボラの目的や活動内容、学生スタッフの法などについて分かる範囲で調べ、東洋大の場合とを比較しながらプレゼンテーションを作成して発表してね。（時期要校議）

大学ボランティアセンターリンク
 国別で独自の歴史・経緯があり、各国の大学ボランティアセンターの長を掲載しています。
 国別リンク：[2019年12月現在]

東洋大は以下の大学ボランティアセンターと提携している場合があります。それぞれとコラボしてイベント等を行う場合、情報共有が不可欠です。ぜひ、情報共有を促してください。
 キャンパスなどセンターが設置されている場合は、それぞれとコラボしてイベント等を行う場合、情報共有が不可欠です。ぜひ、情報共有を促してください。

- ・ 鎌倉大学ボランティア・NPO活動センター
- ・ 立命館大学サービスマニエージングセンター
- ・ 学生Cの活動センター
- ・ 明治学院大学ボランティアセンター
- ・ 関西大学ボランティアセンター
- ・ 関西学院大学ボランティア活動支援センター（ヒューマンサービス支援）
- ・ 青山学院大学ボランティアセンター
- ・ 聖学院大学ボランティア活動支援センター（学生サポートセンター（サポセン）として活動）

東洋大 [1]、東洋大 [1]、東洋大 [2]
 東洋大 [3]、東洋大 [4]
 東洋大 [5]、東洋大 [6]、東洋大 [7]
 東洋大 [8]、東洋大 [9]、東洋大 [10]
 東洋大 [11]、東洋大 [12]、東洋大 [13]
 東洋大 [14]、東洋大 [15]、東洋大 [16]
 東洋大 [17]、東洋大 [18]
 東洋大 [19]、東洋大 [20]、東洋大 [21]
 東洋大 [22]、東洋大 [23]、東洋大 [24]
 東洋大 [25]、東洋大 [26]、東洋大 [27]
 東洋大 [28]、東洋大 [29]、東洋大 [30]

② ボランティアの魅力伝える活動

ボラカフェ ボランティアWEEK2019『ボラディ・インク』上映会 ボランティア入門講座 登壇

みんなで考えてみた！
最後の質問です！

Q: 「やらない善よりやる偽善」という言葉に対して、どのように考えるのか教えてください。



2021年度 ボランティア支援室活動状況

月	日	種別	業務内容
4月	18日	★	イベント 2021年度ボランティア系サークルオンラインサロン
	21日	●	会議 第1回 ボランティア支援室専門部会【書面会議】
	21日	◇	その他 白山オープン講座 「SDGsと子どもの人権 -平和・開発・人権と子どもの参加-」
	22日	◆	ガイダンス (授業協力) 国際学部国際地域学科授業「入門ゼミナール」 [実施コース：Aコース+支援室見学]
	23日	★	イベント 新1・2年生歓迎!ボランティア支援室ガイダンス①【オンライン】
	27日	◆	ガイダンス (授業協力) 社会学部社会福祉学科授業「社会福祉学基礎演習」 [実施コース：支援室見学]
	28日	★	イベント 新1・2年生歓迎!ボランティア支援室ガイダンス②【オンライン】
5月	6日	★	イベント 「Hands to Hands プロジェクト2021」物資受付開始
	8日	★	イベント 東洋大生がワークショップで考えるSDGs
	10日~24日	◇	その他 SDGsに関する認知度アンケート
	11日	●	会議 第2回 ボランティア支援室専門部会
	11日	◆	ガイダンス (授業協力) 文学部教育学科授業「大学生として学ぶ」 [実施コース：Dコース+支援室見学]
	11日	◆	ガイダンス (授業協力) 社会学部社会福祉学科授業「社会福祉学基礎演習」 [実施コース：Aコース+支援室見学]
	18日	◆	ガイダンス (授業協力) 文学部教育学科授業「大学生として学ぶ」 [実施コース：B2コース]
	20日	◆	ガイダンス (授業協力) 社会学部社会福祉学科授業「社会福祉学基礎演習」 [実施コース：未定（オンライン）] ×2時限
	28日	★	イベント ボランティアカフェ（Web） 「先輩に聞く!ボランティアのファーストステップ ～コロナ禍の中、どうしてる?～」
	31日	★	イベント 「Hands to Hands プロジェクト2021」物資受付終了（第1期）
6月	29日	◆	授業協力 社会学部社会福祉学科授業「社会福祉学基礎演習」 [実施コース：Aコース+支援室見学]
7月	3日	★	イベント SDGsアンバサダー スタートアップセミナー
	6日	●	会議 第3回 ボランティア支援室専門部会
	10日	★	イベント SDGsワークショップ カードゲーム「2030 SDGs」①
	11日	★	イベント SDGsワークショップ カードゲーム「2030 SDGs」②
	20日	◆	ガイダンス (授業協力) 社会学部社会福祉学科授業「社会福祉学基礎演習」 [実施コース：B1コース]
		◇	その他 SDGsに関する認知度アンケート集計結果
8月	4日	★	イベント SDGsアンバサダー座談会

月	日	種別	業務内容	
	9日	★	イベント Toyo オンラインボランティアプログラム2021 「フィリピンの若者とつくるSDGsアクション!」①	
	10日	★	イベント 東洋大生がワークショップで考えるSDGs ～イルカ・クジラの世界から見つめるSDGs～【オンライン】	
	17日	★	イベント Toyo オンラインボランティアプログラム2021 「フィリピンの若者とつくるSDGsアクション!」②	
	18日	★	イベント Toyo オンラインボランティアプログラム2021 「フィリピンの若者とつくるSDGsアクション!」③	
	21日	★	イベント Toyo オンラインボランティアプログラム2021 「フィリピンの若者とつくるSDGsアクション!」④	
	26日	★	イベント SDGsワークショップ カードゲーム「2030 SDGs」③	
9月	17日	●	会議 第4回 ボランティア支援室専門部会	
	20日	★	イベント ボランティアサークル 秋のオンラインサロン2021	
10月	1日～ 11月30日	★	イベント SDGs Weeks	
	1日～ 11月30日	☆	イベント ●東洋大学学生課外活動育成会企画 [白山]「東洋SDGsコンテスト」	
	4日	★	イベント [白山]「English for Study Abroad 公開講座 SDGsに関わる環境教育」(Web)	
	6日	★	イベント [白山]「『好き』を通じてフクシを変える、社会を変える」(Web)	
	7日	★	イベント ボランティア入門講座 (Web)	
	8日	★	イベント [板倉]「食品ロス削減と保存料～SDGs目標12の推進～」(Web)	
	9日	★	イベント 東洋大生がワークショップで考えるSDGs (秋)	
	12日・13日	★	イベント [白山]「子どもの貧困への挑戦 —社会的養護の現場での取り組みから考える」(Web)	
	13日	★	イベント [赤羽台]「SDGsカードゲームを通じてSDGs×人権を学ぶ」	
	19日	★	イベント [白山]「知的障害特別支援学校におけるICTの利活用： 読む、聞く、話す、書くへの支援」(Web)	
	26日	★	イベント [川越]「企業と人権」(Web)	
	30日	◇	その他 白山オープン講座 「防災の思想～避難情報廃止論と防災プラグマティズム～」	
	11月	3日	☆	イベント ●東洋大学学生課外活動育成会企画&1Day ボランティアプログラム 「デイキャンプで遊ぼう会」
		5日	★	イベント 東京2020オリンピック・パラリンピック 学生ボランティア報告会 (動画撮影・配信)
9日		◆	ガイダンス (授業協力) 社会学部社会福祉学科授業 「社会福祉学基礎演習(英語クラス)」[実施コース:支援室見学]	
9日～11日		★	イベント [Hands to Hands プロジェクト2021] 敷島製パン(株)からのご支援!学生の皆さんにパンをお配りします	

月	日	種別	業務内容
	12日	★	イベント SDGsアンバサダー座談会
	18日	●	会議 第5回 ボランティア支援室専門部会
	21日	★	イベント Toyo オンラインボランティアプログラム2021 「海を守るのは君だ! ～家から参加できるSDGs ボランティア～」①
	26日	★	イベント ボランティアカフェ (Web) 「世の中、SDGsというけれど・・・なにをする? ～東洋大学SDGsアンバサダーにヒントをもらおう!～」
12月	5日	★	イベント Toyo オンラインボランティアプログラム2021 「海を守るのは君だ! ～家から参加できるSDGs ボランティア～」②
	13日～17日	★	イベント 「Hands to Hands プロジェクト2021」 100円弁当プロジェクト!【第1期】
	23日	★	イベント SDGsワークショップ 「大学生こそ知っておくべき雇用と労働と経済 (初級編)」
	28日	★	イベント ボランティアカフェ (Web) 「防災知識をアップデート!～日常からできる防災～」
1月	8日～9日	☆	●東洋大学学生課外活動育成会企画 福島県の子どもに寄り添うプログラム
	17日～21日	★	「Hands to Hands プロジェクト2021」 100円弁当プロジェクト!【第2期】
	27日	●	会議 第6回 ボランティア支援室専門部会
2月	6日	☆	●東洋大学学生課外活動育成会企画 【白山】 防災オンラインワークショップ 「地震、火災、風水害、そしてコロナ～複合災害、どう備える?～」
	11日～13日	☆	●東洋大学学生課外活動育成会企画 被災地の大学生と東洋大生が取り組む被災地支援のあり方 【オンラインへ変更 2/13実施】
	12日	◇	その他 白山オープン講座「災害時の子どもの居場所～意義と作り方～」
	18日	★	イベント SDGsワークショップ「教育現場からジェンダーを考えてみよう」
	23日～25日	☆	●東洋大学学生課外活動育成会企画 被災地の現状を知り、復興応援!! 「いわき市の農漁業の現状を発信するスタディツアー」【中止】
3月	6日	★	SDGsアンバサダー座談会・ふりかえり
	16日	★	社会貢献活動助成表彰式・報告会・SDGs コンテスト表彰式
	17日	★	ボランティアカフェ (Web) 「聞いてみよう、東北の魅力!作ってみよう、自分の東北! -「またきてね、またきます。」私にとっての故郷ができますように-」

【種別】 ● 会議 ★ イベント (ボランティア支援室企画) ☆ イベント (東洋大学学生課外活動育成会企画)
◆ ガイダンス (授業協力) ◇ その他

その他ボランティアコーディネーター、担当職員の外部視察および外部研修等参加

月	日	種別	業務内容
4月	26日	▲ 参加	文京区学生支援担当者連絡会：文京学院大学（第1回）
5月	24日	▲ 参加	文京区学生支援担当者連絡会：東洋大学（第2回）
6月	21日	▲ 参加	文京区学生支援担当者連絡会：跡見学園 旧伊勢屋質店（第3回）
7月	26日	▲ 参加	文京区学生支援担当者連絡会：拓殖大学（第4回）
9月	28日	▲ 参加	文京区学生支援担当者連絡会：日本女子大学（第5回）
10月	16日	▲ 参加	文京区学生支援担当者連絡会：ワークスペースさきちゃんち（第6回）
11月	22日	▲ 参加	文京区学生支援担当者連絡会：文京学院大学（第7回）
12月	25日	▲ 参加	コロナ禍における大学の地域交流活動の展開可能性 【跡見学園女子大学実施企画へ参加】

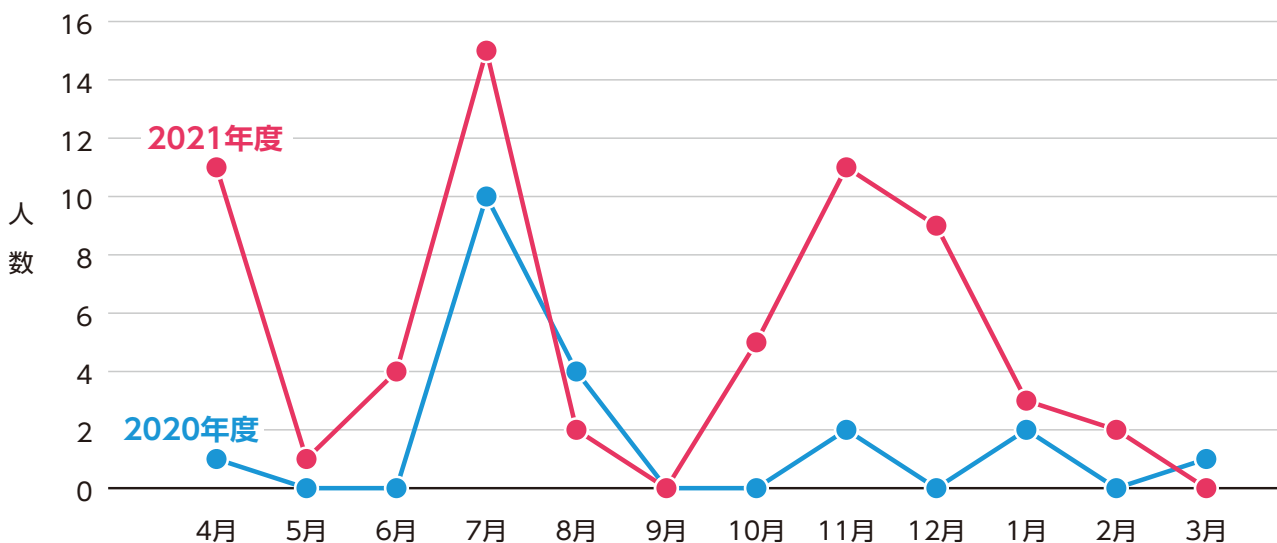
【種別】 △ 視察
▲ 参加

ボランティア支援室 2021年度 利用状況報告

(1) 学部別ボランティア支援室来訪者数（人数） ※オンライン窓口への来訪者含む

所属	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
白山キャンパス													
文学部	5	1	0	0	1	0	0	2	4	0	1	0	14
経済学部	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	1	0	5
経営学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会学部	6	0	0	15	1	0	1	8	5	2	0	0	38
国際学部	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
国際観光学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤羽台キャンパス													
情報連携学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ライフデザイン学部	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4
板倉キャンパス													
生命科学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食環境科学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川越キャンパス													
理工学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合情報学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他													
通信教育部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
記入総件数	11	1	4	15	2	0	5	11	9	3	2	0	63
(参考) 2020年度	1	0	0	10	4	0	0	2	0	2	0	1	20

ボランティア支援室 学生来訪者数（月別推移）



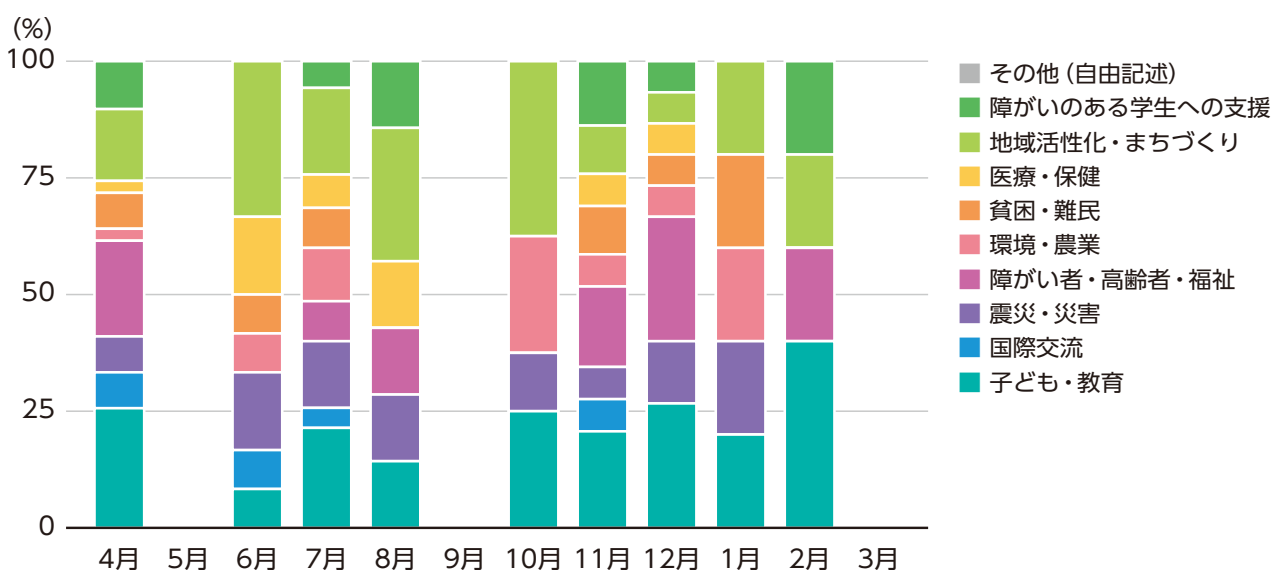
(2) ボランティア支援室来訪者の紹介経路 (件数) ※複数回答を含む

紹介元	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
ToyoNet-ACE (ガクチカサプリ)	4	1	3	8	0	0	3	5	1	2	1	0	28
ボランティア支援室 主催ガイダンス	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	5
学内掲示板	1	0	0	1	0	0	2	3	0	0	0	0	7
教職員からの紹介	3	0	0	5	1	0	0	1	3	0	1	0	14
サークルからの紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
友人・知人からの紹介	2	0	1	4	0	0	0	0	2	0	0	0	9
東洋大学 ホームページ	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	4
その他	1	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	5

(3) 学生が興味を持ったボランティア分野 (件数) ※複数回答を含む

カテゴリー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
子ども・教育	10	0	1	15	1	0	2	6	4	1	2	0	42
国際交流	3	0	1	3	0	0	0	2	0	0	0	0	9
震災・災害	3	0	2	10	1	0	1	2	2	1	0	0	22
障がい者・ 高齢者・福祉	8	0	0	6	1	0	0	5	4	0	1	0	25
環境・農業	1	0	1	8	0	0	2	2	1	1	0	0	16
貧困・難民	3	0	1	6	0	0	0	3	1	1	0	0	15
医療・保健	1	0	2	5	1	0	0	2	1	0	0	0	12
地域活性化・ まちづくり	6	0	4	13	2	0	3	3	1	1	1	0	34
障がいのある 学生への支援	4	0	0	4	1	0	0	4	1	0	1	0	15
その他 (自由記述)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

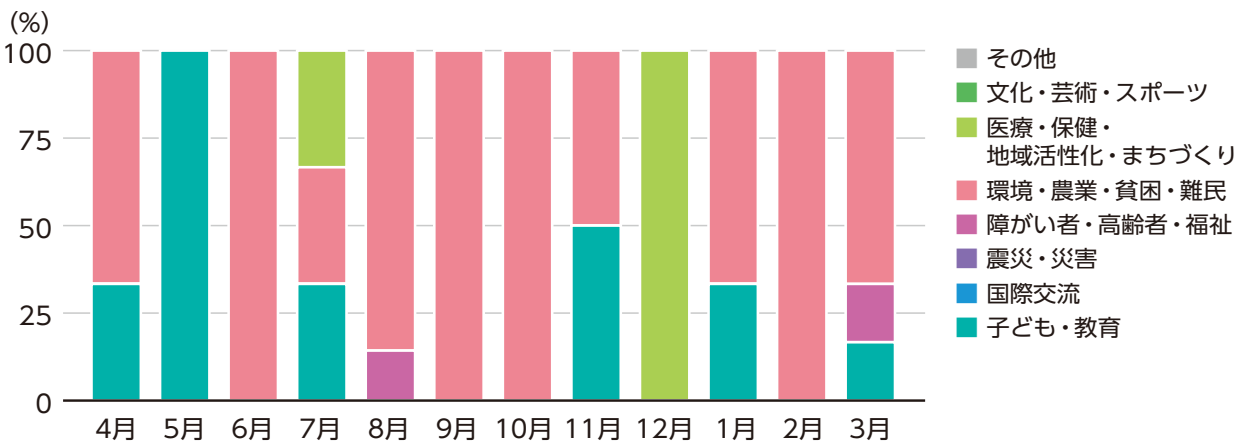
学生が興味を持ったボランティア分野 (月別比較)



(4) ToyoNet-ACE ガクチカサプリ掲載ボランティア求人数 (件数)

分野	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
子ども・教育	1	2	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	7
国際交流	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
震災・災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
障がい者・ 高齢者・福祉	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
環境・農業・ 貧困・難民	2	0	5	1	6	4	1	1	0	2	3	4	29
医療・保健・ 地域活性化・まちづくり	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
文化・芸術・スポーツ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総件数 (月別)	3	2	5	3	7	4	1	2	1	3	3	6	40
(参考) 2020年度	4	6	6	12	12	10	8	11	8	5	5	8	95

ToyoNet-ACE ガクチカサプリ掲載ボランティア求人分野 (月別比較)



(5) ToyoNet-ACE ガクチカサプリ

閲覧者数 累計数 ※2020年度累計 244,366

集計期間	閲覧者数 (人)
2021年4月	29,456
5月	18,225
6月	14,411
7月	22,246
8月	7,821
9月	17,561
10月	17,132
11月	15,696
12月	14,990
2022年1月	17,822
2月	8,650
3月	8,417
計	192,427

1 2021年度ボランティア系 サークルオンラインサロン

運 営	ボランティア支援室サポートスタッフ
開催期間・日時	2021年4月18日（日） 18:30~20:30
会 場	Zoomによるオンライン開催
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアサークル同士の交流を図る ● 去年のサークル活動の振り返り、今年度のサークル活動に関して意見交換をする
参 加 者 数	11名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】 学生7名、サポートスタッフ2名、ボランティア支援室スタッフ2名 参加サークル：team value creation、バリアフリーサークル歩み、エコボラ、学ボラ、IVUSA、Smile F LAOS、ISR-ConnAction

●活動内容（概要）

新型コロナウイルス感染症の影響で2021年度のサークルオンラインサロンはZoomを使用したオンライン開催となりました。

サークルオンラインサロンでは、東洋大学で活動しているボランティアサークルに集まっていただき、お互いにどのような活動をしているのか、例年のよ

うな対面の活動が出来ない中で大変だったことや工夫したこと、これからの活動について話し合いました。

東洋大学のボランティアサークルといっても、国内系の活動をしているサークルや国際系の活動をしているサークル、福祉活動をしているサークルなどそれぞれの目的や活動内容は異なります。

しかし新型コロナウイルス感染症により対面での活動が難しいため代替案を考える必要があること、慣れないオンライン形式でのサークル運営での悩み、サークルのメンバーのモチベーションの維持・向上の仕方など共通の課題がありました。

そこでこれらの課題を共有し、工夫してうまくいったことを発表してもらうことで他の参加者はそれぞれのサークル運営に関する課題解決のヒントが見つかったのではないかと思います。

これからの活動に関する話し合いとして新入生歓迎活動について話しました。例年のような対面での勧誘活動が難しいため、どのサークルもソーシャルメディアや動画、ビデオ会議システムなどを活用した活動を既に行っているようでした。またTwitterとInstagramの共有ハッシュタグ「#toyo_volu」を利用して新入生がボランティアサークルの情報にアクセスしやすいように協力していくことを確認しました。

（法学部法律学科3年 ボランティア支援室サポートスタッフ 中川優子）



2 ボランティア支援室ガイダンス

講師	山本奈央（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
開催期間・日時	① 2021年4月23日（金） 12:15～12:55 ② 2021年4月28日（水） 18:10～18:50
会場	Zoomによるオンライン開催
目的	<ul style="list-style-type: none"> ●主に新1年生向けにボランティア支援室の紹介や利用方法、ボランティア活動の概要について伝える ●ボランティア支援室サポートスタッフの取組みについて紹介する
参加者数	① 4月23日（金） 計12名【内訳】学生10名、教員1名、ボランティア支援室学生サポートスタッフ1名 ② 4月28日（水） 計5名【内訳】学生5名

●活動内容（概要）

主に新1年生に向けて、ボランティア支援室の紹介や利用方法、ボランティア活動についての簡単なレクチャーを含めた「ボランティア支援室ガイダンス」を昼の部・夜の部と2回に分けて開催しました。今年度はオンライン実施としましたが、オンラインでの実施にすることにより白山キャンパス以外からの参加や2部の学生の参加もできました。

ガイダンスでは、活動中の写真を交えながら多様なボランティア活動の事例を紹介し、ボランティア活動のイメージを広げてもらったうえで、ボランティア活動とは何かという基本的な事柄を簡単にレクチャーしました。

また、そうした多様なボランティア活動を支える役割を担っているボランティア支援室の取組み内容を伝えたほか、支援室内部の様子、普段のイベント風景などを写真で伝え、学生にとって少しでもボランティア支援室が身近な存在として活用してもらえよう努めました。

ガイダンスの後半では、ボランティア支援室で活躍するサポートスタッフの取組みについても紹介しました。23日の回では、実際にサポートスタッフとして活動している学生にゲストとして登場してもらい、活動の様子や実際に活動してみたの思いなどを語ってもらいました。ボランティア支援室が、今後より一層学生の思いに沿った取組みを展開していくため、サポートスタッフの存在はとても重要と考えます。

今回のガイダンスは短時間ではありましたが、ボランティア支援室の存在をまずは知ってもらい、ガクチカサプリーへのアクセスや、直近で参加できるイベントの紹介、サポートスタッフへの参画方法など、具体的な次の一步を提供することを心がけました。実際にガイダンスに参加した学生が、イベントへの参加やサポートスタッフへ参画に繋がったケースもあり、一定のガイダンスの成果が見られました。

3 SDGs アンバサダー座談会 (プレ企画)

開催期間・日時	2021年8月4日(水) 11:00~12:00
会場	Zoomによるオンライン実施
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● SDGs アンバサダー同士の交流を図ること ● SDGs アンバサダーの今後の活動についてのアイデアを得ること
参加者数	16名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】 アンバサダー学生13名、スタッフ3名

●活動内容(概要)

SDGsとは、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) のことを指し、2001年に策定されたミレニアム開発目標MDGsの後継として2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記録された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。SDGsには17の世界目標、169の達成基準、232の指標から構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。

このようなSDGsをもっと多くの学生や世間に広めたい!と考え集まったのが東洋大学SDGsアンバサダーです。今回のSDGsアンバサダー座談会では、東洋大学ボランティア支援室のスタッフによって集められた約50名のアンバサダーのうち、13名が参加しました。

本座談会はオンラインで開催されましたが、4つのグループディスカッションに分かれることで、まだ対面できていない13名同士の交流、それぞれが目指す世界の形や理想の共有が成されました。グループディスカッション内では、初めに各々の自己紹介を行い、今までのSDGsに関する取り組みや、SDGsを知った時期を伝え合いました。個人でボランティアやエコバッグの重要性を伝える方もいれば、学生団体に所属してSDGsにまつわる活動や布教を行っている方もおり、多種多様なSDGsに対する関わり方が共有されました。

本座談会の後半では、SDGsアンバサダーとして今後活動していくためのアイデアを共有しあいました。定期的なアンバサダー同士の交流の場を設けることや、具体的な宣伝方法など、各々がSDGsを宣伝するための手法をブレインストーミング形式で出す班や、班全体で話し合って案を出す班もあり、アンバサダー内では様々な種類のリーダーシップが発揮されました。

本座談会は終了後、Zoom環境を残して交流の場を設けました。現在はコロナ禍であることから、対面での活動をすることは厳しいですが、今回の座談会のように、アンバサダー同士の交流の場を定期的に設けることで、各々がお互いを高めあえる環境づくりができるようにしていきたいです。

(経営学部経営学科3年 SDGsアンバサダー 木城達哉)

4 ボランティアサークル 秋のオンラインサロン2021

開催期間・日時	2021年9月20日（月） 10:00~12:00
会場	Zoomによるオンライン開催
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● SDGs団体アンバサダー制度の創設に向けて、ボランティアサークルからの意見を募ること。 ● ボランティアサークルの活動状況などを情報交換し、相互の関係を強めること。
参加団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 学ボラ ● 日本語ボランティアサークル SPIRIT ● Smile F Laos ● Team Value Creation ● 東洋大学IVUSA
企画・運営	ボランティア支援室サポートスタッフ

● 活動内容（概要）

ボランティア支援室では、東洋大学のボランティアサークル間の交流促進と、東洋大学の学生ボランティア活動を一体的に推進していくことを目的に、サークル向けオンラインサロンを、折に触れて開催しています。



2021年6月6日に、東洋大学ではSDGs行動憲章が採択され、SDGsアンバサダー制度が創設されました。既に本学学生個人がSDGsアクションを展開していくための枠組みとして、個人アンバサダー制度の運用を開始していますが、団体アンバサダー制度の創設についても検討されています。制度創設を進めるにあたり、まずは当事者となるボランティアサークル間での意見交換が必要と考え、今年度2回目のオンラインサロンにてその場を設けました。

以下、企画・運営に携わった、ボランティア支援室サポートスタッフからの報告です。

今回のオンラインサロンでは、「Let's SDGs! 私たちにできること」というコンセプトのもと、各ボランティアサークルの代表者とともSDGs団体アンバサダーについて話し合いました。

その中でまず、そもそも団体アンバサダー制度の必要性について意見が飛び交いました。最初はどの団体も一貫して、「制度があれば助かるかもしれないが、そもそも制度が確立されていないなかで、絶対必要とは言いきれない」といった様子でした。更に元々SDGsを掲げていなかった団体が突然SDGsを目標とするのはお門違いではないかという意見も出て、制度開設に対して前向きな意見ばかりではありませんでした。

しかし、話が進展していくにつれて、各団体が大学側に何を支援してほしいのかも明らかになりました。事前アンケートでは活動場所や備品などの物的サポートが最も望まれていましたが、実際に当日多くの団体が要望したのは、情報面での発信力の強化でした。コロナ禍において、どうしても学生運営のサークルだけでは発信力が弱いことから、大学にも協力してもらいたいという意見が出ました。

また、教職員や学生、他団体とのつながりが薄くなっているということにも気づきました。これを改善するには公式のつながりをつくることで、イベント開催の告知の強化、知識の共有、各団体の活動内容の可視化などが達成でき、ゆくゆくは東洋大のボランティア活性化にもつながるので、つながりをつくるべきだという意見が共有されました。

最後に、今回のオンラインサロンは東洋大学のボランティアサークルの「みんな」でSDGs団体アンバサダー制度をつくるという企画だったので、各団体と意見交換できてとてもよかったです。このオンラインサロンが東洋大学のSDGsに向けた取り組みと、学内ボランティアサークルとの架け橋になり、東洋大学の活性化につながることを心から願っています。（社会学部社会福祉学科1年 ボランティア支援室サポートスタッフ 朝原優真）

5 東京2020オリンピック・パラリンピック 学生ボランティア報告会

開催期間・日時	2021年11月5日（金） 18:00～19:30
会場	東洋大学 白山キャンパス125記念ホール
目的	コロナ禍での困難な状況下でボランティア活動を行った学生に対して、発表の場を提供することにより自身の活動に対する気持ちの整理と、他の学生に対して紹介する機会を設ける。 聴講者が「同じ東洋大学生」がボランティアを行い、成長してきたことを知ることで「自分ごと」として認識し、自らボランティア活動を行うきっかけとする。
参加者数	12名（発表者4名+オンデマンド収録参加学生等）※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】発表学生4名、一般学生6名、関係者5名 ※後日オンデマンド配信予定
主催・協力	2020東京オリンピック・パラリンピック連携事業推進委員会、株式会社 図書出版

●活動内容（概要）

コロナ禍で一年の延期かつ、「無観客」での実施となった東京2020オリンピック・パラリンピック。

ワクチン接種もままならない状況で感染のリスクを抱え参加した本学学生のボランティア活動に対する思いやさまざまな経験、また大会後のレガシーに対する考え方などを伺い、今後、学生がボランティア活動を行うきっかけとなる場を提供できるきっかけとなることを目的に発表会を実施した。

なお、この様子は撮影を行い、編集後オンデマンド形式で公開をする予定である。

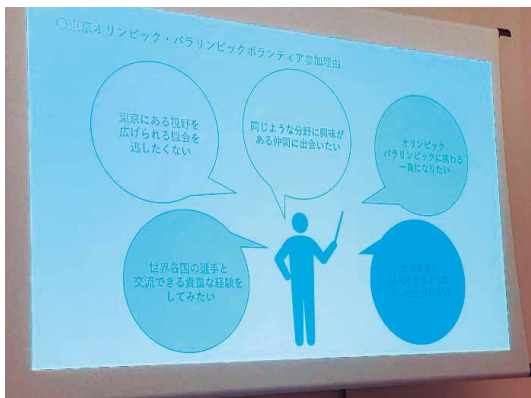
当日は4名の発表者と社会貢献センター長の森田先生、2020東京オリンピック・パラリンピック連携事業推進委員、ボランティア支援室運営委員の谷釜先生がパネリストとなり、当日参加した一般学生を交えてディスカッションを行った。

学生からの発表は、コロナ禍での実施に戸惑いと不安を抱えながら、「無事にやり遂げた」ことを素直に喜び、ボランティアとして参加したからこそその選手や関係者との交流やオリンピック・パラリンピックがスポーツだけではなく、文化や人との交流の場であることを改めて知る良い機会となった。

また、「平時とは違う」ことからの運営側の混乱や無観客だから見えた問題点など多くの気づきを与えられた大会であった。

一生に一度の体験として、自ら行動し積極的にかかわることで、新しい「視野」が広がり、今後の人生においても良い体験であった。自分ごとにかく動くことが一番大切であり、動かなければ何も変わらないと他の学生へ力強いエールが送られた。

最後に、パラリンピック聖火ランナー学生が持参したトーチを森田先生、谷釜先生が掲げながら会場にいた全員で記念撮影を行った。



活動内容・各企画概要

6 「Hands to Hands 2021 —みんなで乗り越える、コロナ禍—」

企画・運営	ボランティア支援室
開催期間・日時	【第1弾】物資募集：2021年5月6日（木）～31日（月） 学生配布：2021年5月25日（火）～8月3日（火） 【第2弾】物資募集：2021年10月1日（金）～11月1日（月） 学生配布：2021年11月4日（木）～寄贈品がなくなるまで
会場	東洋大学 白山キャンパス ボランティア支援室 各キャンパス 教学担当部署
目的	2021年度を迎えても依然として猛威を振るう新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大学の授業は「オンライン」を中心とした授業が継続された。経済状況の改善も見えない中で、学生たちの生活は引き続き厳しい状況が続いている。そこで昨年度に引き続き、「Hands to Hands 2021—みんなで乗り越える、コロナ禍—」と称して、食料品の寄贈を行うこととし、学生が必要な食料品などを入手できることで、学業が継続できる環境を支えあう活動を行った。
参加者数	詳細はP.28のとおり
協力	校友会・甬水会

●活動内容（概要）

- 支援物資はホームページ、校友会、甬水会等を通じて募った。全国各地の校友、教職員、学生、保護者（甬水会）のほか、本学関係者のほかにも近隣の学外団体からも持参・宅配便で230名21,000点以上の支援物資が届けられた。
- 配布は白山キャンパスについては甬水会館内のボランティア支援室で、白山以外のキャンパスについては学内便を利用して各キャンパスの教学担当課を通じて全学で延べ 春：497名、秋：541名の学生に配布した。
- 授業およびイベントもオンライン開催が続く中で、学生には登校の機会を、校友の方には母校とのつながりを持つ機会をもうけ、それぞれに大学への帰属意識をもってもらうこともできた。
- 寄贈者、ボランティア、物資受取者より「メッセージ」を頂戴し、課内掲示やHP等で紹介を行い、それぞれへのフィードバックを行った。受取学生のメッセージを読むと、複数回利用する学生も多く、コロナ禍での社会状況は深刻であると感じつつ、大学からの支援があることで学生生活を前向きに歩むきっかけとなっていることを知ることができた。

本プロジェクトは今年度で終了の予定であるが、別の形で学生の不安を解消できる企画等が実施できるようにしたいと思う。

①1名あたりの配布食糧一式



②「受取者からのメッセージ」掲示



③100円弁当プロジェクト会場（白山）での配布



Hands to Hands 2021支援物資一覧

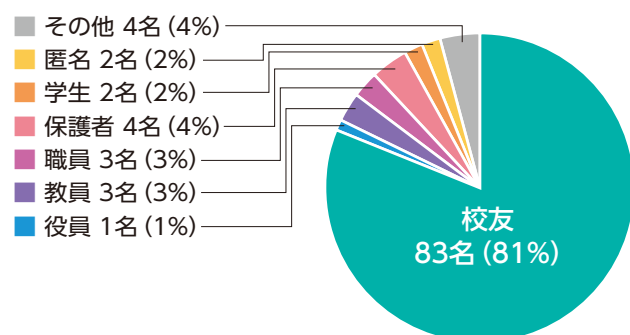
品名	(秋学期受付分)	(春学期受付分)	合計
米 (単位/Kg)	1,159	635	1,794
パックご飯 (単位/パック)	987	642	1,629
アルファ米 (単位/パック)	3	754	757
乾麺・パスタ (単位/袋)	459	636	1,095
袋麺 (即席めん) (単位/袋)	728	1,018	1,746
カップ麺 (単位/個)	678	1,000	1,678
カレー・パスタソース類 (単位/袋)	1,556	811	2,367
惣菜類 (缶詰類含む) (単位/個)	371	1,058	1,429
スープ・味噌汁類 (単位/個)	1,649	1,153	2,802
ふりかけ・調味料類 (合わせ調味料含む) (単位/袋)	301	147	448
ミックス粉 (パンケーキ、プリン素等) 類 (単位/袋)	6	10	16
飲料 (茶葉・コーヒー豆含む) (単位/個)	820	727	1,547
菓子・餅類 (単位/個)	1,203	1,644	2,847
ジャム、チーズ、ペースト類 (フルーツ缶詰含む) (単位/個)	23	39	62
パン・グラノラ類 (単位/個)	65	5	70
その他食品	1	16	17
マスク (袋)	110	339	449
除菌グッズ (個)	0	7	7
その他日用品	31	218	249
	10,150	10,859	21,009

Hands to Hands 2021 支援者割合一覧

身分	人数/秋学期	割合/秋学期	人数/春学期	割合/春学期	合計人数	合計割合
校友	83	81.4%	94	73.40%	177	77.0%
役員	1	1.0%	2	1.60%	3	1.3%
教員	3	2.9%	10	7.80%	13	5.7%
職員	3	2.9%	10	7.80%	13	5.7%
保護者・甬水会	4	3.9%	1	0.80%	5	2.2%
学生	2	2.0%	3	2.30%	5	2.2%
匿名	2	2.0%	3	2.30%	5	2.2%
その他	4	3.9%	5	3.90%	9	3.9%
	102	100%	128	100%	230	100.0%

※校友には校友会支部単位での寄贈を含む ※校友には甬水会からの寄贈も含む

Hands to Hands 2021 秋 支援者内訳



2021申込者数 集計

(所属キャンパス別)

	秋 (通算)	秋Round2	春	計
白山キャンパス	386	89	368	754
川越キャンパス	90	29	91	181
板倉キャンパス	39	18	30	69
赤羽台キャンパス	26	6	39	65
合計	541	142	528	1,069

(課程別)

	秋 (通算)	秋Round2	春	計
学部1部	421	114	381	802
学部2部	70	11	76	146
大学院博士前期 (修士)	41	13	62	103
大学院博士後期 (博士)	8	3	9	17
通信教育	1	1	0	1
合計	541	142	528	1,069

(学年別)

	秋 (通算)	秋Round2	春	計
1年	144	29	105	249
2年	167	42	146	313
3年	96	23	104	200
4年	85	32	102	187
M1	20	5	34	54
M2	21	8	28	49
D1	1	1	0	1
D2	1	0	2	3
D3	6	2	7	13
合計	541	142	528	1,069

7 コロナ禍における学生支援 「100円弁当」プロジェクト

開催期間・日時	<p>第1期：2021年12月13日（月）～17日（金） 第2期：2022年1月17日（月）～21日（金） 【板倉以外】 11：30～販売終了まで 【板 倉】 12：40～ 【白山追加】 17：00～17：30</p>
会 場	<p>白 山：4号館1階大学生協 横スペース及び生協店舗内 川 越：学生ホール食堂棟 生協付近 板 倉：売店棟 売店IZUMI 赤羽台：INIAD 1階 生協付近</p>
目 的	<p>コロナ禍の中で「Hands to Handsプロジェクト2021」を実施し、多くの方から食料の支援をいただき学生へ配布しているが、学生たちの取り巻く経済的環境はまだまだ見通しが立たない状態である。 対面授業が始まるにあたり、さらなる支援として「用途指定型支援」の「新型コロナウイルス学生支援」として集まった寄付金を基に学生へ「昼食」の支援を行う。</p>
参加者数 (発注数)	<p>【第1期】 ※当該イベント、他大学での同様のイベント実施状況及び11月の来校状況を考慮して算出 白 山 【弁当】 400/日 【パン】 100/日 川 越 【弁当】 150/日 板 倉 【弁当】 60/日 赤羽台 【弁当】 130/日 【第2期】 ※第1期の状況および各キャンパスへのヒアリングを通して、調整 白 山 【弁当】 100/日 【パン】 50/日 川 越 【弁当】 150/日 板 倉 【弁当】 80/日 赤羽台 【弁当】 60/日</p>
協 力	<ul style="list-style-type: none"> ●東洋大学生生活協同組合 ●社会福祉法人佑啓会 ふる里学舎本郷 ●社会福祉法人武蔵野会 リアン文京

●活動内容（概要）

全キャンパスを対象とするために大学生協へ依頼した。さらに白山キャンパスについては、社会貢献活動として文京区内の社会福祉法人で「パンの製造」を行っている団体へ声をかけ、販売の機会の提供と学生へは社会福祉施設の紹介を行った。

第1期については、曜日や天候により学生の来校数が変化し、学生の昼休み終了後にフードロス削減の

観点から教職員等へ協力を依頼して、全日程「完売」することができた。発注数については他大学で行われた同様の企画での個数、11月に実施した敷島製パンイベント時の状況を目安として策定をしたが、白山キャンパスにおいては学部のグループによって、販売数に大きな差が発生した。

第2期についてはオミクロン株の感染が急拡大し、学生の来校数が減少中での実施となったが、個数を絞っての提供が幸いし全日程「完売」にて終了することができた。

白山においては、販売開始時刻より前に学生が数名待っている状況もあり、販売開始時刻前に準備ができ次第販売を行った日もあった。各キャンパスにおいても、おおむね40分程度で完売したとの報告があった。

特に、白山キャンパスでのみ実施となった「パン盛り合わせ」については、ほとんどの日程で開始15分以内で完売となるほど盛況であった。

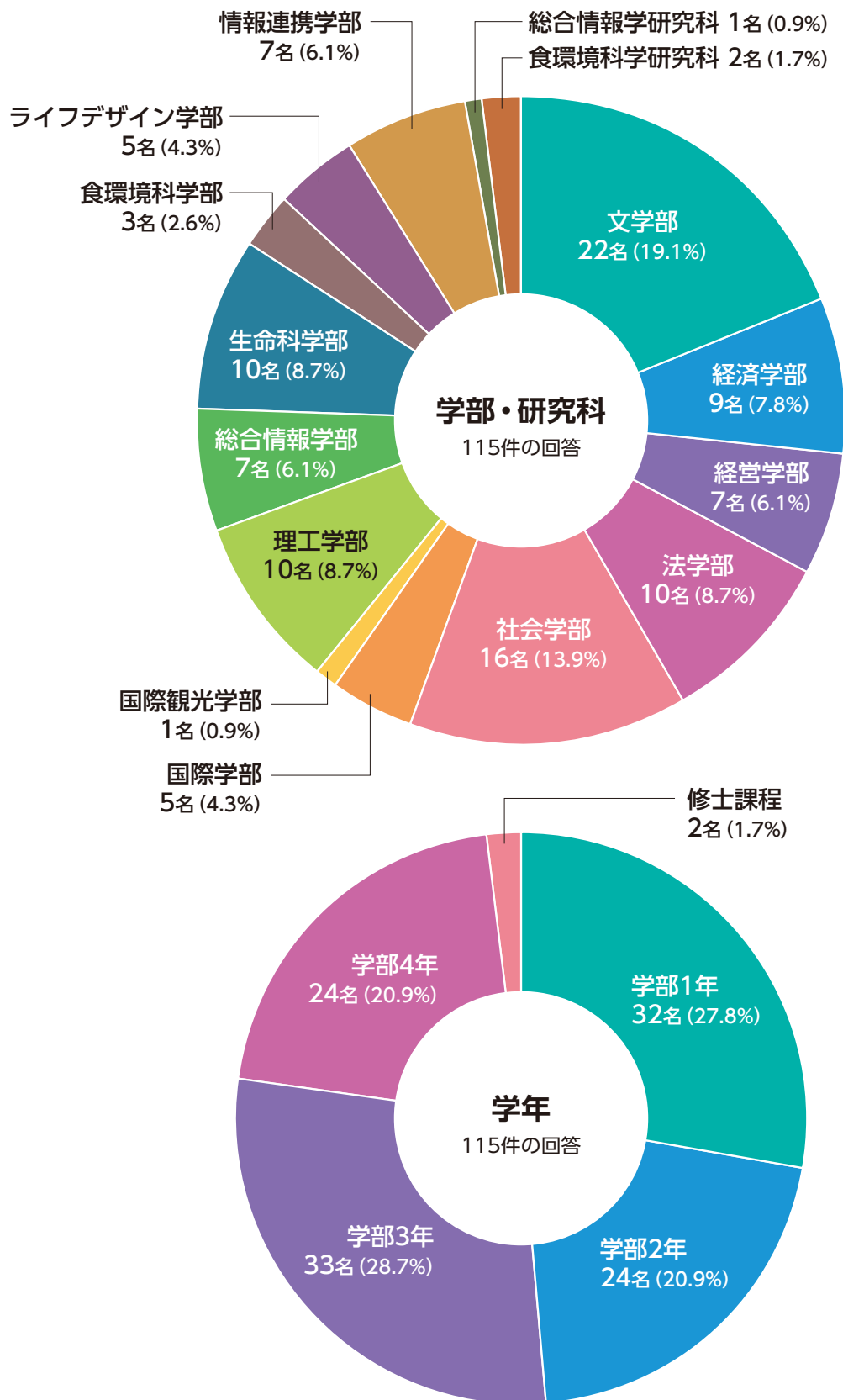
配布のお知らせや日々の状況は、社会貢献センターのSNSを通じて発信する等、学生の「生の声」を発信する工夫を行った。 【学生アンケートより P.32～34参照】



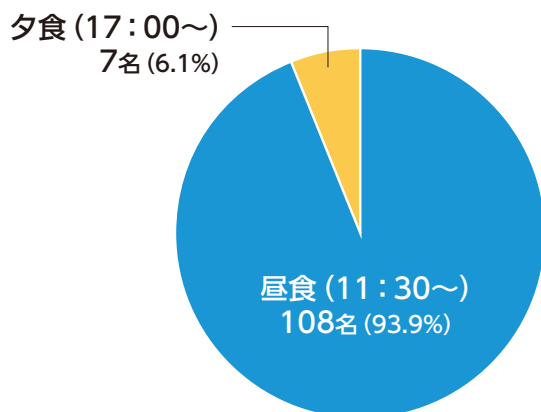


活動内容・各企画概要

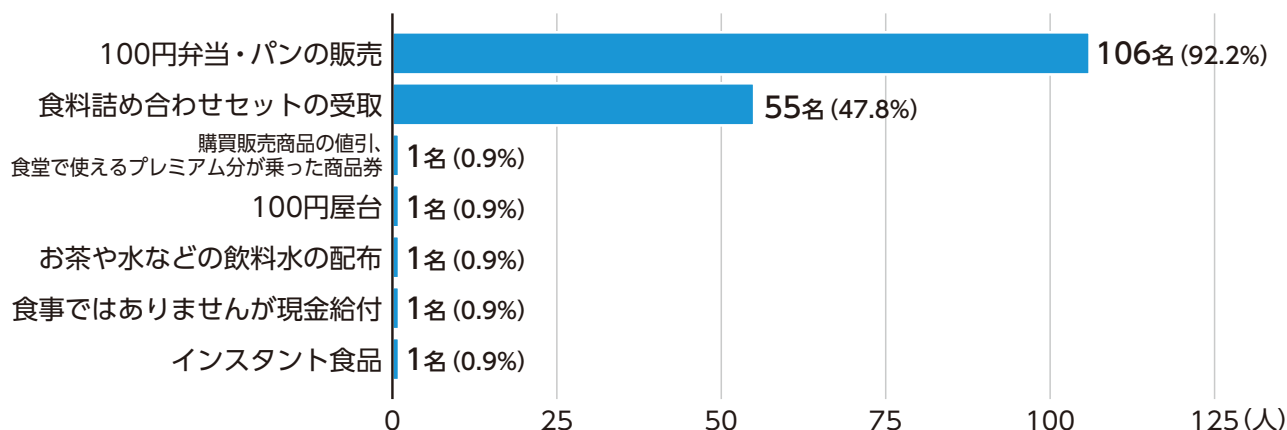
コロナ禍における学生支援「100円弁当」プロジェクトアンケート



【Q1】 ご利用の時間帯を教えてください。(115件の回答)



【Q2】 今後利用したい食事支援を教えてください。(115件の回答)



【Q3】 「100円弁当」を利用した感想を書いてください。【抜粋】

- 100円で6個のパンが入ったものを購入させていただきました!一人暮らしなので買い物にもなかなか行かず食生活が偏ってしまいがちですが、このような機会を積極的に利用したいと思います。ありがとうございました!
- 100円でお弁当を買うことができるのはお財布に優しいと思い利用しました。おかずが豊富に入っていて満足でした。
- 100円で美味しく、量もあるお弁当をいただけですごく良かったです!金欠でお昼を我慢していたので、個人的に助かりました!!
- 100円弁当のような気軽にSDGsに参加できるイベントが広がれば良いと思いました。
- 1号館、6号館で呼び込みをしていて興味を持った。「100円弁当」というネーミングもキャッチーで良い。買いたくなる。
- 550円の学食は量が多くて残してしまうことがあり罪悪感があったのですが、100円でちょうどいい量だったので経済的にも精神的にもありがたかったです!
- おいしかった。お腹いっぱい、心も満タンになりました。サンキュー!
- おいしかったです!また開催して欲しいです。
- お昼を求めて、パンを買いました!どれも美味しかったです。クロワッサンは明日の朝ごはんにしようと思います。
- コスパ最高です。このために学校来ます笑 明日も買いに来ようかな。
- コロナで疲れ果てていましたから、こういった支援はありがたかったです!!
- ゼミの教授から教えて頂き、3限の前の昼食にちょうどよいと思い利用しました。100円で飲み物までつけていただき、いつもよりリッチな昼になった気分でした。ありがとうございました。

- たまたま通りかかったから。美味しかったです。とてもしっかりとした弁当を100円で食べられるのはとてもありがたいと思いました。経済的に余裕が無い学生が多い中、このような企画があるととても助かるなと思います
- なにより安い。毎日コンビニでお昼ご飯を買って500~600円使ってしまう人もなかにはいると思う。自分も弁当を作ってはいるが、体力も使うしお金もかかる。貧乏学生としては、とても助かる。
- メールで来て今回のイベントを知りました。私は金欠でお金が殆どありません。このように安価でたくさんの栄養が溜まったお弁当を食べられるのは本当にありがたいです。またやってください。生協で売れ残った期限切れ間近の食料を捨てるのではなくとても安い価格で販売してくれると嬉しいです。
- もう少し個数を増やしてほしいです。
- 一人暮らしの僕には最高でした
- 学生にとって経済的に優しい価格で提供して下さることに、感謝してもしきれないほど有り難く存じます。次の機会がありましたら、これからも宜しくお願い致します。
- 学費のため貯金カツカツ生活をしているので学食は金銭的にきつく、またお弁当を持参するにしてもバイトと課題と授業と家事とで時間がなく、このような企画があつてとても助かった。現在コロナでキャンパスの冷水機や学食のお茶サーバーが使えなくなっているため、お茶がついてくるのもありがたかった。ロールキャベツとイカフライのお弁当おいしかったです!ごちそうさまでした。
- 金欠が故に利用させていただきました。美味しかったです!
- 幸いにもアルバイトではコロナの影響をあまり受けておらず、このお弁当を買っても良いのかと迷いました…余ってしまうことはないと思いましたが、万が一余ったらもったいないなと思い、1度だけ購入させて頂きました。とても美味しかったです。
- 校内広告にて本プロジェクトの内容について知った。非常に安価で提供しており、弁当のバラエティやボリュームがあり、美味しかった。そして環境についての取り組みを徹底して行っているため、頂いた弁当容器などは分別して廃棄する。そして今後も環境のために取り組もうと思った。
- 自炊だとあまり作らないような凝ったおかずが入っていて、食べていて楽しかったです。この企画が善意の上に成り立っていることを感じました。素敵な企画をありがとうございました。
- 奨学金を借りて大学に通っているため、自分の生活費はアルバイトで稼いでいます。食費等は出来るだけ抑えたいと考えているため、こうした大学の取り組みが積極的に行われていることが私自身大変ありがたいです。またお弁当のメニューも生徒が飽きないように毎日メニューが違うのも非常に魅力的でした。寄付していただいた方や運営に携わっていただいた方々に感謝しています。ありがとうございます。
- 食費が浮くので勉強時間をアルバイトに割かず済んで助かります。
- 新型コロナウイルス学生支援で寄付してくれたひとに感謝したいです
- 身近なところからSDGsに関わりたかったからです。
- 素晴らしい活動だと思います。私は東洋大学のメールで知りました。学生にとっても事業者さんにとっても笑顔が溢れる活動になったのではないかと思います。寒い中、朝から準備をしてくださった全ての方に感謝をして頂こうと思います。またこのような機会があれば利用させていただきたいです!!友達にも宣伝しておきますね。ありがとうございました
- 大学の掲示板で見かけて利用しました。100円で弁当が食べられてとても助かりました。
- 担当教員が、宣伝をメールして下さり、今回の100円弁当を知りました。お弁当がとても美味しそうで、そして昼食はいつも簡単に済ませるため栄養が偏りがちであったため、今回利用してみたいと思いました。とても美味しく、久しぶりに楽しく食事をできたと思います。最近、卒業研究を進めるために、周りの友達も緊張感がありましたが、この100円弁当を食べる時にすごく和やかな雰囲気になりました。本当にありがとうございました。また利用したいです。
- 昼食代が450円浮いてよかった。
- 美味しかったです。女性からすると量が多い印象がありました。食数が少ないと思ったので、量を軽減し食数を増やすのもいいのかなと思いました。
- 放送で聞いて今回の取り組みを知りました。お金には非常に困っていて、節約生活をしているため、すぐに行きたくて決めました。ありがとうございました。
- 量が多いので、この弁当1つで十分足り、安いので、金銭的に余裕がない人にありがたい弁当だと思います。さらに、弁当だと買ってその場で食べられるため、弁当を作る時間がない人にとってもありがたい一品と思いました。

8 東洋大学公開講座 「防災の思想」（オープン講座）

講師	及川 康（東洋大学理工学部教授）
開催期間・日時	2021年10月30日（土） 10:30～12:00 13:30～15:00
会場	オンライン実施
目的	首都直下型地震および南海トラフ地震への危険性が叫ばれる中、私たち市民の「防災」に関する認識を「自分ごと」として見直し、家庭や職場で来るべき事態に備えた準備を行えるきっかけとなることを目的とする。
参加者数	19名
協力	（後援）文京区社会福祉協議会・公益財団法人 文京アカデミー

●活動内容（概要）

本学のHP・学内の掲示板及び文京区から広報をいただき、参加者のほとんどは一般からの参加となった。当日は大きく2つの内容で構成され、前半は「避難情報廃止論」と題して行政が配信する避難情報に対する市民の認識と『空振り』『見逃し』が少なからずある中で、私たち自身がどのように対応をしたら良いかをお話していただいた。

後半は「防災プラグマティズム」という思想と題して、「主体性」「意識」が避難行動へどのようにつながっていくのかをお話しいただいた。

実施アンケートから、「災害に備えるためにも、たいへん参考になった」「後半の内容は少し難しかった」との意見があった。

9 中野区・東洋大学連携事業 少年・少女野球教室

開催期間・日時	2021年11月28日（日） 9:00～15:10
会場	中野区立哲学堂野球場A・B面
目的	中野区と東洋大学の連携事業として、中野区内に在住・在学する小学生を対象に、東洋大学硬式野球部員が指導者とした野球教室を開催し、本教室への参加者である子どもたちに野球の楽しさを体感してもらい、野球の技術向上に取り組んでいただくとともに、一流スポーツ選手との交流を通じて心身の成長の機会としていただくことを目的としている。
参加者数	小学5・6年生 約50名 東洋大学硬式野球部 11名 中野区スポーツ振興課 2名 中野区少年野球連盟理事長、日本体育施設、東洋大学2名（硬式野球部長 増子先生、エクステンション課 椎名）
協力	日本体育施設、中野区、中野区少年野球連盟

●活動内容（概要）

【中野区・東洋大学連携事業 少年・少女野球教室プログラム】

1. 9:00～ 開会式
2. 9:15～ 記念撮影
3. 9:30～ 実技指導
4. 11:30～ 昼食
5. 12:20～ 交流試合
6. 14:20～ 試合結果発表
7. 14:30～ 閉会式

以上のプログラムにて開催された。

【開催内容】

1. 中野区小学5・6年生と対象とした東洋大学硬式野球部員による技術指導（午前）
2. 参加者を2つのチームに分けた交流・練習試合の実施（午後）

【実施状況】

小学生たちが日頃より練習しているポジションごとのグループに分かれ、投げ方や捕球の仕方など基本を学びながら、どのようにしたら上達できるのかを野球部員より真剣に教わっていた。また、野球部員によるデモンストレーションでは、投手、捕手、内野手、外野手の技術を惜しみなく披露し、小学生たちがあこがれの眼差しで見ている。これから野球を頑張っていきたいと思っている小学生たちにとって、とても良い企画であり、直向きに取り組んでいる「少年・少女」たちへの大きな支援になっている事が感じられた。



活動内容・各企画概要

10 社会貢献活動 助成表彰式・報告会・SDGs コンテスト表彰式

開催期間・日時	2022年3月16日（水） 10:30～12:00
会場	東洋大学 白山キャンパス 1101教室及びWeb配信
目的	東洋大学の学生ボランティア活動等社会貢献活動の充実に寄与するために、学生団体へのプロジェクトに対して助成を行うとともに、本学学生の社会貢献活動に対して表彰を行うことにより、その努力に報いその活動成果を今後の学習活動に活かすことを奨励し、社会に貢献する人材の育成を支援する。 また、課外活動育成会をはじめとする学生の活動を報告する機会を提供し、学内外への報告と学生自身のモチベーションの向上を目的とする。
参加者数	19名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】 対面 8名、Web 11名

●活動内容（概要）

2021年度 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成団体及びSDGs コンテスト受賞者への表彰式と学生課外活動育成会で活動を行った団体の活動報告会を行った。

今年度は学生課外活動育成会で活動を行った団体に対して、活動報告の「場」を提供することにした。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から対面とWebとを並行する「ハイフレックス方式」での開催を行った。時間や距離の関係で大学への来校が難しかった方が参加をしていただき、昨年同様にキャンパス間の問題もなく良い報告につながったと思われる。

はじめにセンター長の挨拶のあと、学長から式辞を頂戴した。

次に、社会貢献活動等奨励プロジェクト助成制度に採択された団体に対して、表彰状と楯の授与を行った。

その後、SDGs コンテスト社会貢献活動に対する表彰を行い、表彰状と目録（賞品）の授与を行った。

報告会では各自これまで行った活動をパワーポイントを用いて、説明を行った。

それぞれ、特色をよくつかんだ報告となっており、わかりやすい内容となっていた。

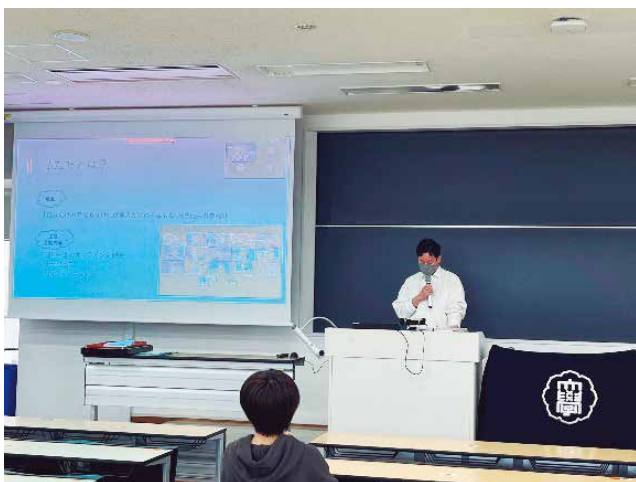
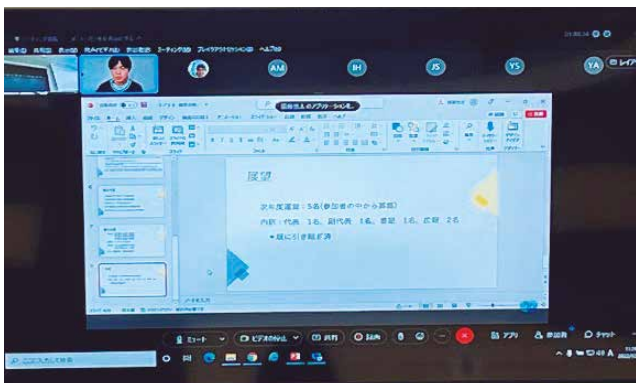
コロナ禍が2年続く中で「対面」を行う上の工夫や、残念ながらWebで実施となった活動についても現在できる最大限の範囲で活動を行っていることが印象に残った。

2022年度は「対面」での活動が行えることを強く望む内容となった。

報告後、社会貢献センター運営委員である、ショート先生、堀本先生より一言感想をお願いした。

どの先生方からも好意的なご意見を頂戴し、次年度に向けての参考になったのではないと思われる。

最後に全体で写真を撮影し、終了した。



活動内容・各企画概要

11 「先輩に聞く！ ボランティアのファーストステップ ～コロナ禍の中、どうしてる?～」

企画・運営	ボランティア支援室サポートスタッフ
ゲスト	関根佳純さん（社会学部社会学科3年 学ボラ代表） 井上栞里さん（社会学部社会文化システム学科3年 国際ボランティアサークルSalamat代表） 杉本昂熙さん（学生団体おりがみ副代表 ボランティア支援室サポートスタッフ）
開催期間・日時	2021年5月28日（金） 12:30～14:30
会場	Zoomによるオンライン開催
目的	1. 主に新入生や新2年生の東洋大学生に、ボランティア活動や社会貢献活動への一歩を踏み出してもらうための後押しとすること。 2. 緊急事態宣言により、キャンパスへの立ち入りが制限されるという状況下の中、学生間のつながりづくりの機会を提供すること。
参加者数	15名

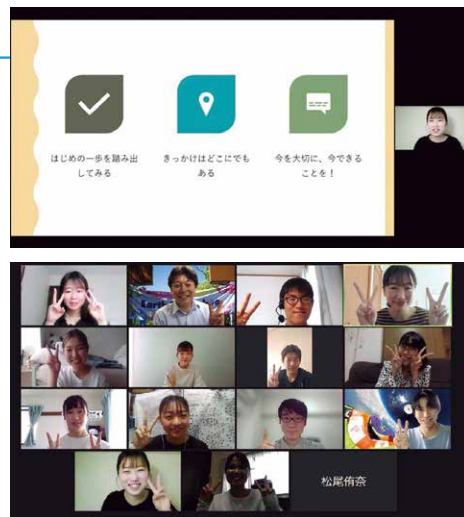
●活動内容（概要）

学内外のボランティア団体で活躍している3人のゲストをお迎えして、大学生活への希望と不安を抱えている新入生に向けて、それぞれのボランティア経験を基に交流しました。新入生にとっては興味のあるサークルを探し、大学にも少し慣れてきて新しいことを始めたいと考えている時期。そんな中、東洋大学の先輩の多様なボランティア活動を知っていただき、新しいことを始める後押しをしたいと思い、本企画を開催しました。

自己紹介でアイスブレイクをした後、ゲストからボランティアを始めたきっかけ、現在所属している団体に入った理由、コロナ禍での活動、新入生へのアドバイスなどたくさんのお話を伺いました。

3人の発表の後は少人数ブレイクアウトセッションを複数回行い、参加者はゲストの方に直接質問することができました。オンラインという環境で人と話したり交流したりする機会が少ないために参加を決めた、という新入生がとても多く、ゲストとだけでなく新入生同士も話せるような場を提供できたことを嬉しく思います。ゲストの方それぞれが伝えてくれたメッセージは、ボランティアに関わってみたい、何か新しいことを始めたい、と思っている参加者の心に響いたと思います。実際に、ボラカフェがきっかけで、サークルやボランティア団体で活動を始めることになった参加者もいると聞き、とても嬉しかったです。ボランティアに興味はあっても実際に行動に移すことは難しく、そこで諦めてしまうことも多いと思います。しかし、今回は次の一歩を踏み出すきっかけにつながるボラカフェになったように思います。

（国際学部グローバルイノベーション学科3年 ボランティア支援室サポートスタッフ 宮下亜美）



12 「世の中、SDGsというけれど…なににする? ～東洋大学SDGsアンバサダーに ヒントをもらおう!～」

企画・運営	ボランティア支援室サポートスタッフ
ゲスト	東洋大学SDGsアンバサダーの皆さん 古藤田温子さん（社会学部社会福祉学科3年） 水関祐歩さん（生命科学部応用生物学科4年）
開催期間・日時	2021年11月26日（金） 19:30～21:00
会場	Zoomによるオンライン開催
目的	1. SDGsに関心はあるものの、何から行動してよいか分からない学生を対象に、SDGsアンバサダーの取り組みから行動へのヒントを提供すること。 2. SDGsアンバサダーの活動機会を創出すること。
参加者数	14名

●活動内容（概要）

今回のボランティアカフェ（以下ボラカフェ）は、SDGs Weeks期間中の開催ということに鑑み、今年度より新たに発足した本学SDGsアンバサダーについて取り上げ、広く取り組みについて一般学生の皆さんに周知するとともに、アンバサダー間の交流機会ならびにアンバサダーとしての活動創出の機会として位置づけ、開催しました。

以下、企画に携わったボランティア支援室サポートスタッフからの報告です。

SDGsアンバサダー以外の参加者もあり、SDGsへの取り組みを促すきっかけになるとともに、SDGsアンバサダーの存在を知ってもらうきっかけにもなりました。

まずはSDGsのイメージをチャットに書き込んでもらいました。「難しそう」、「企業も関わる社会問題解決」、「2030年までの目標」、「色鮮やかなポスター」、「全ての人を対象」、「世界で行われている活動」、「すべて達成するのは難しそう…」など、さまざまな意見が出てきました。

その後、SDGsアンバサダーの人にアンバサダー活動の悩みを聞きました。アンバサダーになったものの、具体的な活動が出来ておらず、SDGsについて広めていくにはどうすれば良いのか分からないといった声があがりました。

メインであるゲストのお二人の発表へ。古藤田温子さんはSDGsコンテストに応募した動画の一部を見せてくださり、SDGsに興味がない人にも知ってもらう手段として映像が効果的であるということを紹介してくれました。動画の内容は環境に優しいコスメについてです。初心者でも取り組みやすいコスメを取り上げていました。動画の撮影にあたっては、あえてSDGsアンバサダーでない人に協力をお願いし、周

りの人を巻き込んでいくことでSDGsに興味を持つ人を増やしていくということで、随所に工夫が見られました。

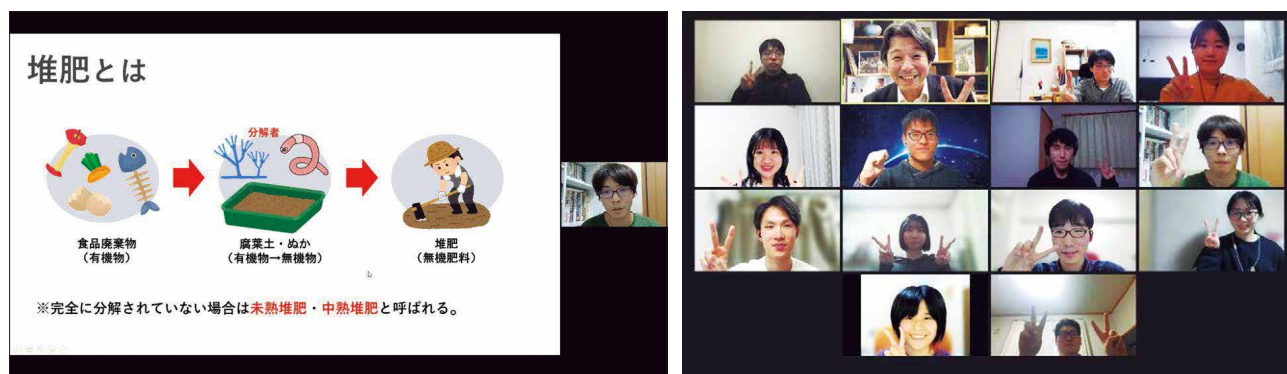
水関裕歩さんからは、自宅でできるたい肥作りについての紹介でした。生ごみを土と肥料に混ぜて置くと、分解者が生ごみを分解し、やがてたい肥になり、それを使って野菜を育てるという循環サイクルの実践をご紹介いただきました。現在はたい肥を作っている段階で、将来的には農業をするチームと連携しながら、循環サイクルの実現を目指しています。

その後、ブレイクアウトルームに分かれ、意見交換をしました。アンバサダーからはもちろん、アンバサダーでない人からも、SDGsに関心がない人に広めるためのやり方はたくさんの人に商品の良さを伝えるマーケティングの考え方と似ているという意見が出るなど、有意義な時間となりました。

企画したサポートスタッフのメンバーからは、今後もSDGsアンバサダー同士の交流の機会を作るとともに、今回のようなSDGsアンバサダー個人の活動を共有できる機会を作っていきたいという意見が出ました。

私自身もSDGsアンバサダーでありながら、活動について何をしていけば良いかわからない部分もあったので、今回のボラカフェに参加し、非常に刺激を受けました。今後もSDGsについて自分自身の理解を深めるとともに、SDGsアンバサダー以外の人にもSDGsについて考えてもらえるきっかけとなるイベントを企画したいと思います。

(ライフデザイン学部生活支援学科2年 ボランティア支援室サポートスタッフ 山崎紗矢香)



13 「防災知識をアップデート！ ～日常からできる防災～」

企画・運営	ボランティア支援室サポートスタッフ
ゲスト	東洋大学IVUSAの皆さん
開催期間・日時	2021年12月28日（火） 10:30～12:00
会場	Zoomによるオンライン開催
目的	1: 防災について、楽しく分かり、親しめるようになるきっかけを提供すること。 2: 防災知識を、ボランティア活動を通じて定着できるようになるためのヒントを提供すること。
参加者数	14名

●活動内容（概要）

今回は防災に詳しい東洋大学IVUSAさんをゲストに招き、「防災知識をアップデート！～日常からできる防災～」というタイトルを冠し、「手軽にできる防災」についてのボランティアカフェを開催しました。

この企画は「日常からできる」というのが重要な点で、できる限り参加者の皆さんが防災を身近に感じてもらえるようなコーナーを実施しました。そのうち、防災クイズのコーナーでは東洋大学IVUSAさんの監修のもと、間違っただけで覚えがちな防災知識を選択肢にして出題しました。実際にやってみると当初の予測よりも回答がかなり割れていたため、クイズできちんと正しい知識を知ってもらうことができ良かったと思います。更に、クイズよりも場所や状況を限定した地震シミュレーションも行いました。このコーナーでは、より具体的な3つの場面を提示し、グループに分かれてもらった皆さんに「自分の身を守るためにはどのような行動をとればいいのか」をグループごとに回答してもらいました。参加者の中には防災に詳しい人も詳しくない人もおられたため、さまざまな視点の回答を聞くことができました。

また、このボラカフェが終わった後も防災を続けてほしいという思いがあったため、持ち帰りシートとしてカレンダーと「マイタイムライン」を作成し、配布しました。カレンダーはクイズとして出題できなかった豆知識を1日1個見るできるようになっており、マイタイムラインは地震直後にとるべき行動を詳細にまとめたものとなっています。どちらもサポートスタッフのメンバーが主体となって制作したもので、かなり完成度の高いものを提供できたと思います。

最後に、今回のボラカフェでは東洋大生はもちろんのこと、拓殖大学や跡見学園女子大学、さらには高知大学の方も参加してくださり、他大学の方々と交流できた良い機会にもなりました。今後は精力的に他大学のイベントなどにも参加し、他大学の方とのつながりを大事にしながら活動を続けていきたいです。

（社会学部社会福祉学科1年 ボランティア支援室サポートスタッフ 朝原優真）



14 「聞いてみよう、東北の魅力！つくってみよう、自分の東北！—『またきてね、またきます。』私にとっての故郷ができますように—」

企画・運営	ボランティア支援室サポートスタッフ
ゲスト	木村優哉さん（株式会社バリューシフト コーディネーター） 宇佐美綾野さん（宮城学院女子大学現代ビジネス学部3年） 榊 裕美さん（ringo company代表）
開催期間・日時	2022年3月17日（木） 13:00～15:00
会場	Zoomによるオンライン開催
目的	1: 東北の魅力を知り、「好き」になってもらうこと 2: ゲストスピーカーの活動のきっかけを聞くことで「3.11」を参加者各自に振り返ってもらい、想いを受け継いでもらうこと
参加者数	25名（ゲスト含む）

●活動内容（概要）

東日本大震災から11年を迎えるにあたり、ボランティアカフェ東北編「聞いてみよう、東北の魅力！つくってみよう、自分の東北！—『またきてね、またきます。』私にとっての故郷ができますように—」を開催しました。

内容としては〈メイン企画〉、〈アイスブレイク〉、〈ネクストステップ〉の3つに分けて実施しました。

メイン企画では地域の活性化に携わる東北3県（岩手県・宮城県・福島県）を代表するゲストスピーカーをお呼びし、活動を始めようとしたきっかけや地域の魅力をプレゼンしていただきました。普段聞くことのできない話がほとんどで参加者一同、東北についての理解を深めることができました。プレゼン大会のあとはグループに分かれて、ツアー企画を行いました。具体的には「ここ行ってみたい!」「ここであれを食べたい!」「あそこでこんなことしてみたい!」という思い思いのツアー企画をグループ間で作成してもらい、シェアして頂きました。ゲストの皆さんのプレゼンにあったキーワードのおかげで、スムーズに作業に取り組むことができ、東北についての意見交換をすることもできました。オリジナルツアーを企画したことにより、それぞれのチームの色がでたものになりました。

アイスブレイクではKahoot!を使ってリアルタイムクイズを行いました。みちのく難読地名やゆるキャラ、伝統工芸品についてのクイズを10問出題して東北の知識を増やすとともに、早押しクイズということもあり参加者全員が楽しめた企画となりました。

イベント終了後も繋がれる企画では、LINEグループを作成して東北の魅力を発信していくことが決定し、その場限りの関係ではなく、その後も関係性を構築できる機会を作りました。

今回のボラカフェでは東北の魅力を知り、「好き」になってもらうことを目的の一つとして挙げました。この目的の達成度としては参加者の方々から賞賛の言葉を多くもらうことができたため、十分に達成ができたと思います。主催者側としては参加者が感じた「楽しい」や「東北を好きになった」という簡潔な評価だけではなく、参加前後の心情の変化を文章として残しておくべきだと感じました。その理由として、文字に起こすことにより更なる理解や変化を捉えやすくなると考えるからです。また運営側としても学生の実際の声を聞くことにより今後の企画運営にも活かしていけると考えました。

目的の二つ目にある「ゲストスピーカーの活動のきっかけを聞くことで『3.11』を参加者各自に振り返ってもらい、想いを受け継いでもらう」に関しては、前日に東北で大きな地震が発生したことにより参加者の意識の中に震災という二文字が思い浮かんでいたのではないかと思います。そのため参加学生に「3.11」を振り返ってもらったのではないかと考えます。その一方で、想いを受け継いでもらうことに関しては、二時間という限られた時間の中でそこまでの意識変化を促すことはできませんでした。その反省からこの東北編のボラカフェの頻度を高めたり、参加者同志の長期的な関係性を構築したりすることが必要になってくると考えます。

ボランティアカフェ東北編では本学の学生のみならず、東北に縁や関心のある各地の大学の学生を迎えることができました。参加者の心情変化として私たちは「東北に興味がある」「東北に行ってみよう」という心情から「東北を『好き』になる」「『3.11』を振り返ってもらい、想いを受け継ぐ」「ボランティアの魅力を知る」という心情変化を予想しました。

結果としてイベント終了後、参加者をはじめサポートスタッフも東北に対する心情の変化を実感することができました。震災を知らない子どもたちのためにも、自分たちにできることを考え行動していきたいと思います。
(社会学部社会学科2年 ボランティア支援室サポートスタッフ 大野菜菜実)



15 東洋大生がワークショップで考えるSDGs

講師	岩岡由季子さん（認定特定非営利活動法人開発教育協会（DEAR））
開催期間・日時	2021年5月8日（土） 10：30～12：30
会場	Zoomによるオンライン開催
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● SDGsの概要について学ぶ。 ● SDGsについての関心を高め、今後の更なる学びや行動に繋がるきっかけを作る。
参加者数	計22名 【内訳】 学生18名、教員2名、ボランティア支援室スタッフ2名

●活動内容（概要）

ボランティア支援室では昨年度に引き続き、学生のSDGsについての関心を高め、主体的な行動につなげていくため、SDGsについての学びの場を設けました。今年度第1回目となる今回のワークショップは、主に初めてSDGsを学ぶ学生を対象に開催しました。

講師として認定特定非営利活動法人開発教育協会（DEAR）の岩岡由季子さんにお越しいただき、学生のディスカッションをメインにした参加型のワークショップとなりました。

今回のワークショップでは新1年生の参加も多かったことから、冒頭でグループに分かれてのアイスブレイクの時間を十分に取り、今わたしたちが直面している新型コロナウイルスの問題について、自分の率直な気持ちを語り合うことからスタート。学生からはこれからの生活に対する「不安な気持ち」が多く語られていたことが印象的でしたが、オンライン上ではあるものの学年や学部を越えて対話することへの喜びも感じられました。

ワークショップでは、発展途上国や先進国を含めた世界9か国の様々な数値データ（人口、CO₂排出量、格差の度合いを示すジニ係数など）について、15年前の数値と近年の数値を比較しながら、「持続可能な開発」とは何かということを考えていきました。そして、その数値がこの「コロナ後」にどう変化していくと思うのかを参加者同士でディスカッションしました。新型コロナウイルスによる一連の社会の変化により、私たちは自分たちの暮らしの「これまで」と「これから」をおのずと考えさせられることになりました。これまでの当たり前の暮らしは、これからも持続可能なのか？というSDGsからの問いかけは、コロナ禍にある今まさに自分事として考えていくタイミングにあると感じます。

世界の現状、そして過去15年における変化について理解を深めたところで、2030年に向けた課題解決の目標であるSDGsについてレクチャーがありました。アジェンダ2030に記された今日の世界に対する「強い危機感」を受け取り、私たち自身が具体的に行動を変えていくことの必要性を実感させられるとともに、普段の暮らしの中にこそサステナブルな視点を持つことの大切さを学びました。

参加した学生からは、「SDGsについてもっと深めたい。」といった学びへの意欲や、「自分たちが解決

するために協力できることをしたい。」など、具体的な行動へのモチベーションを感じるコメントが多数寄せられました。そして、コロナ禍で他者との自由な対話の時間が減っている中で、オンライン上であってもこうして交流ができることへの喜びや安堵感を感じられたようです。

ボランティア支援室では、引き続きより多くの学生がSDGsについて関心を高めることのできるよう、こうした学びの場を提供するとともに、学生一人ひとりが自分の関心のある分野について更に学びを深め、課題解決に向けて具体的なアクションを模索し実行できるような機会を作っていきたいと思います。



16 カードゲーム「2030 SDGs」

講師	田邊心技（たなべしんぎ）さん （（株）ベネッセコーポレーション 高等教育部門担当）
ファシリテーター	7/10：西原英美さん 2030 SDGsカードゲーム公認ファシリテーター キャリアアドバイザー 7/11：寺島直樹さん 2030 SDGsカードゲーム公認ファシリテーター 岡山市役所勤務
開催期間・日時	2021年7月10日（土）、11日（日） 10：40～12：30
会場	Zoomにて配信
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● SDGsの概要について学ぶ。 ● SDGsについての関心を高め、今後の更なる学びや行動に繋がるきっかけを作る。
参加者数	7/10：学生12名、関係者2名 7/11：学生17名、関係者1名

●活動内容（概要）

東洋大学SDGs推進室外部アドバイザーでもある、田邊心技さんよりご提案いただき、現在開発中のカードゲーム「2030 SDGs」の体験イベントを行いました。

東洋大学SDGsアンバサダーを希望する学生を中心に参加者を募集し、実施することにいたしました。

はじめに講師より自己紹介があり、SDGsの概要の説明を簡単に行いました。

その中で、MDGsとの比較（SDGsは途上国だけの事ではない）や教育（受験業界）でもSDGsが設問に出てきている事など紹介をしていただきました。

続いて、ゲームの説明・テストゲームを行ったうえで、実際にカードゲームを行い、「仮想世界」を実際に動かしていく体験を行いました。

「最終発表」にて世界状況メーター・目標の達成を行い、本日の振り返りを行いました。

【アンケートより抜粋】

- ゲームをしながら、SDGsも学べるのはとても良かったと思います。一人でも多くの方にも体験してもらいたいなと思いました。
- 次回はより深くSDGsのことを学びたいです。本当にありがとうございました。
- 経済、環境、社会は互いに影響を及ぼし合っていて、それが+1-1で表されているのが分かりやすかったです。一回目にゲームを行った時は互いのゴールも分からず、自分でなんとかしようとしてしまいましたが、2回目にやった時は互いにゴールが見える状態で、交渉も活発に行えて、ゴールの達成率と世界の状況が良くなりました。現実でも自分でなんとかしようとするよりも、互いに協力し合う方が良いということを経験を通して学びました。

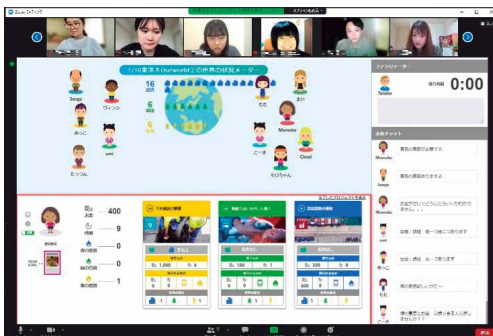
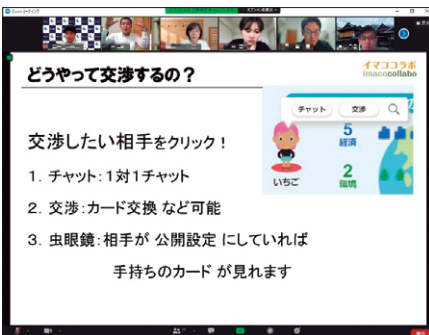
- ゲームをやってみて、気づいたら「必要なもの」と「得られるもの」だけを見ていました。経済の発展は著しい反面、社会の発展は全然していませんでした。全てのバランスをとってプロジェクトを進めるのは難しいけど、コミュニケーションをとりつつやっていかなければいけないと思いました。他人事ではなく自分事だと思って生活したいです。
- ボードゲームが好きなため、楽しんで遊ぶことができました。同時に、操作が慣れない中オンラインでゲームを行う難しさを感じました。対面でしたらすぐに声をかけられるかもしれませんが、オンラインだと操作に時間がかかってしまうため、気持ち時間が長めでもいいのかも感じました。

【7月10日】

【7月11日】



【イベント内容】



17 Toyo オンラインボランティアプログラム2021 「フィリピンの若者をつくるSDGsアクション！」

コーディネーター、 ファシリテーター	小林幸恵さん（特定非営利活動法人 LOOB JAPAN 創設者、代表理事） 吉永幸子さん（特定非営利活動法人 LOOB JAPAN 理事） Ms. Sale Maravillaさん（NGO LOOB Program Manager） Ms. Mary May Joy Quiatchonさん（NGO LOOB Program Manager）
運営・進行	井上栞里（社会学部社会文化システム学科3年 国際ボランティアサークルSalamat） 鶴岡由紀（食環境科学部健康栄養学科3年 国際ボランティアサークルSalamat）
開催期間・日時	Day.1（事前研修）：8月9日（月） 14：00～16：00 Day.2：8月17日（火） 14：00～16：00 Day.3：8月18日（水） 14：00～16：00 Day.4（事後研修）：8月21日（土） 10：00～12：00
会場	Zoomによるオンライン開催
目的	① 「小さな一歩からでも社会を変えていけるきっかけになる」というリアリティを感じ、活動への一歩を踏み出すきっかけを提供すること。 ② 自分自身でさまざまな社会課題に対し、行動するための方法についてヒントを各自が持てるようになること。 ③ 地理的な制約を受けにくいオンライン環境を活用し、遠隔地であるフィリピンの若者と交流できる機会を創出し、広い視野をもったSDGsリーダーの育成をはかること。
参加者数	30名（本学学生のみ）の数字 この他、 LOOB フィリピンスタッフ、 フィリピンユースボランティアの参加あり。
協力	特定非営利活動法人 LOOB JAPAN 東洋大学国際ボランティアサークル Salamat

●活動内容（概要）

ボランティア支援室では、ボランティア活動に触れる機会を提供することを目的として、「Toyo 1day ボランティアプログラム」を2019年度に設け、全7プログラムを実施しました。2020年度以降も継続予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大という状況において、開催を見合わせざるを得なくなりました。この間、ボランティア支援室ではさまざまな社会問題への気づきのきっかけや学びの場を創出してきましたが、本学による対面でのボランティア活動原則禁止の措置が継続する中、非対面による具体的な社会的アクションを伴うプログラム開発へのニーズの必要性も高まってきました。

本プログラムは、「Toyo 1day ボランティアプログラム」の代替としてということのみならず、オンラインだからこそ距離を超えて人や組織と関係を構築しやすいという効用を活かした、新たな選択肢として位置付けた、オンラインボランティアプログラムの第1弾として企画したものです。フィリピン・イロイロ市を拠点に、社会問題の解決を通じた青少年教育活動を展開している特定非営利活動法人（NPO 法人） LOOB JAPAN の「SDGs アカデミア」*1をベースに、本学向けの4日間のプログラムとして構成しました。

以下、企画に携わっていただいた、国際ボランティアサークル Salamat のメンバーからの報告です。

【Day.1】

事前研修では、SDGsやフィリピンについての基本情報を学び、この研修において詳しく学びたいテーマをグループごとに設定しました。私は、Salamatのメンバーとしてフィリピンのセブ島にボランティア活動で訪れたことがありましたが、今回の研修の中心地であるイロイロ市のことは知らなかったので新たな発見がありました。

特に印象に残っているのは、ゴミ山の近くに住む17歳のカルロくんの話です。ゴミ山の近くに住んでいるため、悪臭によってお腹が痛くなったり学校でいじめられたりしているようです。悪臭によってお腹が痛くなるという身体的な健康被害と、いじめられるという精神的な健康被害が問題だと思いました。同じイロイロ市に住む人たち同士でも貧富の差によって苦しんでいる人がいるということは、辛い現実だと思います。そして、イロイロ市民の中には、ゴミ山で生活している人がいるという現実を知らない人もいます。このことから、イロイロ市に住む人々全体がゴミに対する意識を高めていく必要があると思いました。そして、現地の人々だけでなく日本にいる私たちもしっかり考えていくべきだと思います。自分たちが出したゴミが、どんな人に影響を与えるのかということを知らなければ、具体的なアクションを起こすのはなかなか難しいと思います。そのため、こういったプログラムでSDGsについて学ぶということは大きな一歩だと考えます。

また、このプログラムは日本人とフィリピン人という住む環境や直面する問題が異なる立場の人々が意見を交換できる貴重な機会だと思います。この機会を大切にして自分ができるアクションを積み重ねていきたいと思います。

(国際観光学部国際観光学科3年 国際ボランティアサークルSalamat 片山綾菜)

【Day.2】

SDGsとの関連でごみ問題について講義で学び、フィリピンと日本それぞれの状況についてディスカッションを行い、Day.1で決めたテーマについてフィリピンのユースと共有の上、私たちにどんなことが出来るかを話し合いました。フィリピンの学生と交流する最初の日ということもあり緊張し、拙い英語でなんとか伝えようとすごく頭を使いました。

ごみをどうしたら減らせるかについてのディスカッションでは、日本の学生が「マイバッグを持っていく」、「買い物リストを作り、買いすぎを防ぐ」などの意見が多く出たのに対し、フィリピンの学生はさらに加えて、ボトルはペンケースに再利用、お菓子のケースは物を入れるために使う、など徹底した案が出てきて、意識の違いを目の当たりにしました。私たちは日々物に囲まれて生きています。ペンケースも小物入れも安く簡単に手に入るけど、それを買うことで環境に、動物に、そして人にどんな影響が出るのかを考えて消費しなければと改めて感じました。これまでどこか他人事で曖昧だったSDGsが、今回のワークショップで、私たちが行動しなきゃいけない私たちの問題なのだという認識に変わりました。

また、フィリピンのユースとの交流で世界の状況をより身近に感じることができ、自分の意識改革につながったと思います。このプログラムで学んだことをこれからさらに更新していき、自分にできることを継続して実践していきたいです。

(文学部英米文学科1年 国際ボランティアサークルSalamat 佐々木小夜子)

【Day.3】

Day.3では幸福、家族、ジェンダーについて学び、ディスカッションをしました。

最初のレクチャーでは、主に幸せの定義、ジェンダーをめぐる日本の問題について学びました。難しいと感じたことは、幸せの定義でした。自分が思っていた幸せの定義と、世界幸福調査による定義、文化・

宗教観の違いによるその定義の違いが見られ、国や地域、個人個人によって違いがあるため、幸福を定義するのは難しいと感じました。これらの違いは、ディスカッションでのHappiness Pie^{*2}にも見られ、フィリピンユースの方や、同じ日本人でもそれぞれ幸福を感じるどころや、その優先順位に違いがあり、自分と比較して新たな価値観や気づきを得られることがとても楽しく、有意義な時間でした。ジェンダーに関しては、フィリピンと日本では大きな差があり、日本はやはり大幅に遅れていると改めて感じました。ジェンダーギャップも156か国中フィリピンが17位であるのに比べて、日本は120位という事実には驚きました。ジェンダーの問題はこれからもどんどん重要視されていくと思うので、個々人が意識をして積極的にこの問題に取り組んでいくべきだと感じました。

(国際学部国際地域学科1年 国際ボランティアサークルSalamat 大貫花蓮)

【Day.4】

一人一人にできる事をチャレンジ動画にして共有することで、4日間の具体的な総括ができました。

プラスチックゴミを減らす方法や、性の格差に対する解決策を考えるために問題の根本を突き詰めると、私たちの意識や考え方を变えることで改善されたり、改善に一步近づけたりする事がたくさんあることを認識できました。

また“SDGs Learners today, SDGs Leaders tomorrow”ということで、この短い活動の中で私たちは日本とフィリピンの現状や課題を知り、初めてスタートラインに立つことが出来ました。知って終わりにすることなく、ここからは各自が継続して周りを巻き込みながら自分にできる事を行い、ゆっくりでも確実に地球の問題を解決できるプロセスを見つけて未来のために行動していくことが何より大事だと実感しました。

コミュニケーションを図りながらディスカッションをすることは多少の言語の壁を感じたものの、「分かり合う気持ち」のおかげで双方にとって有益な時間を過ごせたのではないかと思います。グローバル化が進む今、学びを辞めることなく世界について幅広い知識を吸収し発信できる力を持てるように努力していきたいと思います。

(文学部英米文学科1年 国際ボランティアサークルSalamat 斎藤亜彩)

*1：詳細は、<https://www.loobinc.com/sdgs-academia.html>を参照。

*2：「どのようなことに幸せを感じるか」、その全体を100%とし、項目別の割合を示す円グラフで表現したもの。パイに見立てているため、この呼称が用いられる。



18 東洋大生がワークショップで考えるSDGs ～イルカ・クジラの世界から見つめる SDGs～【オンライン】

講師	相良菜央さん (I.C.E.R.C Japan (国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター) 代表)
開催期間・日時	2021年8月10日 (火) 14:00～16:00
会場	Web会議システム (Zoom)
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● SDGs の概要について学ぶ。 ● SDGs についての関心を高め、今後の更なる学びや行動に繋がるきっかけを作る。
参加者数	27名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】 学生24名、関係者3名

●活動内容 (概要)

ボランティア支援室では昨年度に引き続き、学生のSDGs についての関心を高め、主体的な行動につなげていくため、SDGs についての学びの場を設けている。今年度第2回目となるワークショップは、SDGs ゴール14「海の豊かさを守ろう」について学ぶことにした。

講師としてI.C.E.R.C Japan (国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター) 代表の相良菜央さんにお越しいただき、学生のディスカッションをメインにした参加型のワークショップとなった。

初めに講師より、「イルカ・クジラ」が住んでいる海がどのような状態になっているのか、講師の幼いころの経験を通して、「町のごみが海まで流れている」こと、「町でゴミを減らせば海まで届かない」との思いを持ち、現在活動を行っていると話があった。

2回のグループワークでは、参加者がそれぞれ「何ができるのか」をディスカッションして、「SNSでの発信」「まずは自分でできること (ゴミ拾いとか) から始める」「大学生であるうちに知識を得て、周りの人や会社を自分たちで変えていく」「購入する商品が環境汚染をしないか確認する」など、前向きな意見が多数集まった。

その際に講師より、海洋汚染を防ぐには、「陸上汚染を防ぐこと」につながっていることや、「結果」だけではなく、参加者が「考える過程」が大切であること、知識を得て、周りに広げることも大切であると話があった。

最後に参加学生より、本日出席した学生間でグループを作り今後も情報共有等ができればと提案があり、実施することになった。
(ボランティア支援室)

今回のワークショップ内の相良さんの話で特に印象に残っていることは、「All as one～みんな一つにつながっている～」ということです。自分たちの行動を少し変えるだけで、(例：プラスチック製の袋をもらわない、地域のごみ拾いに参加するもしくは企画・運営する) 海などの自然を守ることに繋がると

いうことを学びました。僕自身もまずは、自分の行動を改善することから始めたいと思います。

今回のワークショップに参加していた人達からは、様々な知識と考えを聴くことができたのでとても有意義な時間を過ごすことができました。今後、他の議題や実際に行うボランティア活動も一緒に行えたら良いと思っています。これからもこのような取り組みがある時は積極的に参加していきたいです。

(社会学部社会福祉学科1年 SDGsアンバサダー 永瀬広大)



19 カードゲーム「2030 SDGs」

講師	田邊心技（たなべしんぎ）さん （（株）ベネッセコーポレーション 高等教育部門担当）
ファシリテーター	佐伯 希さん 2030 SDGsカードゲーム公認ファシリテーター 進研アド高大接続教育部
開催期間・日時	2021年8月26日（木） 10:00～13:00
会場	Zoomにて配信
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● SDGsの概要について学ぶ。 ● SDGsについての関心を高め、今後の更なる学びや行動に繋がるきっかけを作る。
参加者数	学生15名、関係者3名

●活動内容（概要）

東洋大学SDGs推進室外部アドバイザーでもある、田邊心技さんよりご提案いただき、現在開発中のカードゲーム「2030 SDGs」の体験イベントの第3回目を行いました。

はじめに講師より自己紹介があり、SDGsの概要の説明を簡単に行いました。

その中で、MDGsとの比較（SDGsは途上国だけの事ではない）や現在の日本の状況（世界順位など）紹介をしていただきました。

続いて、ゲームの説明・テストゲームを行ったうえで、実際にカードゲームを行い、「仮想世界」を実際に動かしていく体験を行いました。

回を重ねるごとに、お互いでの協力や自身が必要な情報をみんなに伝えること、交渉の難しさを感じつつ、スムーズにゲームを進めるようになりました。

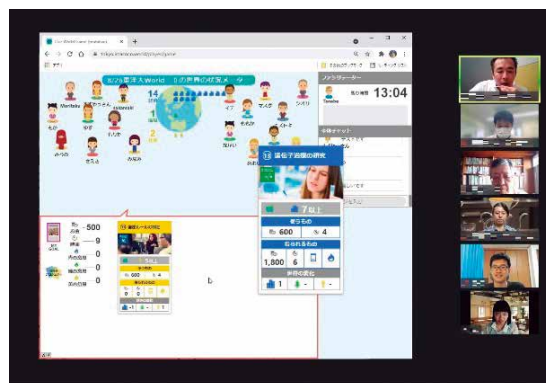
「最終発表」にて世界状況メーター・目標の達成を確認し、ほかの団体での例を聞きながら、本日の振り返りを行いました。

ゲームの世界ではありますが現実の世界で起こっている矛盾や問題点も多く体験することができました。

【アンケートより抜粋】「SDGsがもたらす可能性は？」という問いに対して

- SDGsにより、自分たちの一つ一つの意識の変化や行動などを通して世界を良い方向に導くことができるのではないかと感じた。
- コロナの影響もあるので2030年までに達成することは難しいと感じますが、諦めずに、そしてなるべく多くの人が活動を続けることが重要だと思いました。
- SDGsが英語のようにコミュニケーションツールになる可能性を秘めているのだと強く感じた。また所属学部や学年を考慮しないで大学生と接することは少ないので、自分の意見を持ち発信できる機会を作るための重要なリソースでもあると感じた。

- ゲームを通して、経済と環境と社会のバランスを取ることが非常に難しいことを痛感しました。これらのどれかが疎かになったり強化し過ぎたりすると、同時にドミノ倒しのように全てが世界が崩れてしまうことが分かりました。だからこそSDGsという経済と環境と社会に関係する多くの目標を作ることで、バランスの取れた世界にしていくことができるのではないかと感じました。



20 東洋大生がワークショップで考えるSDGs

講師	八木亜紀子さん（認定特定非営利活動法人開発教育協会（DEAR））
開催期間・日時	2021年10月9日（土） 10:00～12:00
会場	Zoomによるオンライン開催
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● SDGsの概要について学ぶ。 ● SDGsについての関心を高め、今後の更なる学びや行動に繋がるきっかけを作る。
参加者数	計20名 【内訳】 学生17名、ボランティア支援室スタッフ3名

●活動内容（概要）

ボランティア支援室では昨年度に引き続き、学生のSDGsについての関心を高め、主体的な行動につなげていくため、SDGsについての学びの場を設けました。今年度第3回目となる今回のワークショップは、秋学期を迎えたので、5月に行った「初めてSDGsを学ぶ学生を対象」を再度行いました。

講師として認定特定非営利活動法人開発教育協会（DEAR）の八木亜紀子さんにお越しいただき、学生のディスカッションをメインにした参加型のワークショップとなりました。

今回のワークショップでも、冒頭でグループに分かれてのアイスブレイクの時間を十分に取り、今わたしたちが直面している新型コロナウイルスと共存していく社会に対して、自分の率直な気持ちを語り合うことからスタートしました。学生からは約一年半続いている不自由な生活や「対面授業」を行いたいとの希望が多く語られておりました。若干「オンライン疲れ」を感じる中で、学年や学部が異なる学生間での会話について素直に喜ぶ点も見られました。

ワークショップでは、春学期と同様に発展途上国や先進国を含めた世界9か国の様々な数値データ（人口、CO₂排出量、格差の度合いを示すジニ係数など）について、15年前の数値と近年の数値を比較しながら、「持続可能な開発」とは何かということを考えていきました。そして、その数値がこの「コロナ後」にどう変化していくと思うのかを参加者同士でディスカッションしました。新型コロナウイルスにより、世界の経済活動が大きく変わった中でも変化があったもの、一方で変わらなかったものがあり、with コロナ社会をこれからどのように作り上げていくのかを考えるきっかけとなりました。

世界の現状、そして過去15年における変化について理解を深めたところで、2030年に向けた課題解決の目標であるSDGsについてレクチャーがありました。アジェンダ2030に記された今日の世界に対する「強い危機感」を受け取り、私たち自身が具体的に行動を変えていくことの必要性を実感させられるとともに、普段の暮らしの中こそサステナブルな視点を持つことの大切さを学びました。

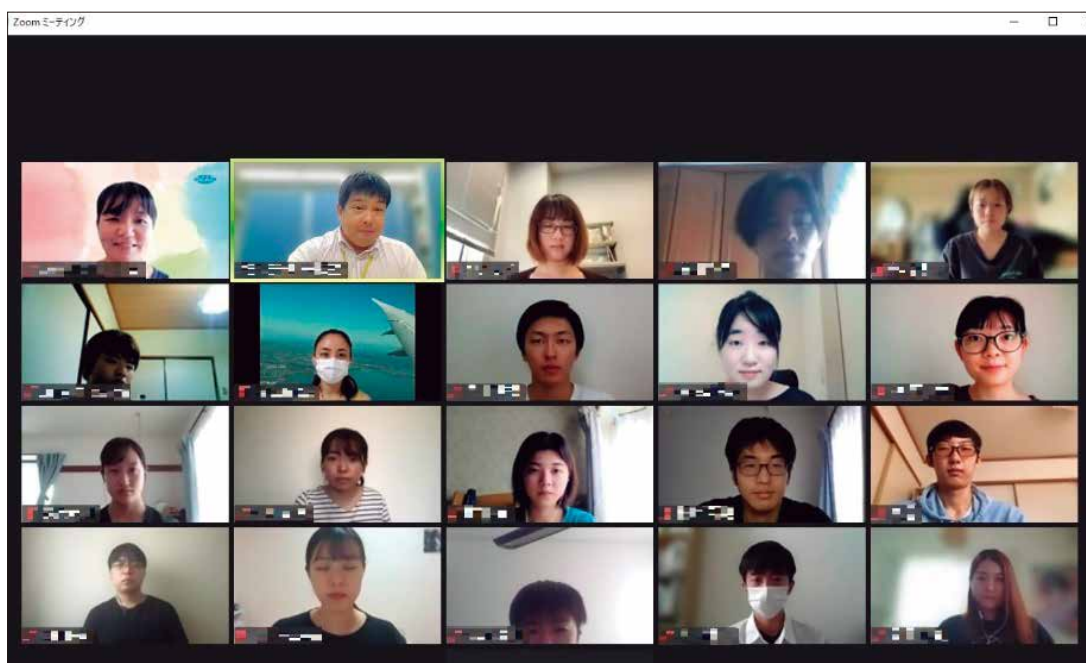
参加した学生からは、「SDGsを意識して生活をしていきたい。」「時間はもうないので、すぐにもアクションをする必要がある。」といった「自分ごと」として認識し、具体的な活動をつなげていく意見が多くありました。

また、ワークを行う中で、自分にはなかった視点からの意見を聞くことができ、オンラインではありましたが、他者との交流ができたことで多くの学びを得ることができたようです。

世界の現状、そして過去15年における変化について理解を深めたところで、2030年に向けた課題解決の目標であるSDGsについてレクチャーがありました。アジェンダ2030に記された今日の世界に対する「強い危機感」を受け取り、私たち自身が具体的に行動を変えていくことの必要性を実感させられるとともに、普段の暮らしの中こそサステナブルな視点を持つことの大切さを学びました。

ボランティア支援室では、引き続きより多くの学生がSDGsについて関心を高めることのできるよう、こうした学びの場を「対面」でも提供できるように準備をするとともに、学生一人ひとりが「自分ごと」であることを意識し、具体的に活動を行うことができるような機会を作っていきたいと思います。

(ボランティア支援室)



21 Toyo オンラインボランティアプログラム2021 「海を守るのは君だ!～家から参加できるSDGs ボランティア～」

ファシリテーター	相良菜央さん (I.C.E.R.C Japan (国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター) 代表)
運営・進行	宮下垂美 (国際学部グローバル・イノベーション学科3年 ボランティア支援室サポートスタッフ) 及川みなみ (理工学部機械工学科2年 ボランティア支援室サポートスタッフ)
開催期間・日時	Day.1 : 11月21日 (日) 10:00～11:30 Day.2 : 12月5日 (日) 10:00～11:30
会場	Zoomによるオンライン開催
目的	① 「小さな一歩からでも社会を変えていけるきっかけになる」というリアリティを感じ、活動への一歩を踏み出すきっかけを提供すること。 ② 自分自身でさまざまな社会課題に対し、行動するための方法についてヒントを各自が持てるようになること。 ③ SDGs Goal 14,15は、都市生活と切り離されているものではなく、つながっているものであることに気づき、社会の循環性を実感し、社会課題を包括的に捉える視座を得ること。
参加者数	13名 (本学学生のみ)の数字) ※ほか、I.C.E.R.C Japan ボランティア1名が参加。
協力	I.C.E.R.C Japan (国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター)

●活動内容 (概要)

「Toyo オンラインボランティアプログラム2021」第2弾は、SDGs Goalの14番「海の豊かさを守ろう」に対応したプログラムとして開発。本年8月に実施した「東洋大学がワークショップで学ぶSDGs」で学んだことを、オンラインながら何かしらのアクションに結びつける機会を提供することを企画意図としました。以下、企画運営に携わったボランティア支援室サポートスタッフからの報告です。

【Day.1】

Day.1では主にI.C.E.R.C Japanの相良菜央さんの話を聞き、1グループ4人ほどのルームに分かれて感想の分かち合いや、私たちができるアクションについてディスカッションを行いました。

相良さんの話では、最初にアイスブレイクとしてイルカクジラに関するクイズを行い、次に海に投棄されるプラスチックゴミによってイルカやクジラが苦しんでいるという話を聞きました。特に私が印象に残ったのは、1頭のイルカの胃の中からでてきた大量のプラスチックゴミの画像です。その画像のプラスチックゴミは死んでしまったイルカの死因を調べようとして出てきたものですが、たった1頭のイルカの中からあれだけ多くのゴミが入っていたということにショックを受けました。そのゴミの中には私たちが普段から見かけるパッケージやペットボトルの破片、海で見つかるはずのないプラスチック製の植木鉢のよう

なものもあり、私たちが他人事ではないことに気付かされました。

その後のグループディスカッションでは、1回目のセッションで感想を共有し、私と同じようにショックを受け、今からアクションを起こさないと手遅れになってしまうと焦りを感じていた参加者もいました。2回目のセッションでは、私たちが今からできるアクションをグループで考えました。私のグループではイルカの口の形をしたゴミ箱を設置しようというユニークな案や、常にゴミ袋と割り箸を携帯し、通学途中などちょっとした時間にゴミ拾いをしようという案が上がりました。グループワークを通じて私自身も刺激をもらい、今から行動しようという思いが強くなりました。

最後に自分の環境に良いと思った行動や悪いと思った行動をDay.2まで毎日記録する課題が出されました。Day.1では、環境問題の現状を知って、私たちにどんなことができるだろうということを考えました。Day.2までにしっかりと自分の行動を振り返り、Day.1で考えたアクションを実行に移し、環境に良いアクションを習慣化できるように、課題に取り組んでいきたいと思います。

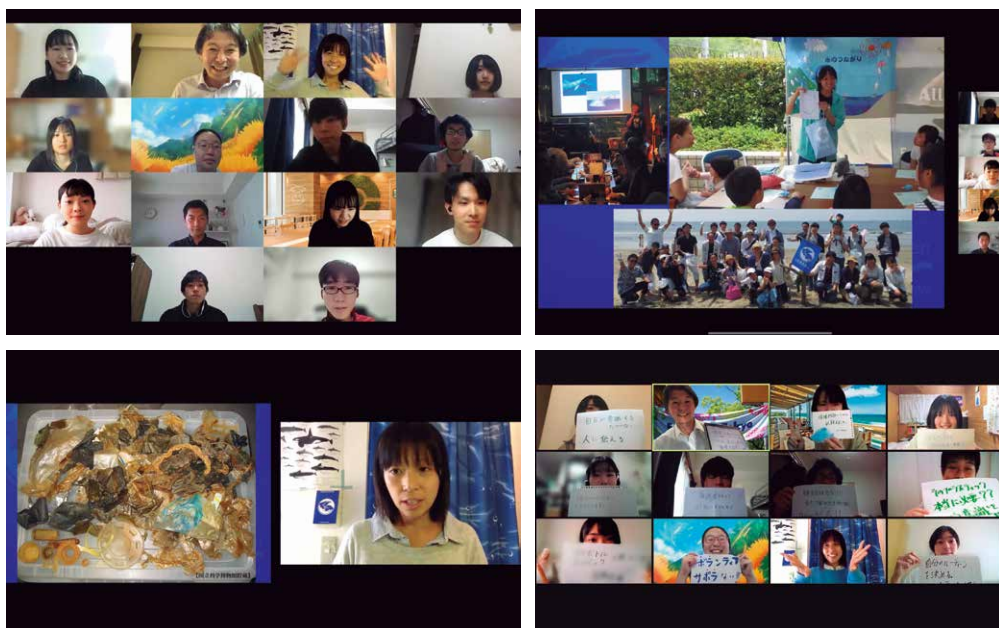
(経済学部総合政策学科2年 ボランティア支援室サポートスタッフ 瀬野晴仁)

【Day.2】

Day.1のときのことを踏まえて、一人ずつ考えた課題を前と違う各グループに分かれて、どのようなことをDay.1からDay.2にかけて取り組んだのかということについて共有しました。挙げられたものは例えば、コンセントを抜いて節電、ごみをあまり出さないようにする、ごみ拾いをする、環境問題について家族に伝えるということなどです。大きなことではなく、小さくでもよく、行動を少しでもすることが大切だと思いました。ゴミ拾いも、みんなが少しやれば大きくなります。その小さな行動の輪を広げていけたらいいと思いました。また、Day.2に参加できなかった方たちの中に動画を作った方々がおり、全員でそれを視聴しました。

相良さんからの講評ののち、最後に今までの振り返りと学んだことや感想を共有して、今後の活動をどうしていくか一人ひとり目標を紙に書いて共有しました。環境問題はすぐにはなくなるわけではないので、今後もこのような活動をしていき、少しでも変えられるように頑張っていきたいと思いました。

(理工学部機械工学科2年 ボランティア支援室サポートスタッフ 及川みなみ)



22 東洋大生がワークショップで考えるSDGs 「SDGsの意義と限界：労働相談現場から 見えてきたこと」

講師	青木耕太郎さん（NPO法人POSSE（総合サポートユニオン共同代表））
開催期間・日時	2021年12月23日（木） 14：00～16：00
会場	Zoomによるオンライン開催
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● SDGsの目標8である「働きがいも経済成長も」への学びや理解を深めること。 ● アフターコロナ禍における就職への不安を抱える学生同士の交流の場を設け、今後の就職活動や働き方についての考えを共有しあう機会を作ること。
参加者数	計13名 【内訳】 学生10名、ボランティア支援室スタッフ3名

●活動内容（概要）

ボランティア支援室では2020年度に引き続き、学生のSDGsについての関心を高め、主体的な行動につなげていくため、SDGsについての学びの場を設けている。今回のワークショップは今年度4度目の開催であり、就職活動の時期とも重なっていたため、「雇用・労働・経済」をテーマとしたワークショップが開催された。

今回のワークショップは、若者の労働・貧困問題に取り組んでいるNPO法人POSSEの青木耕太郎さんに講師としてお越しいただいた。POSSE（ポッセ）は2006年に若者バッシングへの対抗として、若者の労働と格差の問題に取り組むNPOとして発足し、主に東京・仙台を中心に活動している。2014年に個人加盟の労働組合・総合サポートユニオンを設立し、2019年にPOSSE外国人労働サポートセンターを設立し、2020年にLGBTQの労働問題に関する取り組みを開始するなど、様々な対象が抱える労働問題への取り組みがなされている。

ワークショップの前半では、「SDGsの意義と限界：労働相談現場から見えてきたこと」と題して講師よりお話をいただいた。SDGsは、利潤追求を目的とする企業も無視できない存在となってきており、様々な企業がSDGs達成に向けて行動し始めている。しかし、SDGsが企業の事業活動の公共性・正当性のアピールの手段として使われてしまっている現状もあり、実態を伴わないこともあるようだ。このような状況下で、SDGsの達成を目指すには、目標達成のためのルールや罰則が存在しないことを受けて、市民団体、社会運動等による「監視」と「圧力」が必要不可欠である。また、Z世代と呼ばれる、社会問題に比較的関心の高い世代が出てきており、企業はその世代をターゲットとしたマーケティング戦略も行う必要が出てきた。現在の企業は、SDGsによって社会問題への行動が変わってきている。

しかし、企業が率先してSDGs達成のために行動を起こしていても、自社の社員の扱いがぞんざいになっ

てしまっている現状がある。例えば、あるSDGsの取り組みで有名な企業で働く若者からの相談では、SDGsプロジェクトチームが立ち上がってはいるが、その業務は業務時間外に行うように指示されている、という現状が分かったそうだ。SDGsの目標の8には「働きがいも経済成長も」という項目がある。しかし、実際はSDGsから「労働」が抜けてしまっている。他にも、SDGsへの貢献を主張している大手の企業では、従業員の権利を尊重せず、多様性を認めない実態もあるそうだ。企業は、SDGsへの貢献を主張するだけではなく、実態も伴い、さらに、一部の分野の達成だけを指すのではなく、従業員も含めた総合的なSDGs達成を目指す必要がある。

これらの企業によるSDGsの実態の改善を目指し、デモや労働組合による運動などの行動が起こされている。講師による若者からの労働相談事例の紹介、写真や動画の共有などを通して、ワークショップに参加された学生はより現場の「生」の様子をイメージすることができ、普段と異なる視点からSDGsを考えることができた。

ワークショップの後半では、個人ワークとグループワークの時間が設けられ、講師のお話を踏まえ、さらに自分自身の日常生活での見聞きの経験などを振り返りつつ、ワークシートにそれぞれが抱いた、疑問点や感想、気付きを共有した。

グループディスカッションの時間では2つのグループに分かれ、私が所属したグループでは、様々な意見や疑問が出た。主にどのようにすれば社会や企業を変えていけるかということに関して、互いに感想を話した。特に、現在の学生である自分たちは、SDGsの労働問題を解決するために何ができるのかについて話題に上がっていた。現在の労働環境は上下関係が大きく、若い人が声を上げて環境を変えにくいという意見にまとまった。また、SDGsに興味を持っているZ世代はまだ働いた経験が少ないと思われるので、「労働」が抜けてしまうのは仕方がないという意見もあった。今後、Z世代が歳をとっていき、職場で動きやすくなる世代になるのでその時からZ世代が中心となって社会を変えていけるのではないかという意見にまとめられた。

グループディスカッションの後、再び全体で集まり、それぞれのグループの意見を共有した。その際に、各グループで出た疑問が共有され、講師の青木氏が回答してくださった。職場であまり意見を主張できない若い世代が社会を変えるために何ができるのかという質問に対して、労働組合に加入して意見を主張する方法をコメントしていただいた。労働組合は現在賃金上げだけでなく、従業員の職場環境の改善のためにも運動を起こしているとのことである。多様性を認める職場の必要性を労働組合に所属することで主張できるという考えにとっても衝撃を受けた。労働組合は、適切な賃金を求めて行動しているのだと思っていたので、社会問題解決のための手段としては思いつかなかったからだ。

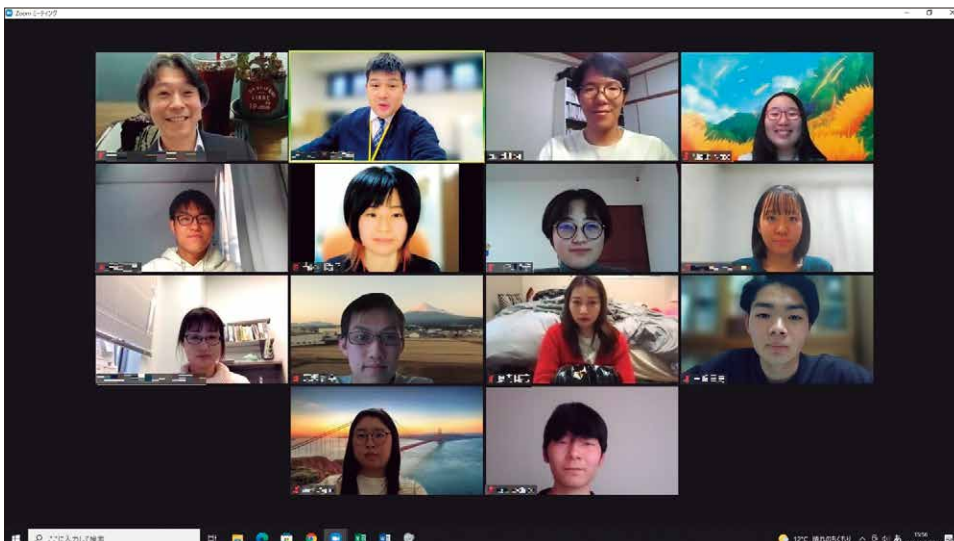
今回のワークショップは、私にとってとても衝撃の大きい学びとなった。私はアルバイト経験が少ないこともあって、労働に対してあまり具体的なイメージを抱けず、SDGsと労働の関係性もあまり考えてこなかった。しかし、ワークショップを受けて、労働問題もSDGs達成のために欠かせない分野だと思い直すことができた。

グループワークの際に感じたのは、学生は大人たちが行っているSDGs達成のための活動に不満や疑問を多く抱いている、ということだった。話を進めると、メンバーそれぞれが抱えている現在のSDGs達成の実態への不満が出てきて、さらにお互いに意見も出し合っていき、議論が盛り上がった。青木氏のお話の中にあっただ企業のSDGsの実態や矛盾は、実際に学生も薄々と感じていた。これらの意見が出せ

るのは、行動を起こす運営について知らないからなのではないかと私は考えた。実際、私も社会で起こっている権利侵害になぜ行動がすぐ起こせないのかと感じていることも多かった。しかし、これらの実態は、当事者の怠慢や無理解もあるかもしれないが、行動を起こしにくい事情も多くあるのだと思われる。例えば、人手不足や資金不足、資源不足、制度の不備等が考えられる。これらの現状をまだ知り切っていないので、学生は意見を言えるのではないかと思った。しかし、学生は先入観があまりない状態だからこそ、多くの意見を出せ、当事者が抱える問題解決のための行動を起こそうと思えるのではないかとも思った。このように、当事者のことを考えて意見を率直に出せる力が学生といった、Z世代にあるのだと感じた。このZ世代が意見を出し、その意見を持ったまま、運営といった行動を起こせる側になった時に、社会は大きく変えられるようになるかもしれないと感じた。

SDGsは現状で多くの課題がある。しかし、その課題を認識し、解決しようとする力がZ世代にはある。より多くの人々がSDGsに興味を持って理解をし、その人たちが働くようになった時に労働も含めたSDGsの達成ができるのだらうと、ワークショップを受けて強く感じるようになった。

(社会学部社会福祉学科3年 SDGsアンバサダー 古藤田温子 ボランティア支援室)



23 東洋大生がワークショップで考えるSDGs ～教育現場からジェンダーを考えてみよう～

講師	高石啓人さん（山梨県立大学講師）
開催期間・日時	2022年2月18日（金） 10:00～12:00
会場	Zoomによるオンライン開催
目的	学生の皆様にとって身近な教育現場を取り上げ、ジェンダーとは何か、具体的にどんな場面でジェンダーに関する問題が起きているのかを考えることを通して、ジェンダーとSDGsの関わりを学び、意識や行動の変化に繋がるきっかけを作る。
参加者数	計24名 【内訳】 学生20名、教職員4名

●活動内容（概要）

ボランティア支援室は東洋大生のSDGsへの関心を高め、学びを深め、行動につなげるため、SDGsワークショップを開催している。今回のワークショップは今年度5回目の開催、そして最後の開催となった。今回のワークショップ企画にあたって、ボランティア支援室はSDGsアンバサダーの学生に、春休み中にやりたい・参加したいワークショップのテーマについて事前アンケートを行った。また前回ワークショップ参加者へのアンケートも実施したところ、ジェンダーとSDGsについて学びたいという声が多数あったため、今回のSDGsワークショップ企画に至った。「教育現場からジェンダーを考えてみよう」と題して、大学生の皆様にとって身近な教育現場を取り上げ、ジェンダー問題にかかわるSDGsを学ぶ機会とした。講師としては、山梨県立大学の講師、また本学の社会学部非常勤講師でもある高石啓人先生にお越しいただいた。また、ゲストとしては、社会貢献センターの運営委員であるジェイムズ・ショート先生にもご参加いただいた。

はじめに、講師と参加者が簡単に自己紹介をしたうえで、アイスブレイクとして性別による違いを感じたり見聞きした経験に関するディスカッションを行った。5グループそれぞれ活発なディスカッションが行われ、様々な話題があがった。学生として経験してきたり見聞きしてきたジェンダーについては、例えば小学生のランドセルの色や体操着の色は男女によって決まっていること、男女トイレの違い、体育の授業では男子女子が別々などのことが挙げられた。各グループであがった話を学生により発表していただきつつ、講師によりまとめられた。

そこから、そもそもSDGsとは何か、SDGsにおけるジェンダーはどんなことを指しているのかについて、講師よりお話をいただいた。2015年9月国連サミットで採択されたSDGsは「誰1人も取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のために、2030年までに達成すべきとされる17個の目標が設定されている。そのため、SDGsは「普遍性」「包摂性」「参画型」「統合性」「透明性」といった

性質をもっている。今回のワークショップのメインテーマであるジェンダーに関して、そもそもジェンダーとは社会や文化によって作られる性別のことを指し、性別的な性と別に、男女の社会的・文化的役割の違いや男女間の関係性を示している。SDGsの17個の目標のうち、5番目に「ジェンダー平等を実現しよう」という目標が定められている。またこの目標の下、具体的には6つのターゲットが設定されている。最初に学生の皆さんから出された様々性別による違いのトピック、または話を聞いて新たに思いついたことを含めて、それぞれこの6つのどれかに当てはまるのかここで再整理することで、2度目のグループディスカッションが行われた。

グループディスカッション・発表と講師のお話によって、以下のようなことが挙げられた。5-1の「すべての女性と女の子に対するあらゆる差別をなくす。」については、男女の制服が別れていることや校則、偏見などが当てはまっている。5-2の「女性や女の子を売り買いしたり、性的に、また、その他の目的で一方向的に利用することをふくめ、すべての女性や女の子へのあらゆる暴力をなくす。」については、女の子は子育てするために生きるから勉強する必要ないといった言葉の暴力や「パパ活」、「港区女子」といった揶揄などが存在する。5-3の「子どもの結婚、早すぎる結婚、強制的な結婚、女性器を刃物で切りとる慣習など、女性や女の子を傷つけるならわしをなくす。」については、高校生の妊娠による退学、早く・遅く結婚または出産することで冷たい目線を向けられるなどがある。5-4の「お金が支払われない、家庭内の子育て、介護や家事などは、お金が支払われる仕事と同じくらい大切な「仕事」であるということを、それを支える公共のサービスや制度、家庭内の役割分担などを通じて認めるようにする。」については、出産によって職場への復帰が難しいことや育休制度を使いづらいこと、学校では女子は家庭科しか選択できないといったことがある。5-5の「政治や経済や社会のなかで、何かを決めるときに、女性も男性と同じように参加したり、リーダーになったりできるようにする。」については、「リケジョ」といった言葉の存在や生徒会における男子女子の役割の違いがある。5-6の「国際的な会議で決まったことにしたがって、世界中だれもが同じように、性に関することや子どもを産むことに関する健康と権利が守られるようにする。」については、LGBTQや同性婚の話が関連している。このように、学生がこれまでに学校や日常生活の中で感じたジェンダーに関する違和感は根本的にどこに問題があるのかを整理し、再認識することに繋がった。

続いて、なぜ我々の生活や教育の中でジェンダーが作られているのかという問いに対して、講師は「隠れたカリキュラム」についてお話しいただいた。隠れたカリキュラムとは表にはっきりと示されているカリキュラムではなく、自然と促され身につくカリキュラムのことである。具体的に、番号順では男子が先女子が後、生徒会長・主リーダーが男子で副会長・副リーダーが女子などといったこと、1つ1つは一見小さいことだが、教育の中で積み重ねることによってそういった価値観は自然と受けてしまい、身につくのである。

日本の場合、1989年まで学習指導要領においては、中学生は男子が技術・女子が家庭、高校生は男子が体育・女子のみ家庭科が必修となっていた。このように特定な教科が性別に結びつけられることによって、女子は家事を担当、男子は力仕事を担当するという性別役割分業に固定されてしまう。隠れたカリキュラムにはどのようなことが存在するのかについても、学生の皆さんによる3度目のグループディスカッションが行われた。講師の解説やグループディスカッションを通して、日本の教育現場における隠れたカリキュラムは社会におけるジェンダーの再生産につながってしまうことが確認された。このようなジェンダーの再生産を越えるためには、1人ひとりが感じる違和感を大事にし、その背景や問題の所在を考

えることが大事である。

本日のワークショップは日本の教育現場におけるジェンダーをメインに話が進められたが、イギリスや中国での話も少し触れることができ、国や文化によってジェンダーの問題も違うことについて確認された。参加者された学生全員は積極的にグループディスカッションに参加し、発言をしていた。また、3回のグループディスカッションはそれぞれランダムでグループを変遷したため、毎回違うメンバーと話し、より多くの人と意見や感想を交換することができたのではと思われる。全体的に時間が押してしまった関係で、予定よりも15分ほどのびてしまったが、学生の皆さんは最後までワークショップに参加され、アンケートでもほぼ「満足」「やや満足」と回答していただいた。以下、アンケートより学生からいただいた感想を一部記載する。

<ワークショップ参加について>

- いろんな学生さんの意見や、日本以外の話も聞いて本当に楽しかったです。
- 毎回ブレイクアウトのグループが変わったことで、色んな人とディスカッションをすることが出来て、貴重な時間であった。
- 厳しすぎることもなく、ワークショップ初心者の自分が参加しやすかった
- この機会を設けていただき、ありがとうございました。ジェンダー問題はもちろん、こういった機会を通して、他の学部・学年の方とお話しできて良かったです。

<テーマ・内容について>

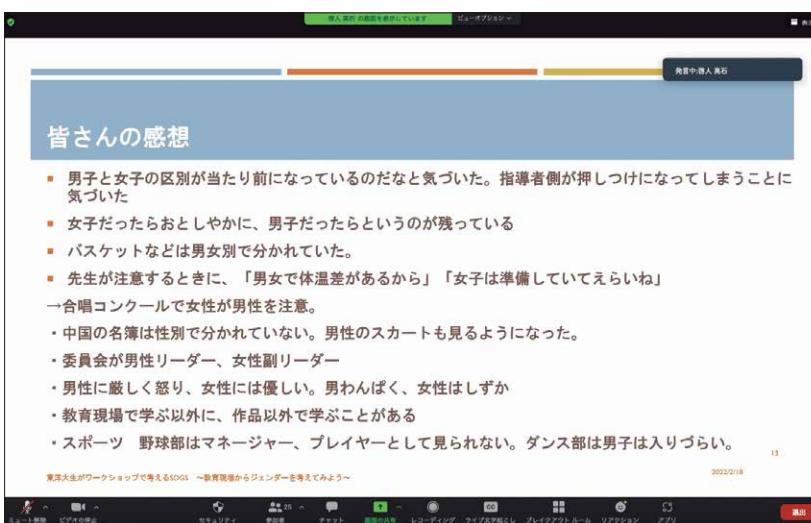
- 教育の現場には、今まで自分が気づけなかつただけで、様々なジェンダー差別が潜んでいることを認識したため、とても興味深かった。
- 当たり前と思っていたことがそうでもない、積み重なっていったことが結果的に「～すべき」という考えに至ることを学べた
- 大学では講義で軽く触れただけで、あまり深い部分までは知らなかったのですが今回で理解が深まったように感じます。自分がこれまで知らなかったことや気がつかなかったことを知ることができ、視野の広がる良い機会でした。今後もジェンダーについて考えていきたいです。
- 隠れたカリキュラムに怖さを感じた。ジェンダーや性に関することは自然と価値観が身についてしまうことが多いと知った。自然と身につくことは固定概念にとらわれている場合もあるため、正しく学べていない状況が危険であると分かった。
- 隠れたカリキュラムの中で、多くの人が問題点に気づいていると感じて嬉しかった。
- 隠れたカリキュラムは性ホルモ的な問題なのか、社会的システム的な問題なのか、境界線を考えるのは難しいと感じた
- 冷静に考えると「なぜ?」ということが多数あることに気づけました。

<今後について>

- 改めて、私が大学でジェンダーを学びたい意志を再確認し、モチベーションに繋がることができました。私はジェンダー問題に対して敏感であると自分で考えていましたが、グループワーク等を通して今まで「普通」だとおもって育ってきた教育現場の中でも、隠れた問題があることに気付きました。

- ジェンダーに関することが世間で問題となっているということで、興味・学びを深めたいため受講させていただきました。受講前には気づけていなかった問題が多く、「ジェンダー教育」との接点をより増やしていく必要があることを改めて実感しました。今回のワークショップをきっかけに自分なりに調べ、行動し、まずは身の回りの友達・人々に伝達していきたいなと思います。
- 元々、環境問題の解決に興味があり、それをきっかけにSDGs・ジェンダー問題について知りました。今回のワークショップは、自分がジェンダー問題についてより深く考えるととても良い機会となりました。これからも自分なりに調べ、ジェンダー問題だけに関わらず、社会問題の解決に目を向けていきたいなと思います。

(ボランティア支援室)



24 デイキャンプで遊ぼう会 (千葉県の里親子と大学の共同デイキャンプ)

開催期間・日時	2021年11月3日(水) 10:00~15:00
会場	千葉県船橋市立青少年キャンプ場
目的	大学生は子供たちとともにキャンプ場内で保護者の方の目の届くところで遊び、里親のみなさんには里親同士で交流を行える場を提供する。その中で里親子がリラックスできる空間づくりを行う。
参加者数	105名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】学生51名、大学教員関係者8名、船橋市役所3名、里親子43名
協力	特定非営利活動法人こども福祉研究所

●活動内容(概要)

里親制度は都道府県知事が委託する事業であり、里親家庭の実態と支援が基礎自治体ではほとんど行われておらず、里親子は地域の支援を受ける機会がほとんどない。それを学生たちが中心となって仲介し、地域の人たちとデイキャンプをしながら交流するものである。

森田ゼミの学生と募集で募った一般の学生ボランティアが今回の活動に参加しており、学生たちは事前に里親子制度について子どもたちの特徴、子どもたちとどう接するべきかについて里親支援者の講義を通して学び、当日に向けて準備した。

デイキャンプ企画として新型コロナウイルスの影響により昨年と同様に、例年実施していたカレー作りは出来なかった。しかし、森の中にあるキャンプ場内で3密を避け、消毒を頻繁に行いながらウォークラリーを学生と子どもがペアになり、森の中を歩きながらポイント地点でおにぎりや果物、お菓子を得ていく形で食事の準備を行った。ペアの学生とポイント地点でなぞなぞやキャラクター当てクイズなどのゲームを一緒に行うことや、昼食後のかけっこやボール遊びを通して、里親子との交流を楽しんだ。

【参加学生の声】

- 子どもに楽しんでもらえて、自分も楽しむことが出来てとても良かった。
- 初めて里親子と触れ合ってみて、里親子がどんな関係性を築いているのか、想像ではなく実際に見て知ることが出来た。
- このボランティアを通して、里親子の暖かな関係性を通して知ることが出来、このような家庭的養育がもっと増えれば良いと感じた。
- 「普通」に育てようと努力している里親の皆さんや里親との信頼関係を築いて「普通」にはしゃいだり笑ったりする里子の姿を見て、子どもを育てる環境づくりを本気でやっている大人はたくさんいると実感した。また、この子達が幸せに育っていくために、自分は何ができるだろうと考えた。



25 福島県の子どもに寄り添うプログラム

主催者名	山口美羽さん（社会学部社会福祉学科4年：森田ゼミ）、ボランティア支援室
開催期間	2022年1月8日（土）～1月9日（日）
主な場所	郡山市大槻公民館、ビッグパレットふくしま、ホテルリステル猪苗代
目的	以下の目的のために、福島県の被災した子ども達と交流を行う。 1. 子ども達が自分の居場所を感じ、生きていることが楽しい、嬉しいと感じるようサポート。 2. 新型コロナウイルスの影響で遊び等が制限されているため、子どもたちに遊びや交流の機会をつくる。
参加者数	56名 ※主な内訳は、以下の通り。 本学 41名 （森田ゼミ生19名、一般公募学生20名、森田明美教授、小野道子本学非常勤講師） 学外者 15名 （NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・福島の関係者／子ども11名、スタッフ4名）

●活動内容（概要）

本企画は、森田ゼミ生有志が中心となり、「NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・福島」の協力を得て、企画運営しました。また、東洋大学学生課外活動育成会の支援金により、本企画を開催することができました。

昨年は新型コロナウイルスの影響で現地の子どもたちと本学学生のオンラインによる交流を行いましたが、今年は一泊二日で現地での対面活動を行うことができました。一日目は「大槻公民館」にてレクリエーションと学習支援を、二日目は「ホテルリステル猪苗代」にて雪遊びと学習支援を行いました。二日間ともレクリエーション・雪遊びグループと学習支援グループに分かれて活動を行いました。

一日目は、大槻公民館の体育館でレクリエーションを、和室で学習支援を行いました。レクリエーションでは、新聞紙タワーや絵伝言ゲームなどを子どもと学生のペアごとで競い楽しみました。初めは子どもたち、学生どちらも緊張していたように見えましたが、レクリエーションを一緒に楽しんでいるうちに緊張が解れレクリエーション自体も盛り上がっていきました。学習支援では、ホワイトボードを用いてわかりやすい支援に努めました。また密にならず、その上子どもとの距離が離れすぎないようにアクリル板を挟んで向かい合う形で行いました。

子どもたちとの交流終了後、学生はビッグパレットふくしまの会議室に移動し、その日の反省会を行いました。反省で多く挙げられたのは、学生主体で進めてしまったという意見でした。一日目の反省を生かし、二日目の活動に向けて子ども主体で活動を進めていくにはどうすればよいかを話し合うほか、今後のスケジュールの確認が行われました。

二日目は、ホテルリステル猪苗代のスキー場にあるスノープレイランドのエリアで一日目のペアごとに交流を行いました。そりや雪合戦、雪だるまづくりなどをして交流を深めました。学生は雪に慣れていないこともあり、子どもたちから雪遊びについて教えてもらいました。二日目は一日目と違い、室外での活動であったため、アクティブに遊びまわる子どもたちの様子を見ることができました。

二日間を通してたくさんの子どもたちの笑顔がみられ、楽しんでいる様子がうかがえて活動の目的は達成された。



26 南三陸の若者と東洋大学生が考える被災地支援

開催期間・日時	2022年2月13日（日） 14:00～17:00
会場	オンライン（Zoom）
目的	被災地での交流・体験を通じ、震災についての知識を深め、学んだ内容をこれからの未来にどのように活かせるのか、どのように次の世代へつないでいくのか考える。一東日本大震災から11年という月日が経った今、直面する問題は「風化」である。我々の震災についての記憶が薄れつつあるなかで、いつ次なる災害が起こってもおかしくない。過去の震災からの教訓を踏まえ、私たちの生活を守ることが求められる。そのために、改めて震災について学び、これからの生活への活かし方や次の世代への記憶の受け継ぎ方を考える必要があると考える。
参加者数	17名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】学生10名、運営7名
協力	Project “M”、東洋大学学生課外活動育成会

●活動内容（概要）

当初は「対面」での実施を予定し学生募集を行ったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、今年度も「オンライン」での実施となった。変更の対応をしながらも運営学生はProject “M”の皆さんと何度も事前打ち合わせを重ねて、資料の作成や企画の変更等を行ってきた。また、「対面」で行いたかったことも、工夫を凝らしてオンライン上で表現をすることにも挑戦した。

○プログラム

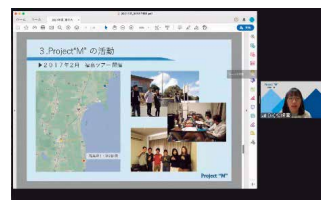
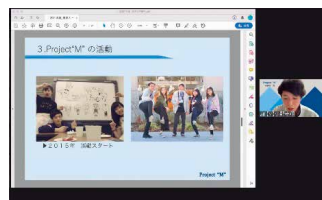
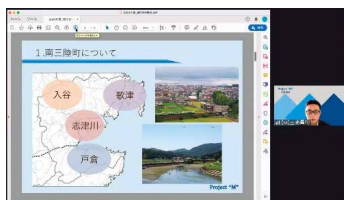
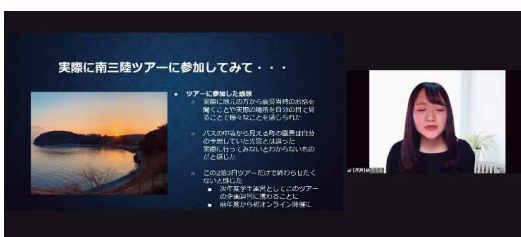
1. 実績紹介：本日の企画の趣旨とこれまでの活動の紹介、本日の流れを説明
2. 自己紹介・アイスブレイク：本日の参加者同士で自己紹介
3. 3.11基礎知識：東日本大震災について、データ等を用いて東日本大震災および今回の訪問地である「南三陸」での状況について「振り返り」を行った。
4. Project “M”による語り部：東日本大震災の時に南三陸町で被災したProject “M”のメンバーより、当時の体験を話していただいた。突然の災害で混乱し、パニックになりながらも彼らがこの時に何を思い、行動を起こしてきたのか。自然の驚異には「何もできなかった」こと、地震の後の「無力感」「絶望感」「家族の安否がわからない不安」、その後の避難生活について本音で語ってもらうことができた。また、Project “M”の活動を始めたきっかけや、11年間の活動における社会やProject “M”メンバーの気持ちの変化について。また、「震災を知らない世代」へ伝えていく方法などのお話をしていただいた。
その後グループに分かれて参加者間での感想やProject “M”メンバーへの質問を共有した。

5. 今日学んだことを今後どう生かせるか考える：過去に起きた震災の体験とその後の状況
初めに個人ワークを行い、再びグループに分かれてディスカッションを行った。

- 自分たちは他人ごとになっている。「生」の声を聴くことがとても大切。「普段の生活」がとても大切。
- 「自然」に“絶対”はない。なので、最善を尽くす。今回聞いたことを「人」へつないでいくことが大切。
- 「当事者意識を持つことは難しいけど、“自分事”になるようにする」「地元の人たちが誇りを持ってもらえるために応援する。(商品を買う)「日ごろから防災意識を持つ」(避難訓練)「やっぱり現地に行きたい!」などの意見があった。

【事後アンケートより】

- タイトルにあるようにとにかく支援できればと思い参加しましたが、むしろとても勉強させていただきました。ありがとうございました。
- 初めて被災者からお話を聞きましたが、知らないことばかりでした。知らなければならないことを知ることが出来ました。
- 急遽オンラインの開催となったため、イベントの内容も大きく変わるものだと思っていましたが、希望していたProject “M”の語りを聞き、意見交換もできたため満足です。
- 語り部の方々の話を聞いて、さらにそれを学生の皆さんと共有でき、絶対に忘れることがない経験ができたから。
- 今まで現地の生の話を聞いたことがなかったので、今回実際に語り部の話を聞いて、衝撃を受けることが多く、これから自分がどうすれば良いか考えることもできたから。また、どう生かせるかグループワークを通して考えることで、それぞれの考えを共有できて良かった。
- 通常ではうかがうことのできない、実際に震災の被害に遭った方の話を写真と共に聞くことができ、とても貴重な体験になりました。また正常性バイアスやそれに伴う過去の記憶の捉え方と避難に関する話も聞くことができ、長年気になっていたことも解決できたとても有意義な時間でした。



27 東洋大学課外活動育成会 「地震、火災、風水害そしてコロナ ～『複合災害』にどう備える?～」

インストラクター	宮崎賢哉さん（防災教育・災害救援コーディネーター、社会福祉士）
司 会	小林希実さん（国際観光学部国際観光学科3年 IVUSA白山クラブ）
開催期間・日時	2022年2月6日（日） 10:00～12:30
会 場	Zoomによるオンライン開催
目 的	<ul style="list-style-type: none"> ●地震、火災、台風、水害といったさまざまな種類の災害の対応方法を学ぶこと。また、これらが複合的に組み合わさり、更にコロナ禍のような感染症蔓延期のように、判断が複雑化した状況下での対応策を、参加者間の意見交換を通じて各自が学ぶこと。 ●東洋大学の防災訓練の認知率、参加率の向上を目指すこと。 ●東洋大学の防災・減災のために行動できる学生リーダー創出の足掛かりとすること。
参加者数	13名
協 力	IVUSA白山クラブ

●活動内容（概要）

災害大国、日本。日本で起こる災害には、どのようなものがあるのでしょうか。ざっと挙げただけでも、地震や津波、台風、豪雨、洪水、土砂災害などがあり、近年発生しているものも少なくありません。また、2022年2月現在はコロナ禍であり、感染症とも向き合いながら避難行動を考える必要性が生まれるなど、より難しい状況にあります。本ワークショップでは、複数の災害が同時に、あるいは連続的に発生した場合の対応について考える機会を設け、「複合的な災害」についての知識の取得や行動の仕方について学びました。

まずは、初対面であることから緊張をほぐすためにアイスブレーキングを行いました。積み木自己紹介*を行い、お互いの学部や名前を知りました。次に2回のワークと防災グッズについて考えました。1つ目のワークでは、地震と火事が同時に発生した場合を考えました。グループでは、準備する物や避難所での行動、優先順位などを考え、さまざまな意見が挙がりました。準備するものとして防災バックやハンカチなど、行動としては火事が発生していることから状況確認を第一に行うことが大事であるという意見が多くあがりました。

次いで災害時に子どもたちが手持ち無沙汰になってしまったときに、子どもたちが自らつくり遊ぶことのできるためのグッズづくりについて考えました。紙飛行機などの新聞紙を利用した遊びが挙がりましたが、ケガやトラブルがないように、環境と条件を決めつつ、自由度を高めた遊びを考えることが重要で

あるというアドバイスも頂きました。

最後のワークは、台風による災害が発生するという風水害について考えました。もし自分の家族がペットを飼っていて、山や川の近くに住み、大雨が降った場合に何をすべきかをグループごとに話し合いました。ペットと一緒に避難し、危険な場所から離れるという意見が多く挙がり、地形とタイムラインを意識した行動をとることが大事であるというアドバイスをいただきました。ペットについては、平時のうちに予め避難所の受け入れ方針などを何らかの方法で確認しておくことが大切であるというアドバイスもありました。

以上が今回のワークショップで行ったことなのですが、私自身、複合災害を経験したことがなかったため、グループワークを含め、深く考えることができました。また、他の人と意見を共有することで、実際に災害を経験したことから得た教訓がある方の話も聞くことができたので勉強になりました。今後は、コロナ対策と避難について考えを深めていきたいと思います。

(文学部国際文化コミュニケーション学科2年 IVUSA白山クラブ 鈴木萌香)

*：参加者が自己紹介をした後、次に順番がきた参加者は前の人の所属・名前を言った後に自分の所属・名前を紹介し、さらに次の人はそれまでの2名分の所属・名前を重ね、以後それを全員が終わるまで繰り返していく自己紹介ゲームのこと。



28 東洋SDGsコンテスト

主催者	浅川和輝さん（文学部 Team Value Creation）
開催期間・日時	2021年10月1日（金）～11月30日（火）〈SDGs Weeks〉
会場	ToyoNet-ACE 及び学内掲示
目的	<ul style="list-style-type: none"> ●本学学生のSDGsへの認知を高めること ●本学学生にSDGsを身近に感じてもらい、“自分ごと”にしてもらうこと
参加者数	応募者数（延べ数） 川柳部門：153首 ポスター部門：13件 動画部門：12件
協力	Team Value Creation

●活動内容（概要）

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標「SDGs」ゴールについて、本学の学生への認知度を高めること、学生個々が「身近なこと」として感じてもらうことを目的に下記のイベントを実施した。

この企画は2020年度に実施をしたものを引き続き学生団体（Team Value Creation）を中心に実施した。

「東洋SDGsコンテスト」

今年度は（1）川柳部門、（2）ポスター部門、（3）動画部門の3種類を募集し、その中から、最優秀作品と優秀作品を決定した。採点は一次審査を Team Value Creation の学生へ依頼し、（1）川柳部門（上位10位）、（2）ポスター部門（上位5位）、（3）動画部門（上位5位）を選抜してもらい、二次審査をボランティア支援室専門部会のメンバーと学生投票を行い、総合評価にて最優秀作品等を決定した。

受賞者へは2022年3月16日に対面およびWebでのハイフレックス方式にて表彰式を行い、社会貢献センター長より受賞者へ賞状と副賞の贈呈を行った。なお、対面以外での受賞者への賞品の受け渡しは郵送で行う。

申込作品については学内の掲示板及びボランティア支援室内に掲示し、学生へのSDGsの啓発を引き続き行う。

SDGs コンテスト応募作品（抜粋）

SDGsコンテスト学生投票作品一覧

【概要】
2021年10月から11月までに作品を応募していただきありがとうございました。多くの作品が集まったため、一次審査を行い、各部門の作品を厳選させていただきました。さらにその中の作品から「最優秀賞」「優秀賞」を学生の皆さんにも選んでいただきたいです。どの作品を見ても、SDGs達成に向けて考え面白いきっかけになると思います。この選考を通して、1人でも多くの学生の行動に繋がれば幸いです。是非、選考にご協力お願いいたします。

【一次選考】Team Value Creation
作品一覧のPDFは「ToyoNet-ACE」へ
※投票はGoogleフォームにて行います。
URL: <https://forms.gle/QH8spR072zup1ko7>

**実施期間：2021年12月23日（木）～
2022年1月16日（日）**

【選考内容】
「川柳・短歌部門」・・・11作品の中から1位～3位を選んでください。
「ポスター部門」・・・5作品の中から1位～3位を選んでください。
「動画部門」・・・5作品の中から1位～3位を選んでください。

川柳・短歌部門

NO.6 お洋服 心に響く 一言を

NO.5 健康と電力のための階段へ

NO.4 その廃棄 平気な顔で捨てないで

NO.3 寒がりし 日々の暮らしに エコプラス

NO.2 そのお水 世界にとっては 貴重品

NO.1 ちよつと捨て買った責任最後まで

NO.11 二次利用 物だけでなく 食べ物も

NO.10 多様性 人だけでなく 生き物も

NO.9 課題辛い でもそれって 貴状だ

NO.8 消費期限 随時確認 ロス減らす

NO.7 ごみのうみ さかなはさつと となっているよ

ポスター部門①

NO.1

NO.2

NO.3

ポスター部門②

NO.3

SDGsコンテスト 結果発表

「川柳部門」「フォト部門」「動画部門」

この度は「川柳部門」155件、「ポスター部門」13件、「動画部門」12件の応募をいただきました。厳選する審査の結果、次の作品が「最優秀賞」「優秀賞」に選ばれました。受賞された皆様、おめでとうございます。

「川柳部門」受賞作品

多様性
人だけでなく
生き物も

ちょっと待って
買ったまま
最後まで

🏆
優秀賞

🏆
最優秀賞

お洋服
心に響く
一着を

「ポスター部門」受賞作品

🏆 最優秀賞

14歳に当てはまり、水質汚染の観点から考えた。資源の多く使っているプラスチックも、使い捨てプラスチックも、使い始めのうちはきれいな水にするために、大量の水が必要になる。そのことを知ってほしい。トラスプーを減らすことなしに、もうちょっと減らしてみよう。「使い過ぎないようにしよう」と、自然発生的なことが起ることを願っている。

「ポスター部門」受賞作品

🏆 優秀賞

12 目を買い得た割引シールのついた食べ物に頼るの癖があるので、食品の生産・流通・消費の過程で、誰も知らない多くの人の生活を犠牲にする可能性がある。割引・特価で買える割引シールにはお買い得以上の価値があることを表現しました。

13 マイバッグや水筒を持ち歩きプラスチックゴミを減らそう
Carry your bag and water bottle to reduce the amount of plastic.

14 14歳の買かたをどうするかチェック問題などにより発表が可能な発表方法を知り、プラスチックを削減しようという考えになりました。マイバッグや水筒を持ち歩きプラスチックの削減に役立てたいという思いを込めています。

「動画部門」受賞作品

🏆 最優秀賞

ゴミの減量、資源の再利用について興味があります。多くの動画でリサイクルが取り上げられていますが、もっとそのことを深く掘り下げたいと思っています。でも、ゴミを減らすだけで済ませたいという気持ちがあります。そこで、ゴミを減らすだけでなく、リサイクルの仕組みを詳しく説明したいと思っています。これは「ゴミの減量とリサイクル」についてです。ゴミの減量とリサイクルの仕組みを詳しく説明したいと思っています。これは「ゴミの減量とリサイクル」についてです。ゴミの減量とリサイクルの仕組みを詳しく説明したいと思っています。これは「ゴミの減量とリサイクル」についてです。

<https://youtu.be/A0c1fU8yA>

「動画部門」受賞作品

🏆 優秀賞

12 つかえる責任、つかう責任

国連グローバル・コンパクトが示す目標2、ターゲット3の中に「2030年までに飢餓、削減、リサイクル、および再活用リソースにより廃棄物を大幅に削減する」というものがあります。私はこれを是非実現したいです。これは、食料の生産から消費までの過程で、誰も知らない多くの人の生活を犠牲にする可能性がある。割引・特価で買える割引シールにはお買い得以上の価値があることを表現しました。

そのための行動のヒントは、私たち大学生が取り組める身近な目標の行動から取り上げました。この動画を観た大学生が、身近な目標を自分事として捉え、実践してほしいです。また、動画の構成が大学生にとってSDGsのヒントと見込め、自分一人の力で行動できるというところを知ってもらいたいと思っています。

<https://youtu.be/Tf6OYc0yPI>

「動画部門」受賞作品

🏆 優秀賞

13 ジェンダー格差をなくす活動を調査した点、11月15日学生スタッフでできる活動を紹介するもので代用した点。

14 動画番号は、3、12、14、15です。動画のテーマは「気候」です。気候の格差を減らすことでSDGsに貢献できることを伝えています。気候SDGsは興味がない人でも、「マイク」だからハードルが低く興味を持ってもらえるのではないかと、この動画の内容にしました。

<https://youtu.be/Zok9yFuCh4>

<https://youtu.be/HrLJ9k7yuc>

評価者からのコメント

評価をいただきました審査員の皆さんからコメントをいただきました。

どの作品も大変すばらしく、学生の皆さんのレベルの高さを感じました。特に「ポスター」につきましては、大学内に掲示をさせていただきます。多くの皆さんにSDGsへ関心を持ってもらえるきっかけとさせていただきます。

来年「作ってみようかな」と思っている学生さんは、SDGsの原則でもある「誰一人取り残さない」ためにも、「目や耳が不自由な方など」ハンディキャップをお持ちの人にも自然に届く作品をお待ちしています。

SDGsコンテスト応募作品（抜粋）

ポスター部門③

NO.4 <https://youtu.be/A0c1fU8yA>

14歳に当てはまり、水質汚染の観点から考えた。資源の多く使っているプラスチックも、使い捨てプラスチックも、使い始めのうちはきれいな水にするために、大量の水が必要になる。そのことを知ってほしい。トラスプーを減らすことなしに、もうちょっと減らしてみよう。「使い過ぎないようにしよう」と、自然発生的なことが起ることを願っている。

NO.5 <https://youtu.be/K0c1fU8yA>

14歳の買かたをどうするかチェック問題などにより発表が可能な発表方法を知り、プラスチックを削減しようという考えになりました。マイバッグや水筒を持ち歩きプラスチックの削減に役立てたいという思いを込めています。

マイバッグや水筒を持ち歩きプラスチックゴミを減らそう
Carry your bag and water bottle to reduce the amount of plastic.

動画部門①

NO.1 <https://youtu.be/Zok9yFuCh4>

ジェンダー格差をなくす活動を調査した点、11月15日学生スタッフでできる活動を紹介するもので代用した点。

NO.2 <https://youtu.be/6e0C-mBzco>

動画番号は、3、12、14、15です。動画のテーマは「気候」です。気候の格差を減らすことでSDGsに貢献できることを伝えています。気候SDGsは興味がない人でも、「マイク」だからハードルが低く興味を持ってもらえるのではないかと、この動画の内容にしました。

What can we do for SDGs?

動画部門②

NO.3 <https://youtu.be/Tf6OYc0yPI>

12 つかえる責任、つかう責任

国連グローバル・コンパクトが示す目標2、ターゲット3の中に「2030年までに飢餓、削減、リサイクル、および再活用リソースにより廃棄物を大幅に削減する」というものがあります。私はこれを是非実現したいです。これは、食料の生産から消費までの過程で、誰も知らない多くの人の生活を犠牲にする可能性がある。割引・特価で買える割引シールにはお買い得以上の価値があることを表現しました。

そのための行動のヒントは、私たち大学生が取り組める身近な目標の行動から取り上げました。この動画を観た大学生が、身近な目標を自分事として捉え、実践してほしいです。また、動画の構成が大学生にとってSDGsのヒントと見込め、自分一人の力で行動できるというところを知ってもらいたいと思っています。

動画の中で出てくるパン屋の写真を4店舗の許可を得て撮影しています。

動画部門③

NO.4 <https://youtu.be/HrLJ9k7yuc>

12 目を買い得た割引シールのついた食べ物に頼るの癖があるので、食品の生産・流通・消費の過程で、誰も知らない多くの人の生活を犠牲にする可能性がある。割引・特価で買える割引シールにはお買い得以上の価値があることを表現しました。

NO.5 <https://youtu.be/K0c1fU8yA>

14歳の買かたをどうするかチェック問題などにより発表が可能な発表方法を知り、プラスチックを削減しようという考えになりました。マイバッグや水筒を持ち歩きプラスチックの削減に役立てたいという思いを込めています。

マイバッグや水筒を持ち歩きプラスチックゴミを減らそう
Carry your bag and water bottle to reduce the amount of plastic.

29 「SDGsに関わる環境教育 (Environmental Education toward SDGs) ーユネスコエコパークとジオパーク」

講師	Aida Mammadovaさん (金沢大学国際機構准教授)
開催期間・日時	2021年10月4日 (月) 13:00~14:30
会場	オンライン
目的	SDGsの中でも日本での関心が高い環境について、地方都市での環境を守る取り組みについて理解を深める。
参加者数	24名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】 学生24名
協力	国際学部必須科目“English for Study Abroad”(担当:伊藤大将先生)と連携して実施

●活動内容 (概要)

日本の地方都市における環境保全の取り組みについて、環境教育という観点を踏まえて講義をしていただいた。ユネスコエコパーク (Biosphere Reserve) に指定されている石川県をはじめとする4県にまたがる白山、近隣に位置し地域が重複する手取川ジオパークについて説明を受けた。

講義はAida Mammadova先生が日本に来てお寺に入り修行をするところから始まり、日本人の自然(主に山)に対する古くからの姿勢、そこからつなげて人と環境がうまく共存できる地域を作る現代の取り組みについてお話していただいた。エコパークとジオパークの違い、ユネスコがcore area, buffer zones, and transition zonesの違いといった基礎から教えてもらい、アイダ先生自身が実施している留学生と国内学生が白山市の市民や環境保全事業に従事する人と交流する様子や、コロナ禍で環境教育をどのように行っているかがよく理解できた。アイダ先生自身が作成した白山ユネスコパークに関するビデオを鑑賞し、白山を登る様子も見ることができた。アイダ先生が携わっている環境教育に関する取り組みには、興味のある学生からの参加を歓迎するとのことだった。

また講義は英語で行われたが、パワーポイントのスライドは日本語になっており、英語での理解が難しい学生でも講義が理解できるような配慮があった。これに関しては、学生からポジティブな意見が多くあった。

その他学生からのコメントには、以下のようなものがあった。

“We could learn about Hakusan's history especially. We should be cherish it.”

“I think there are lots of things that I can do in daily life to protect the nature. Also, I want to climb Hakusan someday and see the view from the top of it. I'm glad to have good experiences.”

“I've been interested in SGDs since I was in high school, so this lecture was very

interesting. Also, I learned about BR (ユネスコエコパーク) for the first time in this lecture. I felt that efforts to preserve the rich ecosystem and biodiversity of the region, learn naturally, and achieve sustainable cultural, economic and social development were very wonderful. It was an honor to take this lecture.”

“I want to search not only Hakusan but also other unesco eco park because I would like to save many unesco eco park for the future. Also, I would like to try to climb Hakusan.”

“I did not know much about UNESCO before the lecture. Through the lecture, I found that UNESCO is an essential organization to achieve SDGs and Kanazawa University has various projects to protect nature and thrive some villages. These activities are attractive for me because they show that young people can contribute to solving global issues and achieving SDGs. I have to take an action as students of Kanazawa University do.”

「日本人として日本に住んでいるが故に気づかない、日本らしい考え方がある事を知らず、少々恥ずかしさを感じました。決してそれは悪いことではありませんが、アイダ先生が他国から来て寺生活を送ったことで視野を広げたり知識を得たように、私も何かアクションを起こして見つけていきたいと思いました。」
「SDGsについてある程度は理解していたが、さらに詳細な情報や実際になされている取り組みを学び、その重要性を再確認できた。」

「持続可能な社会を作るために白山の村全体で活動していることが分かった。白山のトイレは微生物を活用していると聞いて面白いアイデアだと思った。日本全体がもっと自然に向き合い、自然を守る意識を持つことが大切だと感じた。登山に関してはハードな山登りと説明されていたが、私も一回白山の山登りを体験し、きれいな景色を実際に見たいと思った。また、日本の環境についての問題点を見たときにアクセス困難が挙げられていたが、この問題点のとりえ方は自然が多く、公共交通機関が整っていないという考え方であっているのか疑問に思った。」



ユネスコエコパーク(生物圏保存地域)とジオパーク

Biosphere Reserve • 1976 ユネスコ人間と生物圏(MAB)計画 • 727 BR, 133国	共通点 保存 人間・自然 持続性	UNESCO Global Geopark • 2004 グローバルGP, 2015 UNESCO GGP • 161 GP, 44国
--	----------------------------------	--

SDGs (持続可能な開発目標) ESD (持続可能な開発のための教育)

国連教育科学文化機関 (ユネスコ)

United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization (UNESCO)

文化 自然科学 社会科学 社会科学

MAB 50周年!!!

1971-ユネスコMAB (「マブ」= Man and Biosphere 人間と生物圏) 計画

持続可能な開発 研究 自然保全

ユネスコエコパークとは?

“自然と人の調和と共生”
の国際的モデル地域

↓
わかりやすく言うと
**自然を守り、
自然を活かした
暮らしを送っている地域**

©日本ユネスコ国内委員会 (国連ユネスコエコパーク協議会)

3つのゾーン

核心地域
法律や条例に基づく制約等
によって厳格に保護
長期的に保全

緩衝地域
核心地域のバッファー
教育 研修
エコツーリズム

移行地域
農村区
地域社会や経済発展が
認められる地域

3つのゾーンの
設定は
不可欠!

©国連ユネスコエコパーク協議会

SDGsを達成するためBRコミュニティに関わる
多様なステークホルダーの連携が重要

- ✓ 政府と行政
- ✓ 企業・中小企業
- ✓ 自治体
- ✓ 民間 (NPO・NGO、など)
- ✓ 教育機関 (学校、大学)
- ✓ 研究機関など
- ✓ 若者 (ユースはBRの現在と未来!)

SUSTAINABLE GOALS

白山

- 標高2,702m
- 日本の山霊山の一つ
- 1962 国立公園
- 1980 白山ユネスコエコパークに登録
- 2011 白山手取川ジオパーク

Mt. Hakusan

白山ユネスコエコパーク

4県7市

石川県-白山市
富山県-南砺市
福井県-大野市
岐阜県-高山市

都庁市
都庁市
都庁市
都庁市
都庁市
都庁市
都庁市

4県7市村
• ADF: 16000人

白山ユネスコエコパーク

30 『『好き』を通じてフクシを変える、社会を変える～動画の力で福祉の未来をデザインする～』

講師	和泉 亮さん（フクシのみらいデザイン研究所、精神保健福祉士）
開催期間・日時	2021年10月6日（水） 13:00～14:30
会場	Zoomを用いた配信（同時双方向）
目的	和泉さんの動画を通じた「社会変革」活動について学ぶことで、福祉を学ぶことの意義を深めるとともにキャリア形成についての意識付けを行うことを目的とする。
参加者数	56名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】当日参加学生27名（うち履修者23名、参加希望者4名）、教職員4名 講師の許可を得て、別日に「社会福祉学基礎演習Ⅱ」等で視聴、履修生等25名
協力	社会学部専門科目「社会福祉学専門演習ⅠBⅡB」（担当：川原恵子先生）で実施

●活動内容（概要）

司会は「社会福祉学専門演習」の履修学生（3年生2名）が担当し、事前に講師の和泉さんと話し合い、3つのパートに分けて、講演を頂いた。また授業参加者の質問・感想を共有し同時双方向型で実施した。

第1部 自己紹介、フクシのみらいデザイン研究所（和泉さんがPSWから現在の仕事をようになった経緯について、ソーシャルワークとしての現在の仕事について）

第2部 動画（YouTube）について、ミクロ・メゾ・マクロの視点、活動を通じて見えてきた福祉の課題

第3部 多様性の価値、福祉のもつポテンシャル、福祉→社会（企業）感想・シェア（ブレイクアウト）

講義の理解度：平均4.6（5よく理解できた）

<学生の感想 一部抜粋>

- 経営学を働きながら学ばれたということで、「福祉×企業」という視点から多様な働き方を垣間見ることができ、今後のキャリアを考えていく上でとても参考になりました。1つを極めることも大切かと思いますが、視野を絞らず、様々なスキルのかけ算を積み重ねていこうと思いました。（4年生）
- 「社会を変えるとやっている僕らも変化することが1番重要なのではないか」という言葉は本講義の中で1番心にきた。YouTubeを活用して社会福祉の活動を届けるという発想が今の時代にあった広め方なのかなと思った。YouTubeをしたことで、今まで届いていなかった人たちや、福祉学生等これからの人材、広く福祉以外の人材のリーチができることがポイントである。（1年生）
- 私は経済学部で、福祉は経済とは全く分野だと思っておりましたが、動画制作を通じて商学部のビジネス論に活用できるというお話を聞き、福祉と経済もつながりがあるのではないかと考えるようになりました。まずは自分を変えていくことで社会・福祉をより良いものにしていくという考え方がとても魅力的で、私もこの考えをもって日々行動していこうと思いました。（3年生）

東洋大学SDGs Weeks 2021

社会福祉学専門演習ⅠB/ⅡB 公開講座
（仮）『好き』を通じてフクシを変える、社会を変える

Social Changeに向けた活動を実施しているフクシのみらいデザイン研究所の代表で、フランスのシノムエカ 和泉亮さんを講師にお迎えします。フクシのみらいデザイン研究所では、「その一人の個性があのままの価値として適切に評価される社会の未来をデザインしていく」をビジョンとして掲げています。研究の活動の一つは、福祉に関する様々な人々の声について和泉さんが取材をし、それをわかりやすく編集してYouTubeで社会に発信する、という取り組みです。（フクシのみらいデザイン研究所）
<https://www.youtube.com/channel/UC10909VnG10bom5234Q/doku>

講演会では、和泉さんがこの活動をはじめたきっかけや、この活動を通じて感じている社会の現状や、自身の変化等についてお話を伺います。和泉さんのお話だけでなく、是非、質問・感想をお聞かせください。福祉の未来を感じてほしい。和泉さんへのたくさんの質問もお待ちしております！

日時：10月6日（水）3限（13:00-14:30）
講師：和泉 亮 氏
（フクシのみらいデザイン研究所代表、PSW、光華女子大学非常勤講師）
参加方法：webex/zoomにて実施
事前申込：（下記GoogleForm）から参加申し込みして頂いた方へ、イベント3日前までに当日の参加URLをお送り致します。9月30日締切
<https://forms.gle/2N735b4FrVb11L7>

担当：社会学部 社会福祉学科 川原 恵子 講師

31 ボランティア入門講座

講師	日比野 勲 (ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター) 杉本昂熙 (たかき) (経営学部経営学科3年 ボランティア支援室サポートスタッフ) 渡邊蛍都 (けいと) (総合情報学部総合情報学科4年 ボランティア支援室サポートスタッフ)
開催期間・日時	2021年10月7日 (木) 13:00~14:30
会場	Zoomによるオンライン開催
目的	大学生に少しでもボランティアに興味を持ってもらい、知識を深めてもらうこと
参加者数	13名 (本学学生のほか、大学コンソーシアム八王子職員2名)

●活動内容 (概要)

ボランティア支援室では、「ボランティア入門講座」を年に数回程度開催しています。

今回は、「東洋大学SDGs Weeks 2021」関連イベントと位置づけ、SDGs達成に向けたアクションの手段の1つとなるボランティア活動についての認識を深める機会とし、講師にはボランティア支援室コーディネーターのほか、学生サポートスタッフ2名に登壇いただき、参加学生が身近に感じられるよう内容構成を試みました。

以下、サポートスタッフからの報告です。

本企画は、大学生に少しでもボランティアに興味を持ってもらい、知識を深めてもらうことを目的に実施し、楽しく学びを得ることができた企画となりました。

ボランティア入門講座は以前より実施していましたが、ボランティアをもっと身近に感じてほしい、ボランティアを始めるきっかけになってほしいと考えました。今回はボランティアの4原則のうちの一つである自発性を大切に、ボランティア支援室サポートスタッフ自ら、講座の構成に携わりました。

講義内容は、

- ・クイズで学ぶ「ボランティア」!
- ・Our Volunteer Story
- ・自分にあったボランティア活動の探し方
- ・まとめ

の4部構成で実施しました。

ボランティアコーディネーターの日比野 勲さんによるクイズを交えながら、ボランティア活動の本質について学ぶレクチャー、サポートスタッフの杉本昂熙さんと渡邊蛍都の経験談から学んだボランティアの魅力を存分に詰め込みました。

前回に比べて今回は1、2年生の参加が多く、新型コロナウイルスの影響により活動が制限される中、同じ学生がどんな活動をしているのか知りたい、何か行動したいとうずうずしている様子でした。講座では、なんとなく知っているようで知らなかったボランティアについて新しい発見があり、大学生二人の頑張りに自分もやってみたく心が動いていた様子で、終始笑顔が絶えませんでした。

講座終了後は質問や感想を交流し合うなど参加者間で賑わいがあり、「ボランティアって楽しそう」「オンラインでもできるボランティアをしたい」「今回知ったボランティアの魅力を友人に伝えたい」など次のアクションに繋がる感想をいただき、講師一同開催してよかったと達成感に溢れました。

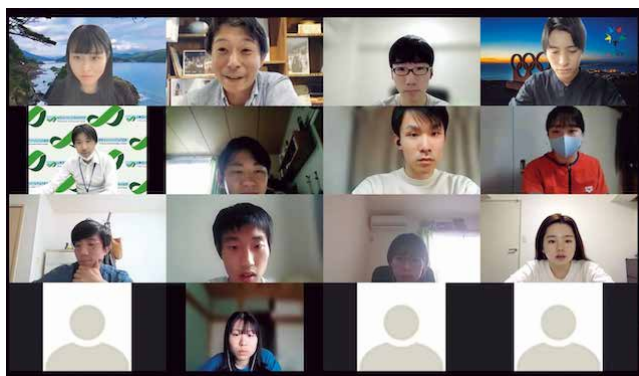
また、参加者が「自分色のボランティアをしたい」と言っていたのがとても印象に残りました。すでにアクションを起こしている「ほんの少し先輩」である二人のお話を聞いて、「今すぐ何かしなければ!と焦るのではなく、多くのボランティア活動に参加し、その中で自分の興味・関心を見つけたい。そしてボランティア仲間と作っていきたい。」との感想をいただきました。一人ひとりのやりたいこと・得意なことを活かし、輝けること。これがボランティアの魅力のひとつだと改めて感じました。

サポートスタッフが叶えたい夢である「今よりもっとボランティアが応援される社会」。そんな社会になるように、今後もボランティアの魅力を多くの学生に発信していきます。

今回の参加者同士が出会えたことが何かのご縁となり、この先ずっとボランティアの魅力を語り合えますように、そして今回の参加者が次は魅力を伝える側でありますように。

最後に、本企画に参加していただいた皆さん、ありがとうございました。

(総合情報学部総合情報学科4年 ボランティア支援室サポートスタッフ 渡邊瑩都)



32 「食品ロス削減と保存料 ～SDGs 目標12の推進～」

講師	藤原宏子さん（株式会社ウエノフードテクノ）
開催期間・日時	2021年10月8日（金） 16:40～18:10
会場	東洋大学 板倉キャンパス 3101教室よりWebex配信
目的	SDGs目標12のターゲットの一つである食品ロス削減のために、食品の消費期限の延長は大きな貢献となり得るとともに、保存料などの食品添加物の利用は欠かせない要件である。そこで、本講座では添加物の基礎知識や安全性、食品保存の具体的な事例をはじめ、食品工場での微生物対策の進め方なども紹介する。
参加者数	59名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】学生56名（外部講師等含まず）
協力	本公開講座は、佐藤順先生：食品微生物制御学第4項を兼ねて実施された。

●活動内容（概要）

外部講師の藤原先生は株式会社ウエノフードテクノに勤務され、事業企画室 技術開発部次長である。食品添加物（保存料や日持ち向上剤）のエキスパートであり、入社以来、食品微生物制御に係わる食品添加物製剤や、食品工場の衛生管理資材の製品開発に従事されている。

消費期限・賞味期限切れによる食品ロスは多大なものがある。SDGs 目標12のなかのターゲットのひとつである食品ロス削減に生鮮食品や加工食品の保存性向上は直結し、そのためには保存料や日持ち向上剤を使用することは大いに有効であることを理解してもらうこと、食品添加物の安全性は科学的に考えることが重要であることを受講生に理解してもらうのが、この公開講座の最大の目的であった。

前述のように、藤原先生は食品添加物メーカーに所属し、①食品ロスと衛生管理、②食品添加物とは、③日持ち延長（静菌）効果を有する食品添加物、④食品保存の具体事例、⑤微生物対策の進め方等の内容で、実学的な視点で講義を行って頂いた。食品安全に関する内容では、私の担当科目である「食品衛生学」や「食品安全学」と重複する部分もあったが、使用する資料はまったく異なり、企業所属の外部講師の視点で繰り返し教育を受けることで、学習効果はより高まったと考えられた。藤原氏の添加物メーカーでは、特に保存料や日持ち向上剤の開発・製造が得意分野である。食品の保存性を向上させるこれらの添加物を含め、その安全性、使用基準、具体的な日持ち向上剤の使用事例やその併用効果、ハードルテクノロジーなどについても話が及び、保存料や日持ち向上剤自体がハードルとなっていることを学生が学べた意義は大きい。

食品ロス削減と保存料・日持ち向上剤との関連を、食環境科学科のみならず他学部の学生にも分かりやすく説明していたと評価する。学生自らの食生活の場において、食品の一括表示でよく目にする保存料や日持ち向上剤に対する理解、および安全性に対する理解が深まったと考える。

東洋大学SDGs Weeks 2021

食品微生物制御学 公開講座
食品ロス削減と保存料～SDGs目標12の推進～

調味料・甘味料・着色料・保存料などの食品添加物（以下、添加物）には「体に悪い」というイメージがありますが、食品の加工や風味、腐敗などへの対応のためにはある程度の使用は必要です。添加物の安全性は、添加物の有無ではなく、どの程度入っているのかによって決まります。

最近ではSDGs12のゴールにも含まれる食品ロス削減として、食品の消費期限の延長率にも欠かせない要素となります。

この講義では、添加物メーカーの専門家をお招きし、添加物の基礎知識、添加物の安全性等についてお話しいただきます。添加物に関する誤った情報に惑わされることなく、科学的に考えることができるよう学習をします。

日時：10月8日（金）5限（16:40-18:10）
講師：藤原 宏子 氏
（株式会社ウエノフードテクノ）
参加方法：webex/zoomにて実施
事前申し込み：（下記Zoom/Teamsから参加申し込み）
して頂いた方へ、イベント3日前までに当日の参加URLをお送り致します。10月1日締切
<https://forms.office.com/Forms/Registration>

担当：食環境学部 食環境学科 佐藤 順 教授

東洋大学 ボランティア支援室
 TEL: 03-3548-7077
 EMAIL: mivolup@toyoy.ac.jp

33 「子どもの貧困への挑戦 —社会的養護の現場での取り組みから考える」

講師	林 知然さん（児童養護施設：東京家庭学校家庭支援専門相談員）
開催期間・日時	2021年10月12日（火）18:45～19:45、10月13日（水）15:15～16:15
会場	Webexを用いた配信 ※事前学習として、YouTubeで資料動画を配信
目的	SDGsの子どもの貧困に焦点をあて、日本の子どもの貧困の表出の仕方、社会的養護施設での暮らしと回復について学び、自分たちができることを考える。
参加者数	授業履修者数：19名／74名 授業外申込者：12名にオンデマンドで配信している。 ※この授業は事前にオンデマンド（YouTube）にて講義を受講し、当日は担当教員、外部講師および受講者でディスカッションや質疑応答を行う。 当日参加16名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】履修学生13名、履修生以外3名
協力	社会学部の専門科目「児童福祉論B」（担当：森田明美先生）と連携して実施

●活動内容（概要）

東京家庭学校（都内児童養護施設）にお勤めの林さんをお迎えして、「社会的養護（児童養護施設）におけるこども支援」と題して、講演をいただいた。事前に動画にて学習の上、当日は受講者と講師の間でディスカッションを行った。

参加学生より各自質問を受け、外部講師及び担当教員より説明を行った。

事前学習では講師の勤め先である東京家庭学校の紹介や、実際に対応されたケースを基に、子供達とのかかわり方や、支援に関わる現状や課題などのお話をいただいた。

ディスカッションでは、動画で紹介された児童のケースについての質問や、「ファミリーソーシャルワーカー」として働く方法についての質問があった。

また、学生自身の体験からの具体的な質問もあり、林さんの業務のケースを紹介いただきながらお答えいただいた。


○学生の感想より【抜粋】

- 林さんが関わられたケース事例を聞き、非常に勉強になりました。女兒の思いを最優先にしてどうすれば女兒が幸せになれるのか模索している姿が印象的でした。また、女兒と父親がこれからどんな関係性で生きていくのが最善なのか、様々なアプローチを試みたことも印象的でした。児童養護施設を出た後もアフターケアが行われており、こうした繋がりは重要だと感じました。
- 子どもの希望に応じてやるべきことが決まるとおっしゃっていたのが印象的で、子ども自身の意見を尊重するということが、色々な場面で共通して重要になることを再認識できました。
- 児童養護施設に関しては身の回りにそこに在籍している人などに出会ったことがなかったためどういっ

たところであるかということ自体をあまり知らなかったり、勘違いしていた点があったので今回の話は非常に興味深かったです。

ケースワークについては普段ニュースや資料ではぼやかされていたりあまりふれないうで流されていたりして実例に近いものにふれることがなく現実の薄さから実態を実感しづらく理解が進まないことが多かったのですが今回の例をみて現実感が増したので、関心が高まりました。

- 子どもの貧困には、少なからず親の影響があるように感じました。また、子どもの将来に影響することの一つとして、「教育」が挙げられると思いますが、この「教育」について考えた時、一般的に教育が受けられる機会がある時に受けていなかったり、受けられなかったりすると、将来の様々な面で影響が出るのではないかと感じました。林さんの仕事は、人と向き合うことであり、家庭環境やその時の状況などが様々であると思いました。様々な人に1人ずつ寄り添い、解決することはとても難しいと思いました。また、父親との関わりで分かってきたこととして、父親は児童が一時保護された際に逃げたわけではなく、隠れていたということから、相談所の情報が全て正しいわけではないということがわかりました。そのことから、一つの情報や間接的に得た情報を鵜呑みにするのではなく、自分で情報の真偽を確かめるといことが必要であると気付きました。
- 私は、児童養護施設や子ども支援と聞くと、子どもに寄り添い、話を聞いたり、子どもの将来がより良いものになるように助けていくというようなイメージがありましたが、林さんのお話を聞いて、少し違うように思いました。それは、子どもについてはもちろんですが、親についても子どもと同じように、心に寄り添い、話を聞き、どのようにしたらより良い未来にできるかなどを一緒に考えていると感じました。子どもと親の気持ちを尊重することで誰もが幸せになる未来を目指して行動しているのだなと感じました。また、林さんは覚悟や準備をして仕事をしていると語られていて、とても印象に残りました。
- ソーシャルワーカーとしての仕事には地域や人々が抱える問題を解決へ導くことはもちろんですが、本人の意思の尊重やこの問題からさらに新しい問題に発展する可能性があるという予測、信頼関係を築くことなど、一つの問題に対して大切にしなければならないものが多く、繊細な仕事であることに気付きました。

東洋大学SDGs Weeks 2021 

子ども支援論/児童福祉論B 公開講座
「子どもの貧困への挑戦
—社会的養護の現場での取り組みから考える—」

この公開講座ではSDGsと貧困の撲滅への取り組みを考えるにあたって、人生の最初に経済的のみならず、様々な経験や関係において貧困ななかで苦しむ子どもたちの暮らしに立ち向かう児童福祉現場での挑戦がどのように行われているのかを学びたいと思います。講師は児童養護施設で家庭復帰のために日々子どもと保護者の間での調整に奮闘されており、また実践のみならず、問題を子どもの権利の視点から解決するために、本学社会学部研究科博士後期課程で研究もされています。児童養護施設で過ごす子どもたちを取り巻く環境や貧困の連鎖を断ち切るための取組等をお話いただき、日本の子どもの貧困の表出の仕方、社会的養護施設での暮らしと回復の支援について学び、自分たちができることを考えます。

日時：10月12日(火) 6限(18:45-19:45)【第2部】
10月13日(水) 4限(15:15-16:15)【第1部】
講師：林 知然氏(児童養護施設：東京家庭学校家庭支援専門相談員)
参加方法：Webex Meetingsにて実施
※この授業は事前にオンデマンド(youtube)にて講義を受講し、当日は担当教員(児童福祉論B 担当森田明美)、講師および受講者でディスカッションや質疑応答を行います。
事前申込み：(下記のGoogleFormsから参加申し込みを頂いて頂く方へ、イベント2日前までに当日の参加URLをお送り致します。) **10月5日締切**
申込：<https://forms.gle/KFmAYrERrEVn8MRUz> 

担当：社会学部 社会学部 森田 明美 教授



東洋大学 ボランティア支援室
TEL: 03-3945-7927
MAIL: volunteer@toyoi.ac.jp

【東洋大学】
社会的養護(児童養護施設)
における子ども支援

2021年後期 児童福祉論B
東京家庭学校 林 知然

2020/11/25

34 子ども支援学演習ⅢB /ⅣB公開講座 「SDGsカードゲームを通じて SDGs×人権を学ぶ」

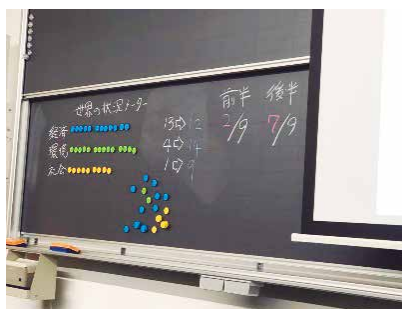
講師	吉田省三さん（株式会社エス・イー・アイ代表取締役）
開催期間・日時	2021年10月13日（水） 9:00～10:30
会場	東洋大学 赤羽台キャンパス 20402教室
目的	SDGsの概要について学ぶ。 世界の課題と地域の課題を人権の視点から学び、解決に向けた行動をカードゲームのシミュレーションで体験する。
参加者数	学生16名（オンラインからの傍聴8名を含む）
協力	子ども支援学演習ⅢB /ⅣB 内田塔子先生

●活動内容（概要）

当日は、感染症対策に配慮しながらの対面による実施となった。事前申込のあった他学部学生は不参加で、授業履修者のみの参加であった。また、学外実習前の学生がオンライン参加を希望したことにより、会場参加は8名となった。オンライン参加者については、Zoomからワークショップを観察する形での参加となった。

活動内容としては、株式会社エス・イー・アイ代表取締役の吉田省三氏より、SDGsの概要・背景に関するレクチャーがあった後、カードゲーム「2030 SDGs」を行った。ゲームを行う中で、個々の目標を達成するために個別に行動するだけでは、経済・環境・社会のバランスが崩れ、目標達成に限界があること、情報を共有し、お互いに協力することにより、自分の目標も他の人の目標も達成できることを疑似体験することができた。

参加者からは、「SDGsを自分事として捉えられるようになった」「人権の守られた世界を実現していくために、自分から行動を起こし、他者と目標を共有し、協力していくことが必須であることを実感できた」といった感想が寄せられた。



35 「知的障害特別支援学校におけるICTの 利活用：読む、聞く、話す、書くへの支援」

講師	高松 崇さん (NPO法人支援機器普及促進協会)
開催期間・日時	2021年10月19日(火) 16:30～18:00
会場	東洋大学 白山キャンパス Webexを用いた同時双方向型
目的	GIGAスクール構想によって、学校教育では一人一台端末及び高速ネットワークの整備が進められている。知的障害特別支援学校では、このような状況にあって、どのような学習活動や学習場面でICTを活用することができるだろうか。本企画では、参加学生が実際にICTを使った学習活動を体験し、知的障害教育におけるICT利活用の可能性や課題について考えることを目的とした。
参加者数	91名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】学生84名(授業外聴講者7名)
協力	文学部教育学科の必修科目「教育学演習ⅡB・ⅢB」、「教育学卒論演習Ⅱ」のうち、担当教員が緒方登士雄先生、長谷川勝久先生、大江啓賢先生、高野聡子先生のコース

●活動内容 (概要)

【講演前の準備】

講演前に、講師が作成した事前資料を学生に配布した。資料にはiPhoneやスマートフォンの音声入力、音声読み上げの設定方法が書かれており、学生は自身のiPhoneやスマートフォンの設定を確認、準備した。

【講演当日】

Society 5.0について説明がなされ、現在の教育現場がどのSociety段階にあるのか、講師からの問いかけに、学生がチャットを通じて回答した。また、GIGAスクール構想、STEAM教育といったICTの利活用に関する用語についても講師から説明を受け、各自の知識の整理を行った。その後、実際に知的障害教育においてICTがどのような利活用されているのか、写真や事例を見ながら説明を受け、読む、聞く、話す、書くといった学習活動でICTを利用することが知的障害のある児童生徒にとって有用であることが説明された。

さらに、上記の内容を踏まえて、参加学生は自身のiPhoneやスマートフォンを講師のレクチャーにしたがって音声入力、AIを体験した。一方、タブレットといった端末を学習活動で使用することで「紙の勉強より非効率になる可能性もある」こと、「タブレットが動かなくなると学習活動ができなくなる」といったデメリットについても体験を踏まえながら説明を受けた。

参加学生らは、普段からiPhoneやスマートフォンそのものを自身がしっかりと利活用できないことを知り、知的障害教育におけるICTの利活用の可能性を知るとともに、デメリットについても知見を深めることができた。

東洋大学SDGs Weeks 2021

教育学演習ⅡB/教育学演習ⅢB/教育学卒論演習Ⅱ
公開講座
知的障害特別支援学校におけるICTの利活用
—読む、聞く、話す、書くへの支援—

学校教育ではGIGAスクール構想が推進されており、タブレットといった「1人1台端末環境」も急速に整備されています。
教育現場でICTの活用に関する記事や記事を見て、GIGAスクール構想や特別支援教育の現場での活用を想像し、特に発達障害や知的障害でICTの活用について悩んでいる方も多いと思います。今回は、特別支援教育の現場からICTの活用についてお話を伺います。
参加者は、事前にスマートフォンやタブレットにアプリをインストールし、実際に体験しながら、特別支援教育におけるICTの活用可能性や課題について探求します。

日時: 10月19日(火) 5限(16:30-18:00)
講師: 高松 崇 氏 (NPO法人支援機器普及促進協会)
申込先: webexroom@toyoko.jp
事前申し込み: (下記GoogleFormから参加申し込みして頂いた方へ、イベント当日までに各自の参加費をお送り致します。)10月17日(日)まで
<https://forms.gle/55k3tG2G3JtE1>

主催: 文学部 教育学科 高野 聡子 教授

東洋大学 ボランティア支援室
TEL: 03-3945-9227
EMAIL: info@vol@toyoko.jp

36 CSR論／環境コミュニケーション論 公開講座「企業と人権」

講師	秋山映美さん（株式会社クレアン）
開催期間・日時	2021年10月26日（火） 9:00～10:30
会場	東洋大学 川越キャンパス 522教室
目的	SDGsの基本的な項目であるとともに企業等の組織の社会的責任の重要な位置づけである人権への取組について、基礎と取組事例を学ぶこと。
参加者数	67名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】 学生67名（授業履修者58名、一般学生9名）
協力	CSR論／環境コミュニケーション論 小瀬博之先生の授業と連携

●活動内容（概要）

最初にクイズを3問出題し、人口問題、地球環境問題について3択で現在の地球レベルでの問題を受講者に認識させた。

続いて、「人権とは」というテーマで、日本の人権と世界の人権に対する認識の違い、SDGsにおける人権の取り扱いを説いた。

次に「ビジネスと人権に関する社会動向」として、一国の経済規模にも及ぶ企業規模に見合った人権尊重の責任についてデータを用いて説明し、企画設計から消費者までのバリューチェーンのあらゆる段階において人権問題が関わること、無意識の偏見も人権問題につながっていること、女性差別、セクシャルマイノリティへの差別、労働条件・環境による人権侵害、建設資材の産地における人権侵害、商品の原材料の産地や加工工場で見られる人権侵害、日本にもある児童労働や強制労働のリスク、広告における人権侵害など、企業にまつわる人権問題を様々に取り上げ、企業が考慮すべき様々な人権問題を取り上げた。

最後に、「企業の取り組み」として、日本企業によるトラブル事例とその対応について取り上げるとともに、国連による「ビジネスと人権に関する指導原則」や各国での法制化、行動計画などの動向、人権に配慮した企業の取組について紹介していただいた。



37 Hands to Hands 2021 「敷島製パン(株)からのご支援！ 学生の皆さんにパンをお配りします」

開催期間・日時	2021年11月9日(火)～11月11日(木)(支援物資がなくなるまで)
会場	東洋大学 全キャンパスおよび、白山、川越、板倉、清水町の体育会合宿所
目的	敷島製パン株式会社より社会貢献活動の一環として、コロナ禍で経済的に不安を持つ学生へ自社製品を提供していただき、学生の経済的支援を行う。 本学の「Hands to Hands プロジェクト」の紹介を行う。
参加者数	支援物資：1,000名分(食パン×1000・マフィン×1000) 【内訳】白山：500 川越：100 板倉：50 赤羽台：100 運動部合宿所：250
協力	敷島製パン株式会社、各キャンパス教学課・事務課、学生支援課

●活動内容(概要)

敷島製パン株式会社より、社会貢献活動の一環として、コロナ禍で経済的に困窮している学生に対して自社製品で支援したいと申し出があり、本学の「Hands to Hands プロジェクト」の一環として全キャンパスでの配布を実施した。また、敷島製パンは箱根駅伝のスポンサーでもあることから、運動部学生への支援として体育会合宿所へも配布を行った。

○白山：11月9日 12:00～13:00・17:15～18:15 (6号館1階学生支援課前)

11月10日 12:00～13:00 (1号館1階エレベーターホール) にて配布を実施。

どの時間も30分以内に予定の個数の配布が終了した。

10日の配布には「SDGs アンバサダー」の学生2名もボランティアとして配布を手伝った。

なお、白山では「Hands to Hands プロジェクト」の宣伝として、消費期限が近付いている一部の寄贈食品他(米、乾麺、お菓子等)を同時に配布して申込の案内を行った。

○川越：11月10日 12:30～ (4号館1階1階入試インフォメーションコーナー前) にて配布を実施。

開始から45分で配布が終了したと報告があった。

○板倉：11月10日 14:45～ (1号館1階板倉事務課) にて配布を実施。

開始から9分で配布が終了したと報告があった。

○赤羽台：11月9日 12:00～13:00 (WELLB1階のエントランスホール(学食前) にて配布を実施。

開始から15分で配布が終了したと報告があった。

○合宿所：各キャンパスの窓口を通して各部へ配布を行った。

どのキャンパスも学生が大変喜んで受け取っていたとのことで、「Hands to Hands プロジェクト」を進めていく上での参考となった。

●学生の声

- 無料でパンがもらえてうれしい。
- バイト代がまだ支払われないので、とても助かる。
- マフィンとか普段買わないのでうれしい。
- これで3食分浮いた 等、喜びの声あり。

【白山】



〈SDGsアンバサダーのメンバーがボランティア参加〉



【学生ショット】



【川越】



【板倉】



【赤羽台】



2021年度 ボランティア支援室 各企画資料

東京2020オリンピック・パラリンピック 学生ボランティア報告会



東京2020オリンピック・パラリンピックボランティア参加学生の活動発表会を行い、ボランティアを通じて得た経験や学んだことを他の学生の皆さんへ紹介します。

コロナ禍にあって、ワクチン接種もままならない状況で感染のリスクを抱え参加した本学学生のボランティア活動に対する思いや様々な経験、また大会後のレガシーに対する考え方などを聞き、今後、皆さんがボランティア活動を行うきっかけとなる場を提供します。

こちらの発表は撮影を行い、12月に公開を予定しています

日時:2021年11月5日(金) 18:00開始

場所:白山キャンパス125記念ホール

定員:30名

希望する方はこちらの申込フォームより申し込みください。

11月4日(木)10:00迄

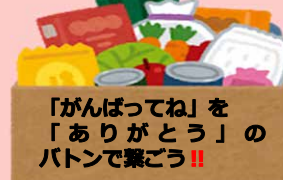
<https://forms.gle/e4WbzFDHweW7fDct9>

なお、応募者多数の場合は抽選をさせていただきます。

問合せ先:ボランティア支援室
mlvolsup@toyo.jp



Toyo University Hands to Hands 2021 みんなで乗り越える、コロナ禍



「がんばってね」を
「ありがとう」の
バトンで繋ごう!!

東洋大学ボランティア支援室では
食料品等の寄贈を募ります。

昨年から猛威を振るっている新型コロナウイルスですが、今に収束の兆しが見えません。世界中の国々が同じ脅威にさらされる、などということは今まであったでしょうか? この大きな脅威は東洋大生にも、不安・心配となって押し寄せています。アルバイトの状況もよくなっておらず、生活の状況は最低限という学生が多いことと思います。新入生で、まだ相談相手もなく、援助が必要な方も多いかと思えます。そこで、昨年に引き続き東洋大学ボランティア支援室が仲介して、みんなで助け合い、不安・心配を取り除き、学業継続の意欲を支えあう活動を展開することにしました。多くの方々からの寄贈とご協力をお願いします。

ご提供していただきたい物資

○缶詰・レトルト食品 ○お米 ○麺類 ○粉類 ○茶葉・コーヒー
○菓子類 ○ペットボトル・缶飲料(酒類を除く) ○マスク等の日用品
※野菜、精肉、鮮魚等の生鮮食品、および賞味期限がおおよそ1ヶ月未満のものは対象外。

受付期間:5月6日(木)~5月31日(月)

平日10:00~16:00まで

【※土日祝日は除く】

物資の送付場所について(宅配便ご利用の場合、送料は自己負担をお願いします。また、別紙受付カードを同封してください)

113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1F

社会貢献センター(ボランティア支援室)

☎03-3945-7927 ✉mlvolsup@toyo.jp

学生さんからの寄贈も大歓迎!! 仕分け等のボランティア同時 募集中!!

学生の皆さんへ

Hands to Hands 2021 みんなで乗り越える、コロナ禍

新型コロナウイルスはまだ収束の兆しが見えていません。収入の減少が続き、生活に不安をお持ちの方が多くいらっしゃるかと思います。昨年に引き続き、ボランティア支援室では、「Hands to Hands 2021-みんなで乗り越えるコロナ禍-」として、食料品等を通して校友・学生・教職員がみんなで助け合い、コロナ禍を乗り越える「場」を提供いたします。ここでは学生さんが必要な物資などを入手することで、学業が継続できる環境を支えあうことを目指しています。現在、物資の提供も積極的に受け付けております。少しでも不安を取り除けるのであれば幸いです。ご応募お待ちしております。

1. 受付期間:2021年5月25日(火)~寄贈品がなくなり次第終了

2. 申込方法:Google Formにて受付(申請フォーム) <https://forms.gle/gy6eFztk4WeQEpN6>

3. 受取期間:2021年6月1日(火)~寄贈品がなくなり次第終了

平日10:00~18:00まで【※平日13時~14時、土日祝日は除く】

※受け取り日程についてはお申込後改めて事務局から連絡します。

4. 受取場所:白山キャンパス:雨水会館1F ボランティア支援室

川越キャンパス:川越教学課

板倉キャンパス:事務課

赤羽台キャンパス:事務課(所属学部担当窓口)

※エコバッグを必ず持参してください。

※多くの学生さんへ支援を行うため、一人当たりの受取回数を調整させていただきます。

※受取日時は「予約制」とさせていただきますが、「密回避」のため、会場外でお待ちいただく場合もあります。ご協力いただきますようお願いいたします。

※問合せ先(ボランティア支援室): mlvolsup@toyo.jp / 03-3945-7297



Toyo University Hands to Hands 2021 みんなで乗り越える、コロナ禍



「がんばってね」を
「ありがとう」の
バトンで繋ごう!!

東洋大学ボランティア支援室では
食料品等の寄贈を募ります。

2021年度も引き続き行いました「Hand to Hands」プロジェクトですが、おかげさまでこの春学期には延べ497名の学生から申し込みをいただき、配布が終了いたしました。しかしながら、長引く緊急事態宣言の中で支援を必要とする学生さんはまだまだいると思われれます。引き続き「Withコロナ」時代を生きる学生のために、寄贈とご協力いただきますようお願いいたします。

ご提供していただきたい食品

○缶詰 ○レトルト食品 ○お米 ○麺類 ○粉類 ○茶葉、コーヒーなど
○菓子類 ○ペットボトル・缶などの常温で保存のきく飲料(酒類を除く)
※生鮮食品および原則として賞味期限が1ヶ月未満のものは対象外。

受付期間:10月1日(金)~11月1日(月)

平日10:00~16:00まで

【※平日13時~14時、大学祭(10/29~11/3) 土日祝日は除く】

物資の送付場所について(ご郵送の場合、郵送料は自己負担をお願いします。また、別紙受付カードを同封してください)

113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1F

社会貢献センター(ボランティア支援室)

☎03-3945-7927 ✉mlvolsup@toyo.jp

学生さんからの寄贈も大歓迎!! 仕分け等のボランティア同時 募集中!!

後援:東洋大学校友会 東洋大学雨水会

学生の皆さんへ

Hands to Hands 2021 秋
-みんなで乗り越える、コロナ禍-

春学期に引き続き、ボランティア支援室では、「Hands to Hands 2021 秋 みんなで乗り越えるコロナ禍-」として、食料品等を通じて校友・学生・教職員がみんなで助け合い、コロナ禍を乗り越える「現場」を提供いたします。
ここでは学生さんが必要な物資などを入手できることで、学業が継続できる環境を支えあうことを目指しています。現在、物資の提供も積極的に受け付けております。少しでも不安を取り除けるのであれば幸いです。ご応募お待ちしております。

1. 受付期間：2021年10月25日(月)から
2. 申込方法：Google Formにて受付
(申請フォーム) <https://forms.gle/iw2gea1bkdNxUpnB7>
3. 受取期間：2021年11月4日(木)から (なくなり次第終了)
※受け取り日程についてはお申込翌日までに事務局から連絡します。
4. 受取場所：白山キャンパス：雨水会館1F ボランティア支援室
川越キャンパス：川越教学課
板倉キャンパス：板倉事務課
赤羽台キャンパス：事務課(所属学部担当窓口)
※エコバッグを必ず持参してください。
※受取日時は「予約制」とさせていただきますが、「密回避」のため、会場外でお待ちいただく場合もあります。ご協力いただきますようお願いいたします。
※問合せ先(ボランティア支援室)：mlvolsup@toyo.jp / 03-3945-7927

お申し込み Application site
↓↓↓




学生の皆さんへ

Hands to Hands 2021 秋
-みんなで乗り越える、コロナ禍-

“100円弁当プロジェクト！”
学生の皆さんへ「食」の支援を
引き続き行います

これまで、「Hands to Hands」プロジェクトにて食材の支援を行ってまいりましたが、いまだに続くコロナ禍で経済的に不安を感じている学生さんへ「100円弁当」プロジェクトを実施します。
大学での食事を安価で提供をいたします。
皆さん是非ご利用ください。

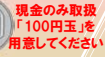
日時
2021年12月13日(月)～17日(金)
2022年1月17日(月)～21日(金)
【全キャンパス】11:30～なくなるまで
【白山(2部)】17:00～17:30

場所
白山：4号館1階大学生協 横スペース
川越：学生ホール食堂棟 生協付近
板倉：売店棟 売店IZUMI
赤羽台：INIAD 1階 生協付近

☆各日の予定数がなくなり次第終了となります☆

※エコバッグを必ず持参してください。
※ごみの分別にご協力ください。
※多くの学生さんへ支援を行うため、一人当たりの受取回数を調整させていただきます。






東洋大 公開講座 検索

東洋大学 2021年秋期 オープン講座

防災の思想


～避難情報廃止論と防災プラグマティズム～

各地で起こる浸水被害の多くは想定外ではありません。わたしたちの多くは氾濫原に住んでいます。すなわち「氾濫原の住民としての『覚悟』」が備わっているのか、いま問われているといえます。本講座では「避難情報廃止論」という思考実験と「防災プラグマティズム」という思想を紹介いたします。そして「防災」という営みを様々な観点から捉えてみることを通じて、われわれが備えるべき「覚悟」とはいったい何なのかを探求してみよう。

講師紹介 及川 康 (東洋大学理工学部教授)
1996年群馬大学卒業、2001年群馬大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。長岡技術科学大学助手、群馬大学専任講師、東洋大学准教授などを経て2019年より現職。災害に対する住民の意識や行動、効果的な災害情報のあり方等に関する研究に従事。

1.開催日時：10月30日(土) (同日2コマ)
【第1回 10:30～12:00】【第2回 13:30～15:00】
2.実施形式：Web配信型(Webex Cisco社)
3.受講料：無料
4.申込期間：9月15日(水)～10月20日(水)

主催：東洋大学社会貢献センター
後援：社会福祉法人 文京区社会福祉協議会・公益財団法人 文京アカデミー
お問合せ先：03-3945-7635(東洋大学エクステンション課)



申込はこちら

東洋大 公開講座 検索

東洋大学 2021年秋期 オープン講座

災害時の子どもの居場所 意義と作り方


災害時、子どもたちは住み慣れた家や地域を離れて避難所などでの生活や被災した家屋での不自由な暮らしを余儀なくされます。そのような中で、子どもたちにとって安全・安心な居場所である「子どもにやさしい空間」を創設することは、子どもたちの心身の回復や日常生活をいち早く取り戻すことにつながります。「子どもにやさしい空間」をどのように設置し、運営できるのか、準備や活動の計画、空間デザイン、居場所での子どもたちの関わり方などを学びます。災害時だけでなく、平時の子どもたちの居場所を運営している団体や個人の方々にも役立つ内容です。その考え方・設置・運営の具体的な方法、子どもにとって最も自然な表現方法である「遊び」を通して子どもの心のケアをおこなう方法を実践的に学びませんか？

講師紹介：湯野貴子氏 加藤力三氏
(NPO法人 災害時こどものこころ居場所サポート)
コーディネーター：森田明美 (社会学部社会福祉学科教授)

災害や事故は、子どもたちから一瞬にして日常という「心の支え」を奪い奪います。「子どもにやさしい空間」は、不安や様々な危機にさらされる子どもたちが、安心して安全に過ごせる居場所を提供する活動です。

1.開催日時：2022年2月12日(土) 【10:00～13:00】
2.実施会場：東洋大学白山キャンパス 雨水会館
3.受講料：無料
4.申込期間：1月10日(月)～2月6日(日)

主催：東洋大学社会貢献センター
後援：社会福祉法人 文京区社会福祉協議会・公益財団法人 文京アカデミー
お問合せ先：03-3945-7635(東洋大学エクステンション課)



申込はこちら



**社会貢献活動表彰式・奨励プロジェクト助成報告会
課外活動団体報告会
地域活性化活動支援事業報告会**

期日：2022年3月16日（水）
会場：白山1101番教室またはWeb開催（webex）
【第1部】ミーティング番号：2514 934 1458 パスワード：SbpP9ZFGW79
【第2部】ミーティング番号：2516 359 5339 パスワード：QYn2jqHmk29
申込不要！どなたでもご参加いただけます！！

【第1部】
■10:30～11:30
《社会貢献活動表彰式・奨励プロジェクト助成報告会 課外活動団体報告会》

式次第【予定】

1. 開式の挨拶 社会貢献センター長 森田 明美
2. 式辞 東洋大学学長 矢口 悦子
3. 【助成金採択団体】表彰状と盾の授与
フードプロジェクトフクシマ
国際ボランティアサークル Salamat
4. 『SDGsコンテスト』表彰式
5. 課外活動団体報告会【調整中】
デザインで変ぼう会
福島県の子どもに寄り添うプログラム
被災地の大学生と東洋大生が取り組む被災地
支援のあり方
地震、火災、風水害、そしてコロナ
～『複合災害』に、どう備える？～
SDGsコンテスト
6. 閉式

お問い合わせ：☎03 3945 7460 ✉ mlxst@toyo.jp
東洋大学社会貢献センター（エクステンション棟）南水会館1F

【第2部】
■13:30～14:50終了予定
《地域活性化活動支援事業報告会》

当事業は、過疎化や高齢化などの地域課題に関して、教員、学生、住民がともに活動する企画に対し、経済的に支援することで、今後自立した活動へと発展させていくためのサポートをしています。
各活動の報告を知ること、今後の教育研究活動の一期になれば幸いです。

【2021年度 活動一覧】

1. 香川県さぬき市の姉妹都市交流支援
2. 南会津町観光まちづくりデザイン研究Ⅲ
3. 富士宮市における食文化振興プロジェクト
4. 広島県呉市御手洗地区における地域活性化支援事業
5. 非対面健康体操教室による地域高齢者交流促進活動

※現在、活動団体に参加を確認中のため、当日参加できない団体が発生する場合があります。
なお、各活動の報告書は、別途ホームページ等に掲載する予定です。

Webex:URL



Webex:URL



Presented by 東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ

東洋大学ボランティアカフェ

「先輩に聞く！ボランティアのファーストステップ
～コロナ禍の中、どうしてる？～」

2021年5月28日（金）12:30-14:30
オンライン開催（ZOOM）

ボランティアカフェ（ボラカフェ）は、お茶やお菓子を片手に、気楽な気持ちでボランティアのことや、地域・まちづくりの話などが聞ける交流型トークセッションです。普段の授業では出会えないような、人や世界との出会いがあるかも？



申し込みは
コチラ！

お問い合わせ：東洋大学ボランティア支援室
（東洋大学白山キャンパス 南水会館1階）

TEL: 03-3945-7927 e-mail: mlvolsup@toyo.jp
URL: https://www.toyo.ac.jp



誰にでも
「はじめて」がある

先輩のエピソードを聞いてみよう！

大学の4年間で、授業やバイト、更にはサークルとも違うことをやってみたい！
そう思って、ボランティア活動に興味を示す人は少なくありません。しかし、実際に活動しようとする、なかなか実行に移せない人もたくさんいます。更にいまはコロナ禍。人の接触を極力避けることが求められる中、どのようにいまの状況に向き合っていけばいいのでしょうか？
「そうだ、先輩に聞いてみよう！」。

【ゲスト】

- ・関根 佳純さん
（東洋大学3年、学ボラ代表）
- ・井上 菜里さん
（東洋大学3年、国際ボランティアサークル Salamat代表）
- ・杉本 昂熙（たかき）さん
（学生団体おりがみ副代表、東洋大学 ボランティア支援室サポートスタッフ）



サポスタってなに？

正式名称は「ボランティア支援室サポートスタッフ」。ボランティアの魅力を多くの東洋大生に伝えるために、本イベントを企画している他、ボランティア支援室のプロジェクトリーダーと一緒に、社会課題を学びながらいるいるなかで実践を重ねています！

Contact: mlvolsup@toyo.jp



Presented by 東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ

東洋大学ボランティアカフェ

「世の中、SDGsというけれど・・・なにをする？
～東洋大学SDGsアンバサダーにヒントをもらおう！～」

2021年11月26日（金）19:30-21:00
オンライン開催（ZOOM）

ボランティアカフェ（ボラカフェ）は、お茶やお菓子を片手に、気楽な気持ちでボランティアのことや、地域・まちづくりの話などが聞ける交流型トークセッションです。普段の授業では出会えないような、人や世界との出会いがあるかも？



申し込みは
コチラ！

お問い合わせ：東洋大学ボランティア支援室
（東洋大学白山キャンパス 雨水会館1階）

TEL: 03-3945-7927 e-mail: mlvolsup@toyo.jp
URL: https://www.toyo.ac.jp



「TOYO SDGs アンバサダー」メンバー募集

学年・SDGsに関する知識不問

東洋大学の2021年6月6日にSDGs憲章が制定され、2030年までのSDGsゴール達成に向けて様々な活動を行う予定です。そこで、ボランティア支援室ではSDGs活動を学生の皆さんと共に進めたいと考え、「TOYO SDGs アンバサダー」プロジェクトを創設いたします。

東洋大学生の「SDGs」に関する認知度を上げ、「身の回りのものはSDGsに繋がっている」と学び、「自分自身の課題である」ことを認識してもらい「自分ごと」として取り組んでほしいです。また、学んだことを基に、「自ら活動を行う」ことを応援するためのプログラムも用意しています。個人での申し込み、あるいは所属サークル以外での団体申し込みも可能です。

SDGs、そんなに 難しくない？

東洋大学SDGsアンバサダーに聞く！

みなさん、最近SDGsという言葉をよく耳にしませんか？ただ、SDGsって言われても何をすればいいかわからない...そう思っている人も多いかと思いますが、でも、スケールの大きな問題と感じていることの大元には、実は私たちの周りにたくさんあるんです！

今回のボラカフェでは、そんなSDGsに向けたアクションに関わりはじめた、SDGsアンバサダーの学生から、活動をはじめた最初のきっかけや想いについての話から、なにかヒントを掴んでもらえたらと思います。

それでは、SDGsアンバサダーのみならずと一緒に、SDGsをのそいでみませんか？

【ゲスト】

・東洋大学SDGsアンバサダーの皆さん
東洋大学SDGsアンバサダーとは、2021年6月6日にSDGs憲章が制定されたことを機に、東洋大学の学生によるSDGsアクションを推進していくことを目的に発足したプロジェクトです。

サポスタってなに？

正式名称は「ボランティア支援室サポートスタッフ」。ボランティアの魅力を多くの東洋大生に伝えるために、本イベントを企画している他、ボランティア支援室のプロジェクトリーダーと一緒に、社会課題を学びながらいろいろな場で実践を重ねてます！

Contact: mlvolsup@toyo.jp



Presented by 東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ

東洋大学ボランティアカフェ

「防災知識をアップデート！
～日常からできる防災～」

2021年12月28日（火）10:30-12:00
オンライン開催（ZOOM）

ボランティアカフェ（ボラカフェ）は、お茶やお菓子を片手に、気楽な気持ちでボランティアのことや、地域・まちづくりの話などが聞ける交流型トークセッションです。普段の授業では出会えないような、人や世界との出会いがあるかも？



申し込みは
コチラ！

お問い合わせ：東洋大学ボランティア支援室
（東洋大学白山キャンパス 雨水会館1階）

TEL: 03-3945-7927 e-mail: mlvolsup@toyo.jp
URL: https://www.toyo.ac.jp



「もし、首都直下型地震が発生したら」を シミュレーションしながらお話ししよう

最近、全国各地で地震活動が活発化していて、ちょっと不安を感じることも増えてきましたね。

首都直下型地震について、皆さんもニュースなどで聞いたことがあるのではないかと思います。今後30年以内に80%程度の確率で発生すると言われていたのです。もし、こうした大規模地震が首都圏を襲ったら、あなたはどのように生き延びますか？

東洋大学のように、大学にボランティアセンターが設置されるようになった大きなきっかけが、阪神・淡路大震災と言われていますが、ボランティア活動において災害・防災分野は、皆さんもイメージしやすい分野の1つかも知れません。何から防災対策を始めたらよいか分からないという人も、ボランティア活動の入口に、防災知識を高めていったという人も少なくありません。

そのあたり、IVUSA（国際ボランティア学生協会）の皆さんに聞いてみませんか？

【ゲスト】

・東洋大学IVUSAの皆さん

「環境保護」「地域活性化」「国際協力」「子どもの教育支援」「災害救援」を柱に活動している東洋大学公認サークルです！

特に災害救援分野の活動には定評があり、近年では2019年の台風15号・19号災害における千葉県での活動などを行っています。また、東洋大学ボランティア支援室とのコラボレーションで、防災ワークショップも開催。今年度も2月上旬に開催予定ですので、ボラカフェに参加した皆さんもぜひ、ご参加ください！

サポスタってなに？

正式名称は「ボランティア支援室サポートスタッフ」。ボランティアの魅力を多くの東洋大生に伝えるために、本イベントを企画している他、ボランティア支援室のプロジェクトリーダーと一緒に、社会課題を学びながらいろいろな場で実践を重ねてます！

Contact: mlvolsup@toyo.jp



東洋大学ボランティアカフェ

Presented by 東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ
聞いてみよう、東北の魅力！
つくってみよう、自分の東北！

ー「またきてね、またきます。」私にとっての故郷ができますようにー

2022年3月17日(木) 13:00-15:00
 オンライン開催 (ZOOM)

ボランティアカフェ (ボラカフェ) は、お茶やお菓子を片手に、気楽な気持ちでボランティアのことや、地域・まちづくりの話などが聞ける交流型トークセッションです。普段の授業では出会えないような、人や世界との出会いがあるかも？

サポーター同
 皆様のご参加お待
 ちしております。



お問い合わせ：東洋大学ボランティア支援室
 (東洋大学白山キャンパス 南水会館1階)
 TEL: 03-3945-7927
 e-mail: mlvolsup@toyo.jp
 URL: https://www.toyo.ac.jp

ゲスト紹介

木村 優哉さん

(株式会社バリューソフト/コーディネーター)



青森県八戸市出身。
 大学3年時に地域を知るフィールドワークへ参加し「地域にこんな素敵な活動がたくさんあるんだ！」ということに気づき、さまざまな地域活動に関わる。就活時に悩んで参加した「実践型インターンシップ」をきっかけに、地域にいる魅力的な人と吾者をつなぐ事業をやりたいと思いを持つ。自分らしくある場、主体性を持った人が生まれる場づくりが最近のテーマ。

宇佐美 綾野さん

(宮城学院女子大学現代ビジネス学部3年)



宮城県仙台市出身
 仙台の持つ地域性と美味しい牛タンが好き。東日本大震災をきっかけにベラルーシ共和国へ渡り、観光に興味を持つ。宮城県松島高校観光科を卒業し、現在は宮城学院女子大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科3年。復興庁主催「FW:東北」参加で地域について考えるようになる。研修室の活動では津波被害跡地の活用について研究中。

神 裕美さん

(ringo company 代表)



青森県八戸市出身。
 埼玉大学在学中に震災ボランティアを通じていわき市と出会う。大学卒業後、助けた会社を辞めて再び福島に。住民と共同で会社を立ち上げ、地元でとれた魚の販売や子どもたちに水産物の魅力を伝える教育事業を行う。現在は福島と地元八戸の2拠点を中心に、一次産業と教育をつなげる活動に取り組む。好きなものは海。魚。焼。

〈日時〉

2022年3月17日(木) 13:00-15:00 @Zoom

〈内容〉

東北3県(岩手県・宮城県・福島県)を代表するゲストスピーカーをお呼びし、この活動を始めようとしたきっかけや地域の魅力をプレゼンしていただきます。その後、参加者はグループに分かれ実際に訪れたい地域でのツアーを計画します！
 イベント終了後も参加者の皆さんが繋がる企画を用意していますので、お楽しみに！

〈主催者の想い〉

東北の魅力を知り、「好き」になってほしい！
 「3.11」を振り返り、想いを受け継いでほしい！
 そんな想いを込めて、企画しました。

申し込みは表面のQRコード
 からお願ひします！



初めてSDGsを学ぶ方向けの初級編ワークショップです！ 東洋大生がワークショップで考えるSDGs ～15年前の世界と未来(2030年)の世界を考えよう～ 【オンライン開催】

開催日：5月8日(土) 10:30～12:30



SDGs(持続可能な開発目標)は、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットで構成されている2030年までの国際目標です。「leave no one behind」(地球上の誰一人として取り残さない)ことを誓っていますが、私たちの生活にどのように関係するのでしょうか。今回はグループワークなどを通して、SDGsを基礎から学ぶとともに、日常生活との接点を見つけ、SDGsを「自分ごと」として考えます。身近なモノから世界とのつながりを考えてみましょう。



東洋大学 ボランティア支援室
 TEL: 03-3945-7927
 MAIL: mlvolsup@toyo.jp

◆講師・ファシリテーター
 認定NPO法人開発教育協会
 (DEAR)

◆申込方法：右記のQRコードよりお申込ください。

◆定員：20名

◆申込期限：5月6日(木)まで
 ※締切前でも定員に達した場合受付終了となります。



(今回限り無料 先着順) SDGs オンラインカードゲーム

今回ご案内しているオンラインのカードゲームイベントは、カードを使いSDGsの目標達成をメンバーと一緒に考えながら自分ごととして体験できるゲームとなっています。

■2030SDGsカードゲームとは？



全国様々な場所で、このカードゲームは実施されていますが、通常は学生でも参加費2000円程度かかります。また、今回は、まだほとんど実施していないオンラインカードゲームを期間限定で、東洋大学の皆さんにだけ無料で提供させていただきます。今回限りとなっていますので、以降の無料での実施予定はありません。

是非、この機会に体験してみてください。

申し込みについて

日時：7月10日(土) 10:40～13:30

：7月11日(日) 10:40～13:30 どちらも同じ内容です。

場所：web会議システム(zoom)を使用

申込：googleformにて申し込み⇒

注意事項：カメラ「ON」マイク「ON」での参加が必要です。



東洋大学 ボランティア支援室

TEL: 03-3945-7927

MAIL: mlvolsup@toyo.jp

THE GLOBAL GOALS 5 GENDER EQUALITY 12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION 17 PARTNERSHIPS FOR THE GOALS

家にいながら
フィリピンで
ボランティア？

TOYO オンラインボランティアプログラム2021

フィリピンの若者とつくる SDGsアクション！

DAY1 : 8月9日(月) 14:00-16:00
DAY2 : 8月17日(火)14:00-16:00
DAY3 : 8月18日(水)14:00-16:00
DAY4 : 8月21日(土)10:00-12:00

参加費無料、英語力不問
先着30名様限定!!

▲申し込みフォーム
(締切: 8/2(月))

主催・お問い合わせ先: 東洋大学ボランティア支援室
(TEL) 03-3945-7927 (e-mail) mlvolsup@toyo.jp

協力: 特定非営利活動法人LOOB JAPAN
東洋大学国際ボランティアサークルSalamat

夏休み企画★GOAL14; 海の豊かさを守ろう編/

東洋大生がワークショップで考えるSDGs ～イルカ・クジラの世界から見つめるSDGs～ 【オンライン開催】

開催日: 8月10日(火) 14:00～16:00

SDGs(持続可能な開発目標)は、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットで構成されている2030年までの国際目標です。「leave no one behind」(地球上の誰一人として取り残さない)ことを誓っていますが、私たちの生活にどのように関係するのでしょうか。今回はイルカ・クジラの世界から美しい海を守る活動を続けているアイサーチ・ジャパンの活動を切り口に、今世界の海で起きている問題を学びます。グループワークを通じて、未来のために今私たちにできることを一緒に考えてみませんか？

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

◆講師・ファシリテーター: 相良 菜央 さん
アイサーチ・ジャパン(国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター)3代目代表。幼少期よりイルカたちのために、自然を大切にしたいという想いをもち続ける。自分から出来る様々なことに挑戦する活動家。人との出会いを大切に、地球の明るい未来を目指す。

◆申込方法: 右記のQRコードよりお申込ください。

◆定員: 20名程度

◆申込期限:
7月29日(木) 17:00まで
※締切前でも定員に達した場合受付終了となります。

【追加開催 決定!】

SDGs オンラインカードゲーム

2030SDGsカードゲーム(Our worldゲーム)のオンライン版を用いたイベントを7月に行いましたが、講師のご厚意で、8月に追加開催を行うことになりました。

ご案内しているオンラインのカードゲームイベントは、カードを使いSDGsの目標達成をメンバーと一緒に考えながら「自分ゴト」として体験できるゲームとなっています。

■2030SDGsカードゲームとは?
<https://imacocollabo.or.jp/games/2030sdgs/>

通常は学生でも参加費2000円以上がかかりますが、今回はコロナ禍でも実施が可能であるオンラインカードゲームを期間限定で、東洋大学の皆さんに無料で提供させていただきます。

7月実施の際に予定が合わなかった皆さん、この機会に体験してみてください。

夏休みに「SDGs」について学んでみませんか?
多くの皆さんのお申し込みをお待ちしております。

申し込みについて

日時: 8月26日(木) 10:00～13:00
場所: web会議システム(zoom)を使用
申込: googleformにて申し込み⇒
締切: 2021年8月22日(日)まで
申込: <https://forms.gle/x6h2eJ9zjq6GJfCJ6>
定員: 30名 最少人数: 15名(応募者多数の場合は、抽選を行います)
注意事項: カメラ「ON」マイク「ON」での参加が必要です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

東洋大学 ボランティア支援室
TEL: 03-3945-7927
MAIL: mlvolsup@toyo.jp

初めてSDGsを学ぶ方向けの初級編ワークショップです/

東洋大生がワークショップで考える 初めてのSDGs 【オンライン開催】

開催日: 10月9日(土) 10:00～12:00

SDGs(持続可能な開発目標)は、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットで構成されている2030年までの国際目標です。「leave no one behind」(地球上の誰一人として取り残さない)ことを誓っていますが、私たちの生活にどのように関係するのでしょうか。今回はグループワークなどを通して、SDGsを基礎から学ぶとともに、日常生活との接点を見つけ、SDGsを「自分ゴト」として考えます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

◆講師・ファシリテーター
八木 竜子 さん
認定NPO法人開発教育協会(PEAR) 事業主任
静岡県出身。大学時代に国際ワークショップに参加したことをきっかけに、ボランティア市民活動の世界へ。国際協力NGO中国支店長兼理事を経て2007年よりPEARの職員となる。広報や教材作成、ワークショップのファシリテーターなどを務める。2017年度よりアジア太平洋資料センター(PARC)理事。

◆申込方法: 右記のQRコードよりお申込ください。

◆定員: 20名

◆申込期限:
9月25日(土)まで
※締切前でも定員に達した場合受付終了となります。

東洋大学 ボランティア支援室
TEL: 03-3945-7927
MAIL: mlvolsup@toyo.jp

Toyoオンラインボランティアプログラム



海を守るのは君だ！
～家から参加できるSDGsボランティア～

開催日時：(Day.1) 11月21日(日) 10:00～11:30
(Day.2) 12月5日(日) 10:00～11:30
※原則、両日参加できる方を対象としたプログラムです。

開催方法: オンライン

参加方法: 右のQRコードを読み取り
申し込みフォームにご記入ください

申し込みは
こちら!



- ・主催、お問い合わせ先：東洋大学ボランティア支援室 (e-mail) mlvolsup@toyo.jp (TEL) 03-3945-7297
- ・協力：ICERC Japan (国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター)
- ・企画運営：東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ

内容の詳細は裏面をご覧ください

内容：

• Day.1 (11月21日)

ゲストファシリテーターからの話題提供を挟みながら、海と、私たちが日常を送っている「まち」とのつながりをメインテーマにして進めていきます。

扱う話題は海洋プラスチック問題のほかに、ごみ問題、エネルギー問題、水質汚染などです。参加者間で話し合い、私たちにできること、自分にできることを考えて行動を計画し、ワークシートを用いながら、Day.2までの期間にアクションを行っていただきます。

• Day.2 (12月5日)

ワークシートをもとに、行ったアクションについて共有し、どこで、誰に、どのような(良い・悪い)影響を与えたかを考え、さらに改善するにはどうすればよいかなど、自分の行動と海のつながりを可視化できるように話し合います。



東洋大生がワークショップで考えるSDGs【オンライン】
「大学生こそ知っておくべき 雇用と労働と経済（初級編）」
～就職活動への不安を一緒に語り合いませんか？～

開催日時：12月23日(木) 14:00～16:00



SDGs(持続可能な開発目標)は、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットで構成されている2030年までの国際目標です。「leave no one behind」(地球上の誰一人として取り残さない)ことを誓っていますが、私たちの生活にどのように関係するのでしょうか。今回はグループワークなどを通して、SDGsを基礎から学ぶとともに、日常生活との接点を見つけ、SDGsを「自分ゴト」として考えます。身近なことから世界とのつながりを考えてみましょう。

【講師】POSSE 青木耕太郎さん



1989年千葉県生まれ。個人加盟労働組・総合サポートユニオン共同代表。3.11以降、仙台市で被災者支援・就労支援に従事。2014年に総合サポートユニオンを結成し、ブラック企業で働く若者や非正規雇用労働者の組織化を担当。近年は外国人やセクシャルマイノリティの労働問題にも取り組んでいる。共著に『断絶の都市センダイ』(朝日新聞出版)。

★申込方法★

【方法】右記のQRコードよりお申込ください。

【期限】12月16日(木)

【定員】20名(お申し込み多数の場合は抽選させていただきます)



【お問い合わせ】

東洋大学 ボランティア支援室
TEL : 03-3945-7927
MAIL : mlvolsup@toyo.jp

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

東洋大生が ワークショップで 考えるSDGs

～教育現場からジェンダーを考えてみよう～

2022年2月18日（金）10:00～12:00
オンラインにて開催

申込方法：QRコードよりお申込みください。

申込期限：2月8日（火）まで

*定員（20名ほど）を超えた場合、抽選させていただきます。



開催内容

SDGs（持続可能な開発目標）は、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットで構成されている2030年までの国際目標です。今回は5番目のゴールである「ジェンダー平等を実現しよう」をテーマに、SDGsを身近なこととして捉えてみましょう。特に、教育現場を中心に取り上げ、ジェンダーとは何か、具体的にどんな場面でジェンダー問題が起きているのかを一緒に考えて、そして自分自身の行動変容につなげる一歩を踏み出しましょう。

ご協力：高石啓人先生

山梨県立大学人間福祉学部 講師
東洋大学社会学部 非常勤講師
国連NGO・特定非営利活動法人子どもの権利条約総合研究所 運営委員

【お問い合わせ】

東洋大学 ボランティア支援室
TEL：03-3945-7927
MAIL：mlvolsup@toyo.jp

デイキャンプで遊ぼう会

初めてのボランティア体験

里親家庭とのデイキャンプ（教員引率有）



里親家庭には、多くの場合、里子以外には青年期の家族がいることはほとんどありません。また地域の活動などに参加していないため、子育て中の家族などとの交流の機会が少ないのです。そのような中で、一緒にレクなどの活動をしたり、遊んでくれる大学生との出会いはとても貴重です。

そこで、この里親家庭と大学生連のデイキャンプを実施します！！

里外のキャンプ場で、子どもたちとウォークラリーなどのレク遊びをします。この活動自体は、児童福祉を学んでいる学生連を中心に、10年余り続けられてきたものです。2018年度より、この活動に一般の学生も参加が可能となりました。ただし、参加を希望する学生には、里親子の置かれている状況を理解するための事前学習を必ず受講いただきます。

日時：2021年11月3日（水）10時～16時30分 小雨決行
場所：〒274-0002 千葉県船橋市大神楽街504 船橋市立青少年第2キャンプ場
集合場所：東洋大学 白山キャンパス 正門前 バスで現地まで行きます。
集合時間：7時40分

参加費：無料

参加者：千葉県里親会の会員と関係者、東洋大学社会学部 森田明美ゼミの学生3・4年生約30名、本学学生、一般市民

引率：社会学部社会学科 森田明美教授、森田研究室TA

申し込み：本学学生は以下のフォームより申し込みください。

締め切り：10月11日（月）申込：https://forms.gle/zt0Ydnrbk0ZzaJ8

定員：約20人（定員を超過した場合、選考あり）

事前学習：10月20日（水）3時限（13:00～14:30の間）（参加必須）教員またはオンライン

注意事項 参加者の方には「行事保険」に加入してもらいます。※費用は大学負担

参加するには別途「承諾書」が必要です。

参加決定（10/13）後、PDF又は全体を写真で撮影し、10月28日（木）迄にボランティア支援室

メールmlvolsup@toyo.jpへメール返信を「承諾書（デイキャンプ）」と記載し、添付添付してください。

【承諾事項】以下に同意のうえ、申込ください

・保証人（大学に提出された保護者等）に、企画参加の承諾を得ること。

・当日7:50以上のうち、マスク着用の方は、参加をお願いします。

・参加が不可能となった場合、集合場所までの交通費を本学は補償しません。

・学生責任者（森田ゼミ）が当日迄の連絡や参加者名簿に必要な「学籍番号、氏名、toyo

メールアドレス、性別」の参加者の個人情報、当直から学生責任者へ提供すること。

問い合わせ：東洋大学 ボランティア支援室
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1F
電話：03-3945-7460 メールアドレス mlxet@toyo.jp
主催：学生課外活動育成会、東洋大学ボランティア支援室
後援：法人こども福祉研究



2021年度 学生課外活動育成会企画

福島県の子どもに寄り添うプログラム



申込用 QR



■活動目的、内容【1泊2日】

被災地の母子家庭の子ども達と、遊びや学びを通じた交流することで、復興・創生の現状と向き合い、本学学生として「できる事は何か」を深めます。利用施設の状況により内容を変更する場合があります。

2022年1月	8日（土）	◆集合/8:00、白山キャンパス6号館1階 教務部前（西門より入構、他門不可） ◇8:30バス出発 ◇飯山市市民体育館（予定）にて、レクリエーション等（子供連との遊びや学習） ◇終了後、宿泊（風呂付個室の予定）
	9日（日）	◇スキー場にて子供連と雪遊び（荒天時は水族館見学） ◆解散/18:00頃、白山キャンパス西門（交通状況に時間は）

■募集内容

対象	本学学部生（私費留学生含む） ※学生課外活動育成会費の納入対象者のみため、院生等は申込できません。
定員	20名 ※定員を超えた場合、「応募理由」を確認のうえ、抽選。
費用	バス代、宿泊費、旅行保険代、スキー場代は育生会費より支出しますが、その他費用は自己負担となりますので、当日現金（食事代等）をご用意ください。
持ち物	「マスク」、「食事代2,000円程度」、「雪遊びに支障ない服装等」（防水靴、手袋など）

11月26日（金）16:00【厳守】迄に、GoogleForms（QRコードは右上）
https://forms.gle/RVahrFyCSTPrtzn8 より、保証人の「同意書」を添えて申込。
「同意書」は、この掲示とともに、ToyoNet-ACEにありませので、印刷してください。
GoogleFormsは、@toyo.jpアカウントでログイン、toyoのGmail以外では、申込できません。
申込できない場合は、@toyo.jp以外のGmailでログインされている可能性があります。
Gmailを一度ログアウト後、@toyo.jpのアカウントで再ログインしてください。

■申込後の主な流れ【予定】

3日（金）	この期日迄に、ToyoNetメールで当選又は落選を通知。
12月	15日（水） 12:20～12:50、「事前学習会（顔合わせ）」をWebexにて開催。 当選者に招待状等はメールします。
	16日（木） キャンセル申出期限（17時まで） ※以後のキャンセルは、食事代を徴収する場合があります。
12月24日（金）～1月4日（火）	事務局一斉休暇（電話、メール等の対応はできません）

主催：東洋大学森田明美ゼミ（社会福祉学科）
東洋大学ボランティア支援室（TEL：03-3945-7927）

さまざまな自然災害。同時に襲ってきたら、あなたはどのように対応しますか？

東洋大学課外活動育成会

防災オンラインワークショップ

地震、火災、風水害、そしてコロナ

～『複合災害』に、どう備える？～

災害大国、日本。
“日本で起こる災害”には、どのようなものがあるでしょうか？
ざっと挙げただけでも、地震や津波、台風、豪雨、洪水、土砂災害などがあり、近年発生しているものも少なくありません。

また、現在はコロナ禍であり、感染症とも向き合いながら、避難行動を考える必要性が生まれるなど、より難しい状況にあります。

本ワークショップでは、複数の災害が同時に、あるいは連続的に発生した場合の対応について考える機会を設け、「複合的な災害」についての知識の取得や、行動の仕方について学びます。

2/6 (日)
10:00～

参加費 無料

定員 30名
申込多数の場合抽選

対象：学部生のみ
大学院生、通信生の方はお申込みいただけません。

申込方法

申込方法：右のQRコードより申込フォームに入力してください。
<https://forms.gle/CNIGrcAmxMY7Z1rh6>

申込期間：2022年1月24日（月）～2月3日（木）

※申込み者多数の場合、抽選になります。参加の可否については、2月4日（金）までに申込時に登録したメールアドレスにお送りします。

お問い合わせはこちら

東洋大学ボランティア支援室
TEL：03-3945-7927
MAIL：mlvolsup@toyo.jp

TOYO UNIVERSITY

南三陸の若者と東洋大学生が考える被災地支援

本ツアーは、復興を測る「Project M」に取り組む南三陸出身の方に参加していただきます。東日本大震災を語り継ぐ活動と、若い世代が社会に向けて地域交流を実践するプロジェクトです。

概要

実施日：2022年2月11日(金)～13日(日)
応募締切：2022年1月31日

参加費：8,710円(宿での食費・プログラム費)
*現地徴収/バスの移動費、宿泊費は育成会費より支出され、その他の昼食等は自己負担

定員：13名(申込者多数の場合選考)
*学部生のみ

主催：東洋大学ボランティア支援室
協力：Project M、東洋大学学生課外活動育成会

プログラム

1日目 東京発 旧戸倉中学訪問

2日目 伝統工芸体験 海鮮BBQ、町内周遊

3日目 振り返りワークショップ さんさん商店街訪問 東京着

申し込み： <https://forms.gle/bMcC2w5D6t2lbogs8>

問い合わせ：ボランティア支援室(TEL:03-3945-7927 / MAIL:mlvolsup@toyo.jp)

～プログラム紹介～

まなびの里いりやど。今回のツアーの宿泊先です。南三陸町の山中に位置する宿泊研修施設で、杉材による暖かい雰囲気に加え、団体利用の出来る研修室や交流スペース、書籍スペースなど豊富な設備を備えています。(画像はイメージです)

語り部を聞いていただく旧戸倉中学校。現在は戸倉公民館として住民の憩いの場となっています。今回ご参加いただくプロジェクト「M」さんの出身校です。

名物「きらさら井」が人気の観光スポット、さんさん商店街。「サンサンと輝く太陽のように、笑顔とパワーに満ちた南三陸の商店街にしたい」という願いからオープンされました。

南三陸町の中でも入谷地区はかつて仙台湾の養魚発祥の地として栄えました。本ツアーではそんな郷土に触れられる「ひころの里」で鯛細工の体験をしていただきます。

南三陸は海沿いの港町の一面もあるため、豊かな海で育った魚介類が名物です。そんな海の幸を海鮮BBQとして楽しんでいただきます。

オンライン企画

南三陸の若者と東洋大学生が考える被災地支援

令和4年2月13日(日) 14:00~17:00

開催方法：オンライン開催 ZOOM

被災地の これまで と 現在 私たちの これから とは。
東日本大震災から11年を迎えるタイミング。
過去の震災を軸に、「地方で」「首都圏で」
若い世代として、どのようにして地域の中で歩むのかを考えます。





- ・南三陸の若者たちに体験談を通して震災当時の状況と災害についての基礎知識を学びます。
- ・次なる地震への備えを「あなた」はどうするかを考えます。
- ・復興しつつある南三陸の「今」と「良いところ」を紹介します。

募集人数 20名程度 (応募多数の場合
は抽選になります)

主催・協力
<主催>
東洋大学ボランティア支援室
<協力>
Project "M"(宮城県南三陸町の20代)
東洋大学学生課外活動育成会

応募 <https://forms.gle/bMCC2w5D6t2Jbogs8>

応募締切 令和4年2月10日(木) 16:00まで
お問い合わせ：ボランティア支援室 Tel:03-3945-7927 /Mail: mlvolsup@toyo.jp

募集対象 学部生のみ




東洋大学学生課外活動育成会企画

被災地の現状を知り 復興応援！ いわき市の農漁業の現状を発信する スタディツアー

福島県いわき市の農業・漁業は、原発事故の影響で未だ震災前の状態には戻っていませんが、コロナ禍の中でも、少しずつ展望が開ける状況になってきています。
農業・漁業の実際の現場を体感し、関係者からお話を伺ったうえで、SNS等を使って発信し、福島への支援をおこないませんか？ 事前学習および事後学習も行ないますので、併せて出席してください。

※本企画は実際に現場で活動を行い、関係者とも交流を行う企画です。したがって、新型コロナウイルス感染症の拡大状況がある程度収束し、実施可能と判断された場合のみ開催するものといたします。

2月23日(水) DAY 1

- 9:00 白山キャンパス出発
- 12:30 久之浜漁港の見学・昼食
- 14:00 宮城野地区の畜産農家見学
- 18:00 夕食(いわき市運水・古滝園)昼食・夕食
- 19:30 古滝園の大広間で、講義(合はまから 阿部唯久さん)

2月24日(木) DAY 2

- 8:00 徳島出発
- 8:30 沼田の農産物直売場(せり屋)見学
- 10:45 高岡町 廣野農産物直売場
- 12:15 さくらモール直売場 昼食
- 14:00 平野地区のグループ農家で農作業体験
- 18:00 夕食(いわき市運水・古滝園)昼食・夕食
- 19:30 古滝園の大広間で、講義(後編)合はまから 阿部唯久さん

2月25日(金) DAY 3

- 8:00 徳島出発
- 9:00 平野地区のグループ農家で農作業体験
- 12:30 いわき駅周辺で昼食
- 14:30 東京へ向け出発
- 18:00 白山キャンパス帰朝・解散

※スタディツアーは必ず事前に参加申し込みが必要です。

参加費 ¥7,000程度

バス移動交通費、宿泊代は育成会費より支出されますので無料です。その他の費用(食事等)は自己負担となります。当日現金で徴収します。

定員 20名(学部生のみ)

参加決定者には別途お知らせします。

事前学習 必ず出席してください。欠席者には課題を提出いただきます。

申込方法 右のQRコードより申込フォームに入力してください。
申込期間：2022年1月12日(水)～2022年2月8日(火)
※申し込み多数の場合は、参加理由による選考があります。参加者については、2月10日(木)までに申込時に登録したメールアドレスにお送りします。

主催：東洋大学ボランティア支援室
お問い合わせ先：〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1階 TEL：03-3945-7927 MAIL：mlvolsup@toyo.jp

東洋大学SDGs Weeks 2021 SDGsコンテスト

作品募集
2021年10月1日～11月30日
締切延長します！

皆さんが普段「何気なく」行っている行為が実は「SDGs活動」に繋がっていることを他の学生さんへ紹介していただき、それぞれの「小さな行動」がSDGs推進に繋がっていくような作品を募集します。

目的

- ① 本学学生のSDGsへの認知度を高めること。
- ② 本学学生にSDGsを身近に感じてもらい、「自分ごと」にしてもらうこと。

募集内容

- (1) ポスター部門
- (2) 川柳部門
- (3) 動画部門

3種類を募集します。応募作品の中から優秀な作品を選び、選ばれた方には、後日景品を贈呈します。

応募はこちらから！！

参加賞：500円分図書カード ※申込数の条件があります

入賞者

入賞者にはQUOカードを贈呈

最優秀賞・・・1万円分
優秀賞・・・5千円分

主催：Team Value Creation
東洋大学ボランティア支援室
協賛：東洋大学課外活動育成会

<p>ワークショップ</p> <p>東洋大学生がワークショップで考える初めてのSDGs</p> <p>日時：10月9日(土) 10:00～12:00 会場 白山：オンライン開催</p>	<p>参加企画</p> <p>「学生企画 SDGsコンテスト(ポスター・川柳・動画)」</p> <p>募集期間：10月1日～10月30日 申込先：ボランティア支援室</p>	<p>ワークショップ</p> <p>「ボランティア入門講座」</p> <p>日時：10月7日(木) 13:00～14:30 会場 白山：オンライン開催</p>	<p>参加企画</p> <p>「デイキャンプで遊ぼう会」(対面)</p> <p>日時：11月3日(水・祝) 10:00～16:30 会場：船橋市立青年第2キャンプ場</p>
<p>講演会</p> <p>「SDGsに関わる環境教育(英語による授業)」</p> <p>日時：10月4日(月) 13:00～14:30 会場 白山：ハイブリッド開催</p>	<p>講演会</p> <p>「(仮)「好き」を通じてファッションを変える、社会を変える」</p> <p>日時：10月6日(水) 13:00～14:30 会場 白山：ハイブリッド開催</p>	<p>講演会</p> <p>「食品ロス削減と保存料-SDGs目標12の推進」</p> <p>日時：10月8日(金) 16:40～18:10 会場 板倉：ハイブリッド開催</p>	<p>講演会</p> <p>「子どもの貧困への長崎-社会的責任の現場での取り組みから考える」</p> <p>日時：10月12日(火) 18:45～19:45 10月13日(水) 18:15～19:15 会場：白山ハイブリッド開催</p>
<p>講演会</p> <p>「カードゲームを通じてSDGs×人権を学ぶ」(対面実施)</p> <p>日時：10月13日(水) 9:00～10:30 会場 赤羽台 WELLB HUB-2 20402教室</p>	<p>講演会</p> <p>「知的障害特別支援学校におけるICTの活用：読む、聞く、話す、書くへの支援」</p> <p>日時：10月19日(火) 16:30～18:00 会場 白山：ハイブリッド開催</p>	<p>講演会</p> <p>「「企業と人権」～SDGsと人権について学ぼう～」</p> <p>日時：10月26日(火) 9:00～10:30 会場 川越：ハイブリッド開催</p>	<p>講演会</p> <p>「防災の思想～避難情報止論と防災プラクティス～」</p> <p>日時：10月30日(土) 10:30～12:00 13:30～15:00 会場 白山：オンライン開催</p>
<p>参加企画</p> <p>「Hands to Hands プロジェクト 2021」</p> <p>募集期間：10月25日～11月1日 申込先：白山ボランティア支援室</p>	<p>参加企画</p> <p>「Hands to Hands パスコーストカンパニーからの食の支援」</p> <p>日時：11月9日の【予定】 会場：各キャンパス</p>	<p>随時情報を更新中 10/2更新</p>	

ボランティア支援室
2021年 東洋大学 SDGs WEEKS
2021.10.1～11.30

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

English for Study Abroad 公開講座
SDGsに関する環境教育
(Environmental Education toward SDGs)

この講座では、金沢大学のAida Mammadova先生をお迎えして、石川県の世界農業遺産、能登の里海・里山、金沢ユネスコ創造都市ネットワーク、白山ユネスコパークの事例紹介をしていただきながら、SDGsのゴール4:質の高い教育をみんなに、ゴール8:働きがいも経済成長も、ゴール11:住み続けられるまちづくりを、ゴール12:つくる責任つかう責任、ゴール13:気候変動に具体的な対策を、ゴール14:海の豊かさを守ろう、ゴール15:陸の豊かさを守ろうの7つのゴールに関連付けながら、国際連携のお話をさせていただきます。なお、講義は英語で行います。

日時:10月4日(月) 3限(13:00-14:30) ※英語での授業です
講師:Aida Mammadova氏
(金沢大学 准教授)
参加方法:webex/zoomにて実施
事前申込制:(下記のGoogleFormsから参加申し込みして頂いた方へ、イベント3日前までに当日の参加URLをお送り致します。)9月30日締切
<https://forms.gle/88XF5mU5PkzCgy99>



東洋大学 ボランティア支援室
TEL : 03-3945-7927
MAIL : mlvolsup@toyo.jp

社会福祉学専門演習 I B / II B 公開講座
(仮)「好き」を通じてフクシを変える、社会を変える

Social Changeに向けた活動を実施している「フクシみらいデザイン研究所」の代表で、フリーランスのソーシャルワーカー、和泉 亮さんを講師にお迎えします。フクシの「みらいデザイン研究所」では、「その一人の個性がそのままの価値として適切に評価される社会の未来をデザインしていく」をビジョンとしてかかっています。研究所の活動の一つは、福祉に関する様々な人やフィールドについて和泉さんが取材をし、それをわかりやすく編集してYoutubeで社会に発信する、という取り組みです。(「フクシの「みらいデザイン研究所」
<https://www.youtube.com/channel/UC1wv95VAomGDr8axmxSZb1Q/about>)
講演会では、和泉さんがこの活動をはじめることになったきっかけや、この活動を通じて感じている社会の変化やご自身の変化等についてお話を伺います。和泉さんのお話だけでなく、是非、事前に動画を視聴し、福祉のミライを感じてください。和泉さんへのたくさんの質問も募集します!

日時:10月6日(水) 3限(13:00-14:30)
講師:和泉 亮氏
(フクシの「みらいデザイン研究所」代表、PSW、光華女子大学他非常勤講師)
参加方法:webex/zoomにて実施
事前申込制:(下記のGoogleFormsから参加申し込みして頂いた方へ、イベント3日前までに当日の参加URLをお送り致します。)9月30日締切
<https://forms.gle/ZN47b3HwEr3n1Lg7>



担当:社会学部 社会福祉学科 川原 恵子 講師



東洋大学 ボランティア支援室
TEL : 03-3945-7927
MAIL : mlvolsup@toyo.jp

ボランティア入門講座

ボランティアについて、参加者同士交流しつつクイズを交えながら楽しく学ぶオンラインセミナーです。
ボランティアが「何かちょっと気になっている」というくらいの感覚で参加していただいても構いません。気軽に気持ちで参加してみてくださいね。

講師紹介



日比野 勲
(Hibino Isao)

ボランティアコーディネーター
(東洋大学ボランティア支援室、多摩大学
学生社会ボランティアコーディネーター)
東京工科大学 非常勤講師
八王子市市民活動支援センター「広報紙
「SUPPORT802」」編集長



渡邊 蛸部
(Watanabe Kate)

東洋大学 総合情報学部4年
TOP 東北応援プロジェクト 代表
役員・副総務長
GYOSOMON ネットアップ/パサダー
NPO法人AETHIC インターン 地域ベンチャー 留学
東洋大学ボランティア支援室 サポートスタッフ



杉本 昂照
(Sugimoto Takaki)

東洋大学 経営学部3年
生団体おりがみ 代表
Earth Light Project実行委員会 事務局員
上野夏祭り復活プロジェクト実行委員会
東洋2020パラリンピック観大ランナー
東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ

日時:2021年10月7日(木) 13:00-14:30
会場:オンライン
参加申込:「mlvolsup@toyo.jp」に氏名、学部学科学年、講座を通して知りたいことがあれば記載してお送りください。

お問合せ先:東洋大学エクステンション課
03-3945-7927 mlvolsup@toyo.jp
〒113-0021 東京都文京区本町1-10-2南水会館1階



食品微生物制御学 公開講座
食品ロス削減と保存料～SDGs目標12の推進～

調味料・甘味料・着色料・保存料などの食品添加物(以下、添加物)には「体に悪い」というイメージがありますが、食品の加工や風味、腐敗などへの対応のためにはある程度の使用は必要です。添加物の安全性は、添加の有無ではなく、どの程度入っているのかによって決まります。最近ではSDGs12のゴールにもあります食品ロスの対応として、食品の消費期限の延長等にも欠かせない要件となります。この講義では、添加物メーカーの専門家を招き、添加物の基礎知識、添加物の安全性等についてお話しいただき、添加物に関する誤った情報に惑わされることなく、科学的に考えることができるよう学習をします。

日時:10月8日(金) 5限(16:40-18:10)
講師:藤原 宏子氏
(株式会社ウエノフードテクノ)
参加方法:webex/zoomにて実施
事前申込制:(下記のGoogleFormsから参加申し込みして頂いた方へ、イベント3日前までに当日の参加URLをお送り致します。)10月1日締切
<https://forms.gle/REsdyY3HzGDQybcFA>



担当:環境学部 食環境学科 佐藤 順 教授



東洋大学 ボランティア支援室
TEL : 03-3945-7927
MAIL : mlvolsup@toyo.jp

東洋大学SDGs Weeks 2021



子ども支援論/児童福祉論B 公開講座 「子どもの貧困への挑戦 —社会的養護の現場での取り組みから考える—」

この公開講座ではSDGsと貧困の撲滅への取り組みを考えるにあたって、人生の最初に経済的のみならず、様々な経験や関係において貧困ななかで苦しむ子どもたちの暮らしに立ち向かう児童福祉現場での挑戦がどのように行われているのかを学びたいと思います。講師は児童養護施設で家庭復帰のために日々子どもと保護者の間での調整に奮闘されており、また実践のみならず、問題を子どもの権利の視点から解決するために、本学社会福祉学研究所博士後期課程で研究もされています。児童養護施設で過ごす子どもたちを取り巻く環境や貧困の連鎖を断ち切るための取組等をお話しいただき、日本の子どもの貧困の表出の仕方、社会的養護施設での暮らしと回復の支援について学び、自分たちができることを考えます。

日時：10月12日(火) 6限(18:45-19:45)【第2部】
10月13日(水) 4限(15:15-16:15)【第1部】
講師：林 知然氏(児童養護施設：東京家庭学校家庭支援専門相談員)
参加方法：WebexMeetingsにて実施
※この授業は事前にオンデマンド(youtube)にて講義を受講し、当日は担当教員(児童福祉論B 担当森田明美)、講師および受講者でディスカッションや質疑応答を行います。
事前申込制：(下記のGoogleFormsから参加申し込みして頂いた方へ、イベント2日前までに当日の参加URLをお送り致します。) **10月5日締切**
申込： <https://forms.gle/KFmAynERrEvN8MRU7>



担当：社会学部 社会福祉学科 森田 明美 教授



東洋大学 ボランティア支援室
TEL : 03-3945-7927
MAIL : mlvolsup@toyo.jp

東洋大学SDGs Weeks 2021



子ども支援学演習ⅢB/IVB 公開講座 「SDGsカードゲームを通じてSDGs×人権を学ぶ」

- SDGsの概略・背景に関するレクチャー(10分)、カードゲーム「2030SDGs」体験(1グループ3人、40分)、振り返り(40分)を通じて、SDGsがターゲットとする人類全体に影響を及ぼす地球規模の問題(貧困、不平等・格差、気候変動等)について、人権の視点から理解を深めます。
- 本講座を受けることで、SDGsを自分事として捉えられるようになり、参加者1人1人が、SDGsの達成に向けて、自己の行動変容を促せるようになります。
- SDGsと日常生活のつながりを今一つ実感できていない人、何かをしたいが何をしたらいいかわからない人、自分を変えたい人、事前の知識や経験は一切必要ありません。リラックスしてご参加ください!

日時：10月13日(水) 1限(9:00-10:30)
対象：東洋大学学生(学部・学年は問いません)
会場：赤羽台キャンパス WELLB HUB-2 4階 20402教室
感染対策の観点から参加人数に対して十分な広さの教室となっています。各グループの間隔を空け、アルコール消毒・常時換気を行います。
講師：吉田 省三氏(株式会社エス・イー・アイ 代表取締役)
参加方法：「対面方式」
事前申込制：定員25名(下記のGoogleFormsから参加申し込みして頂いた方へ、イベント3日前までに当日の入構証をお送り致します。) **10月7日締切**
<https://forms.gle/Ym3KB5zRBUsyL4cv8>



担当：ライフデザイン学部 生活支援学科 内田 塔子 准教授



東洋大学 ボランティア支援室
TEL : 03-3945-7927
MAIL : mlvolsup@toyo.jp

東洋大学SDGs Weeks 2021



教育学演習ⅡB/教育学演習ⅢB/教育学卒論演習B 公開講座 知的障害特別支援学校におけるICTの活用 —読む、聞く、話す、書くへの支援—

学校教育ではGIGAスクール構想が進められており、タブレットといった「1人1台端末環境」も急速に整備されています。
教育現場でICTの活用に関する助言や指導をされているNPO法人支援機器普及促進協会の高松崇氏をお招きし、特別支援学校(知的障害)でのICTの活用についてお話しをしていただきます。とくに、今回は知的障害のある児童生徒にどのようにICTを活用して、読む、聞く、話す、書くといった学習支援を行うのかについてお話していただきます。
参加学生は、事前にスマートフォンやタブレットにアプリをインストールし、実際に体験しながら、知的障害教育におけるICTの活用の可能性や課題について探求します。

日時：10月19日(火) 5限(16:30-18:00)
講師：高松 崇 氏 (NPO法人支援機器普及促進協会)
参加方法：webex/zoomにて実施
事前申込制：(下記のGoogleFormsから参加申し込みして頂いた方へ、イベント3日前までに当日の参加URLをお送り致します。) **10月12日締切**
<https://forms.gle/8GdjHytdKDJ2JN17>



* 授業受講者は申し込み不要

担当：文学部 教育学科 高野 聡子 教授



東洋大学 ボランティア支援室
TEL : 03-3945-7927
MAIL : mlvolsup@toyo.jp

東洋大学SDGs Weeks 2021



CSR論/環境コミュニケーション論 公開講座 『企業と人権』～SDGsと人権について学ぼう～

企業活動の発展は社会全体の発展が前提である、という考えから、社会全体への責任として、CSR(企業の社会的責任)の適切な実施が求められています。そのガイドラインとして国際規格ISO26000が2010年に制定されました。日本語版としては、JIS Z 26000「社会的責任に関する手引」が2012年3月に制定されました。

近年では2015年9月の国連サミットで採択された国際目標としてのSDGs(持続可能な開発目標)を取り込む動きもあります。

本講義ではこのことも踏まえて多くの企業のCSR実務に取り組まれている秋山講師に講演をお願いします。ぜひご参加ください。

日時：10月26日(火) 1限(9:00-10:30)
講師：秋山映美氏(株式会社クレアン)
参加方法：WebexMeetingsにて実施
事前申込制：(下記のGoogleFormsから参加申し込みして頂いた方へ、イベント3日前までに当日の参加URLをお送り致します。) **10月20日締切**
<https://forms.gle/tAKCsmDJPSQ4Wj4P9>



担当：総合情報学部 総合情報学科 小瀬 博之 教授



問合せ先：ボランティア支援室
Tel 03(3945)7927
E-Mail mlvolsup@toyo.jp

学生の皆さんへ



Hands to Hands 2021 秋

-みんなで乗り越える、コロナ禍-



敷島製パン(株)からのご支援！ 学生の皆さんにパンをお配りします

新型コロナウイルスはまだ収束の気配が見えていません。
収入の減少が続き、生活に不安をお持ちの方が多くいらっしゃるかと思
います。
この度、パスコでおなじみの敷島製パン(株)よりパンのご支援をいただ
きます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。
※こちらのイベントにつきましては予約不要です。

日時【予定】

白 山: 2021年11月9日(火) 12:00~13:00 17:15~18:15
【場所: 6号館1階学生支援課前】
2021年11月10日(水) 12:00~13:00
【場所: 1号館1階エレベーターホール】
川 越: 2021年11月10日(水) 12:30 ~ なくなるまで
【場所: 4号館1階入試インフォメーションコーナー前】
板 倉: 2021年11月10日(水) 14:50~ なくなるまで
【場所: 板倉事務課】
赤羽台: 2021年11月9日(火) 12:00~13:00
【場所: WELLB1階のエントランスホール(学食前)】

☆物資がなくなり次第終了となります☆

- ・麦のめぐみ3枚
- ・麦のめぐみイングリッシュマフィン2個入



※エコバッグを必ず持参してください。
※多くの学生さんへ支援を行うため、一人当たりの受取回数を調整させて
いただくことがあります。

2021年度 ボランティア支援室 資料・記録

ボランティア支援室 ガイダンスの実施

ボランティア支援室では、学生のボランティア意識向上を図るため、授業単位でボランティア支援室のコーディネーターによるガイダンスを実施した。

2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、春学期は「対面」での授業が中止となり、「Web」を用いたガイダンスが中心となった。

概要は以下のとおり。

1. 実施コース

- | | | |
|------|--------------------------------|-----------|
| A. | 概要説明・ワーク（注）・白山キャンパスボランティア支援室見学 | 90分コース |
| B. | 概要説明・ワーク（注） | 60～90分コース |
| C-1. | 概要説明 | 30分コース |
| C-2. | 概要説明 ※映像によるガイダンス | 30分コース |
| D. | Web紹介動画の利用（YouTube動画でのご案内） | 30分程度 |
- （注）ワークはディスカッション等を行います

2. 実施日時

授業期間に授業単位での実施

3. 申込方法

- ① ボランティア支援室サイト内のお申し込みフォームにご入力
 - ② 別紙の「ボランティア支援室ガイダンス申込書」に必要事項をご記入の上、ボランティア支援室（白山キャンパス・雨水会館1階）に電子メールまたは直接提出
- ①②のいずれかの方法でお申込ください。

4. 実施実績（2021年度）

14件（4月…1件、5月…6件、6月…3件、7月…3件、11月…1件）

5. 受講者の感想（抜粋）

- ・ボランティア活動というのはやはり敷居が高く感じてしまう。しかし、今回の講義でボランティア活動は誰にでもできる活動であるというのを再認識した。
- ・ボランティアと奉仕活動の違いについて理解を深めることができました。また、ボランティアを始める理由はどんな理由でも良いと感じました。
- ・無理なくボランティア活動を続けるためには、自分が楽しいことや興味のあることを選ぶことが大事だと感じました。
- ・奉仕活動とボランティア活動はなんとなく同じようなものだと思っていました。違いが分かってよかったです。
- ・大学生は自分が想像していた以上に能動的に活動するチャンスがたくさんあることを気付かされました。

東洋大学ボランティア支援室要項

平成 29 年要項第 3 号・平成 29 年 4 月 1 日施行

東洋大学ボランティア支援室要項

(設置)

第 1 条 東洋大学社会貢献センター規程第 4 条第 4 項に基づき、社会貢献センターに「東洋大学ボランティア支援室」(以下「ボランティア支援室」という。)を置く。

(目的)

第 2 条 ボランティア支援室は、本学で実施する学生及び教職員によるボランティア活動に関する支援策の策定、情報収集、発信及び提供することを通じて、本学の社会貢献活動の発展に寄与することを目的とする。

(機能)

第 3 条 ボランティア支援室は、学生支援課をはじめ各部署が所管するボランティア活動と相俟って相互に連携及び協力するとともに、全学的な統括部署としての機能を有する。

(業務)

第 4 条 ボランティア支援室は、第 2 条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) ボランティア支援室の方針及び計画の策定に関する事項
- (2) ボランティア活動の開拓及び実施に関する事項
- (3) ボランティア活動に関する情報の収集、管理及び提供に関する事項
- (4) ボランティアに係る相談、助言及び支援策に関する事項
- (5) 学外ボランティア関係機関等からの紹介及び連絡調整に関する事項
- (6) その他ボランティア支援室の目的達成に必要な業務

(室長)

第 5 条 ボランティア支援室に、室長を置く。

- 2 室長は、社会貢献センター長とし、ボランティア支援室の業務を統括し、ボランティア支援室を代表する。

(副室長)

第 6 条 ボランティア支援室に、副室長を置くことができる。

- 2 副室長は、本学の専任教授のうちから、室長及び学長の推薦により、理事長が任命する。
- 3 副室長は、室長を補佐するとともに、室長に事故があるとき又は室長が欠けたときは、室長の職務を代理し、又は代行する。
- 4 副室長の任期は 2 年以内とし、室長の任期満了とともに終了する。ただし、再任を妨げない。

(専門スタッフ)

第 7 条 ボランティア支援室に、ボランティア支援活動に従事する者として、専門スタッフを配置する。

- 2 前項のスタッフの任用及び職務等については、別に定める。

(運営委員会)

第8条 ボランティア支援室に、運営委員会を置く。

(運営委員会の組織)

第9条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 室長及び副室長
- (2) 社会貢献センター運営委員会委員（通信教育部長を除く。）から互選した者 若干名
- (3) 室長が推薦する者 若干名
- (4) 学生部長
- (5) 教務部長

(委員の任期)

第10条 前条第2号及び第3号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、任期の途中で委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

(審議事項)

第11条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) ボランティア支援室の基本方針
- (2) ボランティア支援室の業務計画に関する事項
- (3) 学長から諮問された事項
- (4) その他ボランティア支援室に関する重要事項

(議長)

第12条 運営委員会は、室長が招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第13条 議長は、必要に応じ、委員以外の者を運営委員会に出席させ、その意見を聴くことができる。

(専門部会)

第14条 運営委員会は、専門的な事項について調査審議するほか、ボランティア支援室業務に係る企画立案等の作業を支援するため、専門部会を置く。

2 専門部会について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて室長が定める。

(業務計画)

第15条 室長は、当該年度の10月末日までに次年度の業務計画を定め、学長の承認を受けなければならない。

- 2 室長は、各年度の業務の実施結果について、当該年度終了後1カ月以内に、学長に報告しなければならない。
- 3 業務計画を変更する場合は、学長の承認を受けなければならない。

(評価委員会)

第 16 条 ボランティア支援室が実施したボランティア活動等業務内容を評価し、その活動内容について室長に適切な助言をするために、評価委員会を置く。

2 評価委員会の運営及び評価方法に関する必要事項は、別に定める。

(事務)

第 17 条 ボランティア支援室の事務は、学生支援課その他関係部署と連携協力のうえ、エクステンション課が行う。

(細則)

第 18 条 この要項の実施について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて室長が定める。

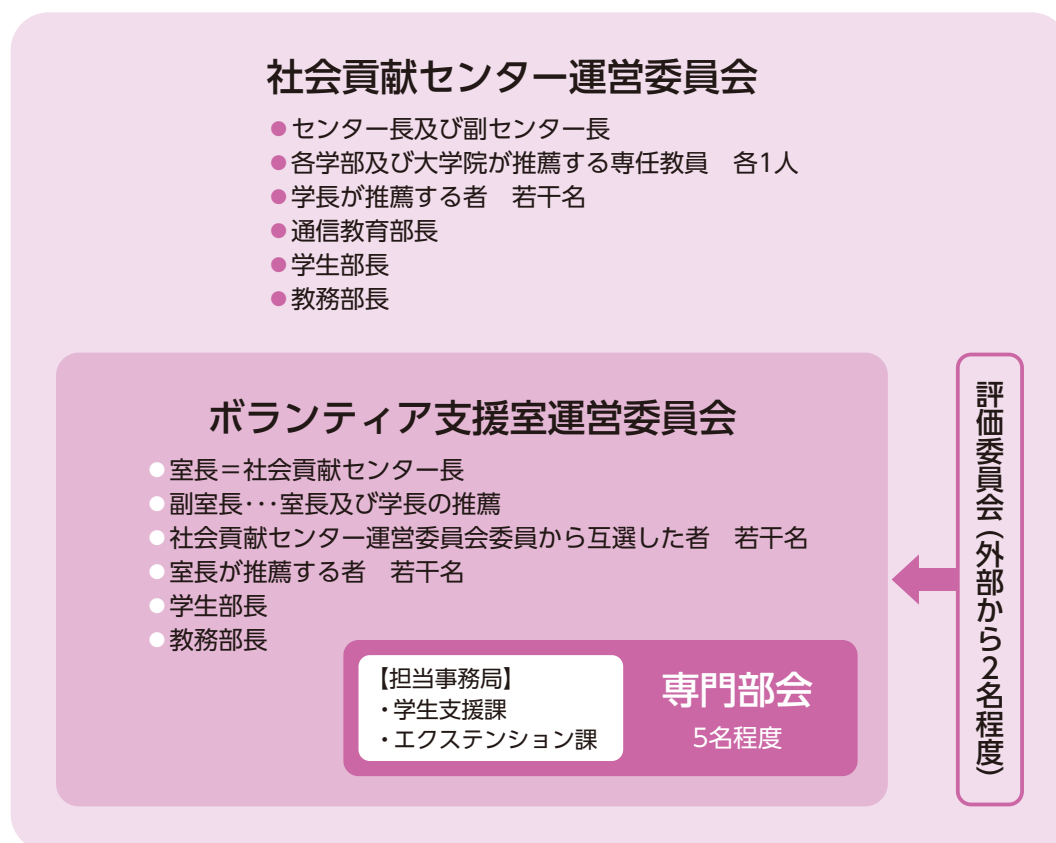
(改正)

第 19 条 この要項の改正は、学長が室長の意見を聴いて行う。

附 則

この要項は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

組 織 図



ボランティア支援室運営委員会委員名簿

所属キャンパス	所 属	氏 名
白 山	室 長	森 田 明 美

東洋大学ボランティア支援室要項第5条による
 (任期：2021年4月1日～2022年3月31日)
 ※森田教授は2022年3月31日で定年退職のため、1年間の委嘱

所属キャンパス	所 属	氏 名
白 山	文 学 部	堀 本 麻由子
白 山	社 会 学 部	高 山 直 樹

東洋大学ボランティア支援室要項第9条2号による
 (任期：2021年4月1日～2023年3月31日)

所属キャンパス	所 属	氏 名
白 山	室 長 推 薦 (文学部)	高 野 聡 子
白 山	室 長 推 薦 (法学部)	谷 釜 尋 徳
川 越	室 長 推 薦 (総合情報学部)	小 瀬 博 之
赤羽台	室 長 推 薦 (ライフデザイン学部)	内 田 塔 子

東洋大学ボランティア支援室要項第9条3号による
 (任期：2021年4月1日～2023年3月31日)

所属キャンパス	所 属	氏 名
白 山	学 生 部 長	早 川 和 宏

東洋大学ボランティア支援室要項第9条4号による
 (任期：2020年4月1日～2022年3月31日)

所属キャンパス	所 属	氏 名
白 山	教 務 部 長	東海林 克彦

東洋大学ボランティア支援室要項第9条5号による
 (任期：2020年4月1日～2022年3月31日)

専門部会委員名簿

所属キャンパス	所 属	氏 名
白 山	室 長 推 薦 (文学部)	高 野 聡 子
白 山	室 長 推 薦 (法学部)	谷 釜 尋 徳
川 越	室 長 推 薦 (総合情報学部)	小 瀬 博 之
赤羽台	室 長 推 薦 (ライフデザイン学部)	内 田 塔 子

(参考) 東洋大学 4キャンパスの学部配置

キャンパス	特 徴
白山 (東京都)	文系7学部 (文、経済、経営、法、社会、国際、国際観光) 特に社会学部や国際学部、国際観光学部でボランティア活動が盛んに行われている。 また、ボランティアサークルも多数存在。
川越 (埼玉県)	理系2学部 (理工、総合情報) キャンパスと地元 (鶴ヶ島市、川越市) との連携して正課内外で多くの活動が行われている。
板倉 (群馬県)	理系2学部 (食環境科、生命科) 学部の特色を活かした地域への貢献活動を中心に展開されている。
赤羽台 (東京都)	情報連携学部、ライフデザイン学部 情報連携学部：2017年に新設された新しい学部 ライフデザイン学部：2021年に朝霞より移転。こども支援や健康スポーツ等学科の学びは広く、それぞれにボランティア活動も行われている。

2021年度 ボランティア支援室専門部会活動記録

● 第1回：2021年4月21日（水）【書面会議】

審議事項

- ①SDGs認知度調査について
- ②TOYO SDGs学生アンバサダー制度について
- ③「Hands to Hands 2021ーみんなで乗り越える、コロナ禍ー」について

報告事項

- ①SDGs活動計画について
- ②東洋大学生がワークショップで考えるSDGs～15年前の世界と未来（2030年）の世界を考えよう～（オンライン開催）
- ③ボランティア支援室 ガイダンス申し込み状況
- ④2021年度ボランティア支援室運営委員会・専門部会について

● 第2回：2021年5月11日（火） 10:40～12:10

審議事項

- ①学生課外活動育成会費によるボランティア支援室企画について
- ②東洋大学学生団体による社会貢献活動プロジェクトに対する助成事業選考【追加】について
- ③2021年度ボランティア支援室企画について
- ④「Hands to Handsプロジェクト 2021」の実施について
- ⑤SDGs認知度アンケート「あなたのSDGs」実施について
- ⑥TOYO SDGs アンバサダー制度について
- ⑦ボランティアに関する意識調査2021について

報告事項

- ①ボランティア支援室利用状況報告
- ②ボランティア支援室企画報告
- ③「社会教育実習」受け入れについて

● 第3回：2021年7月6日（火） 10:40～12:10

審議事項

- ①ボランティア支援室企画について
- ②SDGsアンバサダー制度申込状況について
- ③ボランティアに関する意識調査2021について
- ④「社会教育実習」受け入れについて（口頭報告）

報告事項

- ①ボランティア支援室利用状況報告
- ②ボランティア支援室企画報告
- ③東洋大学学生団体による社会貢献活動プロジェクトに対する助成事業選考【追加】結果について
- ④「Hands to Handsプロジェクト 2021」の状況について
- ⑤SDGs認知度アンケート「あなたのSDGs」報告

● 第4回：2021年9月17日（金） 10:40～12:10

審議事項

- ①2022年度ボランティア支援室予算について
- ②課外活動育成会企画について
- ③ボランティア支援室企画について

報告事項

- ①ボランティア支援室利用状況報告
- ②ボランティア支援室企画報告
- ③ボランティアに関する意識調査2021について（口頭報告）
- ④その他

● 第5回：2021年11月18日（木） 16:30～18:00

審議事項

- ①2021年度東洋大学SDGs Weeks企画について

- ②課外活動育成会企画について
- ③ボランティア支援室企画について
- ④社会貢献活動助成・社会貢献活動表彰募集について
- ⑤その他

報告事項

- ①ボランティア支援室利用状況報告
- ②ボランティア支援室企画報告
- ③【各種活動報告】
 - ・「Hands to Hands」プロジェクト（経過報告）
 - ・課外活動育成会企画「デイキャンプで遊ぼう」
 - ・SDGs Weeks 中間報告

● 第6回：2022年1月27日（木） 16:30～18:00

審議事項

- ①・2021年度「社会貢献活動に対する表彰制度」
 - ・2022年度「社会貢献活動等奨励プロジェクト助成制度」
 - ・「SDGs コンテスト」採点について
- ②【各種活動企画】
 - （課外活動育成会）
 - ・「南三陸の若者と東洋大学生が考える被災地支援」
 - ・「いわき市の農漁業の現状を発信するスタディツアー」
 - ・「2022 防災オンラインワークショップ」
 - （支援室企画）
 - ・「東洋大生がワークショップで考えるSDGs～教育現場からジェンダーを考えてみよう～」
 - ・「ボランティアカフェ」
- ③その他
 - ・2021年度外部評価について
 - ・2022年度SDGs 関連企画について

報告事項

- ①ボランティア支援室利用状況報告
- ②【各種活動報告】
 - ・「学生課外活動育成会」 「福島県の子どもに寄り添うプログラム」
 - ・「ボランティアカフェ（SDGs）」
 - ・「Hands to Hands」プロジェクト（最終報告）
 - ・「東洋大生がワークショップで考えるSDGs【オンライン】」
 - ・「海を守るのは君だ!」～家から参加できるSDGs ボランティア～
- ③その他

● 第7回：2022年3月16日（水） 15:45～16:30

審議事項

- ①各種事業
 - ・2022年度「社会貢献活動等奨励プロジェクト助成制度」について
 - ・2021年度SDGs 活動報告
 - ・2021年度SDGs アンバサダー活動報告について
 - ・2021年度外部評価について
- ②各種活動企画
 - ・「ボランティアカフェ」
 - ・「“学び”LIVE 授業体験」における SDGs の取り組みについて※入試課への協力

報告事項

- ①ボランティア支援室利用状況報告
- ②【各種活動報告】
 - ・「海を守るのは君だ!」～家から参加できるSDGs ボランティア～
 - ・防災オンラインワークショップ「地震、火災、風水害、そしてコロナ～複合災害、どう備える?～」
 - ・南三陸の若者と東洋大学生が考える被災地支援
 - ・東洋大生がワークショップで考えるSDGs～教育現場からジェンダーを考えてみよう～
 - ・SDGs コンテスト（最終報告）
- ③その他

東洋大学ボランティア支援室に対する外部評価結果

(東海大学健康学部健康マネジメント学科講師 市川 享子氏)

I 判定 (S~C) : A

S : ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標の達成が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。

A : おおむね、ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標がほぼ達成されている。

B : ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成がやや不十分であり、改善すべき点がある。

C : ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多く、抜本的な改善が求められる。

II 総評

年間を通して新型コロナウイルスの感染拡大の影響が続いていたが、着実にボランティアセンター活動を継続・発展させている。ボランティア支援室と多様な専門分野の教員との連携が進み、各教員の専門性やネットワークを生かした企画や講座が広がり、学生にとっては魅力的なプログラムとして充実している様子が伺える。ボランティア支援室が継続的に取り組む東日本大震災支援についても、震災発生から10年以上が経つ状況において、コロナ禍で制約を受けながらも多機関とも連携しながら継続できていることも高く評価できる。上記も含めて、ボランティア支援室で重点的に取り組むことと、整理することの仕分けが効果的に進み、良い意味でスクラップ&ビルドができているともいえる。

教員との連携やオンライン環境の活用により、白山キャンパス以外の学生の参画機会も進み、ボランティア支援室の使命が学内でより浸透している様子が伺える。

III 概評及び提言

1 理念・目的

〈概評〉

① ボランティア支援室の目的を適切に設定しているか。

「地域社会の一員としての大学の責任」「他者のために自己を磨く」というボランティア支援室の目的達成に向けて進められている。活動内容で多様であり社会的ニーズに即した形で進められる。

一方、東洋大学らしさ、貴学独自のボランティア支援室の理念と機能についてはやや見えづらいともいえる。教職員や学生、地域関係者などが立場を越えながら、ボランティア支援室の使命や未来を出し合い創造することで、より地域に根付いた大学として定着・発展できると期待している。

② ボランティア支援室の目的を明示し、社会や学内と共有しているか

ボランティア支援室の各プログラムが目指す価値や理念がメッセージとして明確に発信されていることは貴学ボランティア支援室の強みである。今後は学生や地域関係者からも発信することにより、より学生や社会等と広くボランティア支援室の目的を明示し共有できるのではないかと期待している。

③ ボランティア支援室の目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

「社会的課題に対応したボランティアの推進」「ボランティアマインドの涵養」など、現代社会の課題やニーズに応じた中長期計画が策定されている。また「地域連携プラットフォームに基づく東京都北区との連携推進」も含めて、高齢化・人口減少社会における新しい大学の使命と役割として先進的モデルとなることを大いに期待したい。

〈提言〉

長所

- ・ コロナ禍で課外活動の制約があったものの教員のボランティア支援室への参画が進み学内でボランティアや社会貢献の価値が浸透してきている。特にSDGs Weeksなどは学部／教員とボランティア支援室の協働の好例といえる。
- ・ 現代社会の課題やニーズを捉えた先進的な中期ビジョンが策定されており、今後の地域に開かれた大学モデルとして実践、社会貢献における発展が期待できる。

改善課題

- ・ 多様なテーマとリソースパーソンによる活動が展開されており充実している。コロナ禍による制約もあるのかもしれないが地域の人々とのつながりによる活動の様子が見えづらい。屋外を活用したり、活動時間の短時間にするなどの感染への配慮をするなどの工夫をおこないながらも「つながり」を途切れさせない工夫を期待したい。
- ・ 「ボランティアスピリットの涵養」というボランティア支援室の使命を鑑みると、ボランティア支援室の活動がプログラム提供型にやや傾斜している。学生自身の自発性やリーダーシップが発揮・伸長されるような関与についても検討を期待したい。
- ・ 多様な活動報告やまとめがされている一方、ボランティア支援室関係者による自己評価がやや見えづらい印象がある。今後の更なる発展のためには、貴学の建学の精神や教育理念に基づいたボランティア支援室としてのアイデンティの確立と短期的・中期的に振り返る内省とそれに基づく改善の軌跡が可視化されるとさらによいと思われる。

以 上

2021年度版

東洋大学 ボランティア支援室年報

発行 2022年7月1日

東洋大学 ボランティア支援室

〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 甫水会館1階

TEL:03-3945-7927 FAX:03-3945-7601

